

山口大学大学院東アジア研究科

博士論文

ベトナム語の複合動詞
—日本語との対照を通して—

令和2年3月

ドー ティ スアン トゥー
DO THI XUAN THU

目次

序論	1
1 はじめに	1
2 論文の構成	2
第1章 日本語の複合動詞の概要	4
1.0 概要	4
1.1 日本語の複合動詞の定義と分類	4
1.2 彙的複合動詞と統語複合動詞語の区別	5
1.3 日本語の語彙的複合動詞	12
1.3.1 手段結果複合動詞	12
1.3.2 並立関係複合動詞	13
1.3.3 様態・付帯状況複合動詞	14
1.3.4 原因結果複合動詞	14
1.3.5 補文関係複合動詞	15
1.3.6 語彙的複合動詞の結合条件	17
1.4 まとめ	17
第2章 ベトナム語の概要	19
2.0 概要	19
2.1 ベトナム語の歴史	19
2.2 ベトナム語の分布	19
2.3 ベトナム語の音韻	19
2.3.1 ベトナム語の母音	19
2.3.2 ベトナム語の子音	20
2.3.3 ベトナム語の声調	21
2.4 ベトナム語の語彙	23
2.4.1 ベトナム語の単語と複合語の構成構造	23
2.4.2 ベトナム語の複合語の種類	25
2.4.2.1 並立複合語	25
2.4.2.2 主従複合語	27
2.5 ベトナム語の文法	28
2.5.1 ベトナム語のアスペクト	30
2.5.2 ベトナム語の他動詞と自動詞の特徴	31
2.6 まとめ	31
第3章 ベトナム語の複合動詞の分類	32

3.0 概要	32
3.1 先行研究における複合動詞の分類.....	32
3.1.1 Nguyen Kim Than の分類.....	32
3.1.2 Tran Thi Chung Toan の分類	45
3.2 筆者の複合動詞の分類.....	48
3.3 まとめ	51
第4章 日本語とベトナム語の複合動詞の対照研究.....	53
I 概要.....	53
II 日本語とベトナム語の手段結果複合動詞の対照研究	53
4.0 概要	53
4.1 日本語の手段結果複合動詞の構成構造.....	54
4.2 日本語とベトナムの働きかけ動詞と使役他動詞.....	54
4.2.1 日本語とベトナム語の働きかけ動詞.....	54
4.2.2 日本語とベトナム語の使役他動詞.....	56
4.2.2.1 日本語の使役他動詞.....	56
4.2.2.2 ベトナム語の使役他動詞.....	57
4.2.2.3 ベトナム語の手段結果複合動詞の構成構造.....	58
4.3 日本語とベトナム語の手段結果複合動詞の対照.....	61
4.4 まとめ	62
III 日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の対照研究	63
4.1 日本語の並立関係複合動詞の特性.....	63
4.2 日本語の並立関係複合動詞の構成構造の制約.....	65
4.2.1 「類義語」の制約.....	65
4.2.2 「活動動詞と活動動詞」の制約.....	67
4.3 ベトナム語の並立関係複合動詞.....	68
4.3.1 ベトナム語の並立関係複合動詞の定義.....	68
4.3.2 ベトナム語の並立関係の構成構造.....	70
4.3.2.1 「類義語」の組み合わせ.....	70
4.3.2.2 「無意味形態素」を含む組み合わせ.....	71
4.3.2.3 「対義語」の組み合わせ.....	72
4.4 日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の対照.....	73
4.4.1 日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の形態的緊密性.....	73
4.4.2 日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の意味関係の組み合わせ	82
4.4.2.1 V1 と V2 の「類義語」の組み合わせ	82

4.4.2.2 語彙的アスペクトに関する V1 と V2 の組み合わせ	83
4.4.2.2.1 「変化動詞+変化動詞」の組み合わせ	85
4.4.2.2.2 「活動動詞+活動動詞」の組み合わせ	85
4.4.2.2.3 「使役他動詞+使役他動詞」の組み合わせ	87
4.4.2.3. V1 と V2 の「対義語」の組み合わせ	88
4.5 まとめ	91
IV 本章のまとめ	92
第5章 まとめと残された問題	93
5.1 まとめ	93
5.2 残された問題	97
参考文献	98
謝辞	104

略語

LCS	語彙概念構造
C	CHAP 動詞
A1	並立關係(1)
A2	支配關係
A3	行為結果
A4	關係動詞+名詞
P1	重複語
P2	強意
P3	並立關係(2)
V1	前項動詞
V2	後項動詞
CONJ	接統詞

序論

1 はじめに

日本語もベトナム語も共に、動詞と動詞が結合した複合動詞が存在している。しかし、両者の複合動詞には共通点だけではなく、相違点もある。そのため、両言語を対照することによって、両言語の複合動詞の詳しい異同が理解できる。

現在まで、日本語とベトナム語の複合動詞を対照した研究は、ベトナム語では Tran Thi Chung Toan (2002)の『日本語の複合動詞—ベトナム語に対応する表現—』のみである。しかし、この研究では、単純に日本語の複合動詞はベトナム語でどのような単語、あるいは句に置き換えられるかしか示していない。また、日本語の複合動詞はどのような規則に基づいて、構成されているかを考察した上で、ベトナム語と体系的に対照した研究ではない。つまり、Tran Thi Chung Toan (2002)の研究は、個別の語彙対応の羅列にとどまっており、両言語の複合動詞の体系に関しては明らかにしていない。

日本語では、働きかけと同時に状態/位置変化の結果も含意する単純動詞「殺す」、「倒す」などをベトナム語では複合動詞で「“giết chết” (殺す)」、「“chặt đổ” (倒す)」と表す。このように日本語で、1語で表す言葉をベトナム語では複合動詞で表さなければならない。さらに、「叩き殺す」、「切り倒す」などのような日本語の複合動詞はベトナム語の複合動詞(「叩き殺す—*đánh giết chết」、「切り倒す—*cắt chặt đổ」)には存在しない。従って、このような現象を理解するために、本研究では、日本語の複合動詞と、筆者の母語であるベトナム語の複合動詞を研究対象とする。

日本人による研究では、日本語の複合動詞は語彙的複合動詞と統語的複合動詞の二つに分類されるということが、影山(1993)によって指摘されている。語彙的複合動詞は、後項動詞が助動詞的な役割を持たないのに対し、統語的複合動詞の後項動詞は、アスペクト等の助動詞的な機能を持っている。一方、ベトナム語の複合動詞には日本語の語彙的複合動詞に対応するものしかない。日本語の統語的複合動詞のアスペクトなどの助動詞に相当するものは、ベトナム語では機能詞である。

更に、日本語の語彙的複合動詞には構成素が他動性に関しては同一のものしか組み合わせられない「他動性調和の原則」がある。例えば、他動詞と他動詞「押し開ける、聞き直す」、非能格自動詞と非能格自動詞「歩き回る、動き回る」、非対格自動詞と非対格自動詞「こぼれ落ちる、崩れ落ちる」、非能格自動詞と他動詞「座り直す、出直す」、他動詞と非能格自動詞「探し回る、買い回る」という組み合わせになることである。つまり、日本語の語彙的複合動詞は「他動性調和の原則」の制限に従い、他動詞と非対格自動詞を結合することは許されない。

一方、ベトナム語の複合動詞は「他動性調和の原則」に従わず、他動詞は非対格自動詞と結合することが許される。例えば、「“đánh chết”*(叩き死ぬ)」、「“phá vỡ”*(打ち壊れる)」、「“đánh hỏng”*(叩き壊れる)」などのベトナム語の複合動詞は「他動性調和の原則」に当てはまらず、構成構造は「他動詞+自動詞」となる。日本語とベトナム語の複合動詞は語形成の原理が違うのである。

このように、本研究では日本語とベトナム語の複合動詞の共通点と相違点を明らかにすることを目的とする。

2 論文の構成

本論文は5章で構成する。

序論で、論文の概要と先行研究を示す。次は本論が対照とする研究と研究の目的である。

第1章は、「日本語の複合動詞の概要」である。日本語の複合動詞については多くの研究がなされている。代表的な研究として、寺村(1969)、姫野の一連の研究(1975、1976、1978、1980、1982)、などがあるが、これらの研究と異なり、影山(1993)は語形成の観点から複合動詞を「統語的複合動詞」と「語彙的複合動詞」の2種類に分類した。影山のこの分類は以後の研究の基となっている。

この章では、影山の説を基に日本語の複合動詞の特徴を述べる。そして、日本語の語彙的複合動詞と統語的複合動詞の共通点と相違点を概観し、日本語の並立関係、付帯状況、手段結果、原因結果、補文関係の語彙的複合動詞とその制約を確定する。

第2章は、「ベトナム語の概要」である。系統的にはベトナム語はオーストロアジアモン・クメール系言語のベトナム諸語に属すると解するのが一般的である。日本語と同様、ベトナム語にも複合語と複合動詞が存在する。

- | | | | |
|-------|----------|----------------|------|
| (1) a | nhà cửa | 家+戸、ドア=家屋 | 複合名詞 |
| b | học hành | 学ぶ + 実習する=学習する | 複合動詞 |

(1)a は複合名詞であり、(1)b は複合動詞である。(1)b の前項要素「“học”(学ぶ)」と後項要素「“hành”(練習する)」は共に動詞であり、結合して、複合動詞になっている。更に、前項要素が動詞(「“học”(学ぶ)」)なので、全体の構成構造は複合動詞と呼ばれる。

日本語の複合動詞との対比、すなわち共通点と相違点を検討できる可能性がある。

ベトナム語は形態変化をせず、統語的關係はもっぱら語順、機能詞によって表される。文の語順もベトナム語では重要である。ベトナム語の他動詞と自動詞は形式が同じであるため、文中の語順によって決まる。他動詞は目的語をとり、SVO 形式をとる。

第3章では、「ベトナム語の複合動詞」について検討する。Nguyen Kim Than (1977)の8種類のベトナム語の複合動詞には重複が多く、更に簡潔に分類することができると考えた

Tran Thi Chung Toan (2002) は、要素の役割の面と意味の構成の面に基づいて、複合動詞を並立関係と主従関係の二つに再分類した。

しかし、それらの主従関係は V1 が示す出来事は V2 が示す出来事に対してどのような役割を果たすか、どんな意味関係を持っているか明確でない。そのため、日本語の五つの分類のどれにも当てはまらない。

日本語の複合動詞とベトナム語の複合動詞が研究対象であるため、本論ではベトナム語の複合動詞の各種類の共通点から整理し、手段結果複合動詞と並立関係複合動詞の 2 種類に再分類した。日本語の複合動詞に対照すると、ベトナム語の複合動詞には様態・付帯状況複合動詞、原因結果複合動詞、補文関係複合動詞が存在しない。

第 4 章は、「日本語とベトナム語の複合動詞の対照」である。日本語と異なり、ベトナム語の複合動詞に付帯状況、原因結果、補文関係が存在しない。そのため、本章では日本語とベトナム語の手段結果複合動詞と並立関係複合動詞の対照をする。

日本語の手段結果複合動詞は構成素が他動性に関しては同一のものしか組み合わせられない「他動性調和の原則」があるが、ベトナム語では他動詞と非対格自動詞の組み合わせが許される。これ以外の組み合わせ「他動詞+他動詞」、「他動詞+非能格自動詞」などの組み合わせが許されない。

日本語の手段結果複合動詞は、複数の述語を一つの動詞に結合することが出来る「叩き殺す」などのように三つの意味的な述語「〈手段〉+〈使役〈結果〉」を合わせた一つの動詞となる。つまり、日本語の使役他動詞の使役を表す要素は顕在的に表示し、動作と同時に結果も含意する。例えば、使役他動詞「殺す」は「殺した」と同時に状態変化を表す結果動詞「死んだ」を含意する。「他動性調和」が起こるため、日本語の手段結果複合動詞の構成構造は「他動詞+他動詞」で、「他動性調和の原則」に従う。

一方、ベトナム語の手段結果複合動詞は二つの意味的な述語を「〈手段〉+〈結果〉」の位置に代入する。ベトナム語の他動詞「“giết” (殺す)」は「“giết” (殺す)」のみ表し、「“chết” 死んだ」の結果を含意しない。結果を表すために、状態変化動詞「“chết” 死ぬ」と結合し、「“giết chết” (殺す)」という手段結果複合動詞(使役他動詞)¹として扱う。「他動性調和」が起こらないため、ベトナム語の手段結果複合動詞は構成構造が「他動詞+非対格自動詞」となる。

第 5 章は、「結論」で、本論の見解をまとめた上、その展開の可能性と今後の課題を述べる。

¹ 使役他動詞は何らかの活動の結果、最終的な目標(状態)に至ることを意味する(cf.影山 1996:42)

第1章 日本語の複合動詞の概要

1.0 概要

日本語の複合動詞については多くの研究がなされている。代表的な研究として、寺村(1969)²、姫野の一連の研究(1975、1976、1999)³、などがある。しかし、これらの研究と異なり、影山(1993)は語形成の観点から複合動詞を「統語的複合動詞」と「語彙的複合動詞」の2種類に分類した。影山のこの分類は以後の研究の基となっている。従って、本章でも、影山(1993)の説(複合動詞の派生レベル)を基に日本語の複合動詞の特徴を概観する。

1.1 日本語の複合動詞の定義と分類

複合動詞とは、二つ以上の動詞が結合し、全体で一つの動詞のように機能するものである。「叩き壊す、踏み潰す」のような複合動詞においては、前項の動詞(V1—叩き、踏み)は連用形を取り、後項動詞(V2—壊す、潰す)と結合する。

影山(1993)は日本語の複合動詞を後項動詞(V2)の機能によって、統語的複合動詞と語彙的複合動詞の2種類に分けた。統語的複合動詞は後項動詞(V2)が補助動詞ないし助動詞的な機能を持ち、前項動詞(V1)を補文化する。例えば、「食べ終わる」は「食べることが終わる」と言い換えられ、V1がV2の主語になっている。それに対して、語彙的複合動詞は、V2が補助動詞機能を持たず、V1とV2が共同で複合し、1語としてのまとまりが強いという特徴がある。例えば「飲み歩く」は*「飲むことが歩く」と言い換えられない、V1とV2は共同で複合し、1語がまとまる。

更に、影山(2013: 3)は、影山(1993)を踏まえ、日本語の語彙的複合動詞と統語的複合動詞について、次のような定義を行っている。

語彙的複合動詞：

後項動詞(V2)が直接、前項動詞(V1)の連用形に結合する。すなわち、二つの語彙範疇が直接的に複合であるという点で「語彙的」である。

統語的複合動詞：

V2は、直接、V1の連用形に付くのではなく、V1を主要部とする補文(幾つかのレベルの動詞句)を取る。すなわち、統語的な句に付くという点で「統語的」である。(cf.影山 2013: 3-4)

(1) 泣きじゃくる (cf. 影山 2013: 4) 語彙的複合動詞

² 寺村(1969)は複合動詞の前項と後項を結合し、その複合動詞の意味と格要素の本来の意味がそのまま保持されているか、変わるかの観点から複合動詞を分類した。

³ 姫野の一連の研究(1975、1976、1999)は意味的側面に注目し、後項動詞の多義性に焦点を当て、分類した。

(1)を見ると「泣きじゃくる」の語彙的複合動詞は連用形「泣き」とV2「しゃくる」が直接複合する。V1「泣き」は辞書に登録された語であり、受身形、使役形、「VN(動詞的名詞)+する」などの統語的な操作を受けない*（「泣きされじゃくる」、「泣きさせじゃくる」）。それに対して、「判断始める」の統語的複合動詞は意味的・統語的条件に違反しない限り、このような統語的な動詞形式をV1に取って、「判断され始める」、「判断させ始める」のように表現できる。

このように、日本語の複合動詞には統語的複合動詞と語彙的複合動詞の2種類が存在する。次は語彙的複合動詞と統語的複合動詞語の区別について説明する。

1.2 語彙的複合動詞と統語的複合動詞語の区別

後項動詞が助動詞的か否かに基づいて、複合動詞を二つに分類する試みは長嶋(1976)を始めとして多くの論考に見られる。以下では日本語の複合動詞を語彙的な複合動詞と統語的な複合動詞に区別する根拠として、影山(1993)に従って説明しておく。

まず、影山の分類に従って、(2)A類の後項動詞が助動詞的な役割を持たないものと(2)B類の後項動詞が、アスペクト等の助動詞的な機能を持つものを挙げる。

- (2) A類：飛び上がる、押し開く、泣き叫ぶ、売り払う、受け継ぐ、飛び込む、(隣りの人に)話しかける、こびり付く、飲み歩く、歩き回る、踏み荒らす
 B類：払い終える、話し終わる、しゃべり続ける、食べ過ぎる、食べ損なう、助け合う、動き出す、食べかける、しゃべりまくる、走りぬく (cf.影山 1993:75)

影山(1993)はA類、B類いずれの複合動詞も語の形態的な緊密性を持つので、その内部に統語的な要素を挿入することは許されないとする。これらは語彙的複合動詞と統語的複合動詞の共通点である。次の(3)を見られたい。

- (3) A類:*飛びモ上がる、*泣きモ叫ぶ、*歩きモ回る (cf.影山 1993:76)
 B類:*食べモ続ける、*しゃべりモまくる、*食べモかける

(3)を見ると、「飛び上がる」のA類も「食べモ続ける」B類も形態的なまとまりを構成するから、二つの要素の間に統語的な要素(モ)を挿入することは許されない。「飛び上がる」、「食べ続ける」では「モ」そのため、A類もB類も1語であることが証明される。

更に、A 類も B 類も 1 語であることは、等位構造における削除に見られる。つまり、等位構造において、A 類と B 類の重出する表現を削除できない。次の(4)を見られたい。

- (4) A 類:*その夜、兄は神戸で飲み*(歩き)、弟は大阪で食べ歩いた。(cf.影山 1993:77)
B 類:*ちょうど同じ時に、姉は本を読み*(終え)、妹はレポートを書き終えた。

(4)を見ると、A 類、B 類共に、重出する表現(歩き、終え)を省略することは許されない。そのため、A 類も B 類も 1 語であることが証明される。

(4)の A 類の語彙的複合動詞も B 類の統語的複合動詞も 1 部に統語的な要素を挿入したり、1 部を削除したりすることは許されないという。典型的な語の特徴があるので、語彙的複合動詞も統語的複合動詞も一つの「語」を形成する。

A 類と B 類は共に複合動詞を構成している。そのため、両者を形態構造に基づいて区別することはできない。しかし、影山 (1993)は A 類と B 類の二つの複合動詞の意味的透明性と生産性に基づいて、区別した。以下に意味的透明性と生産性から見た A 類と B 類の違いを記す。

まず、A 類と B 類の意味的透明性に基づいて検討する。A 類複合動詞は意味の面で制限があり、二つの動詞の組み合わせから意味を類推することが難しい場合が多く、意味の慣習化が見られる。例えば、「飲み歩く」の場合、飲む対象は習慣的に酒類に限定されているように、複合動詞の意味の慣習化・語彙化が進んでいる。従って、A 類複合動詞の意味的透明性は低い。

一方、B 類複合動詞の V1 と V2 の意味関係から、複合動詞の全体の意味を判断することができる。例えば、「飲み始める」や「飲みなれる」は「飲むことを始める」や「飲むことになれる」を意味し、飲む対象は酒類に限らず、どんな液体でもよい。

次に、A 類と B 類の生産性に基づいて説明する。B 類複合動詞は V1 が V2 の主語や目的語となる、つまり補文関係をとる複合動詞である。例えば「食べ終わる」は「食べることが終わる」と言い換えられ、前項動詞が後項動詞の主語になっている。このタイプの V2 は、比較的自由に、どのような前項動詞とも結合することから造語力が強い。例えば「すぎる」は、「飲む」「作る」「勉強する」と結びついて「飲みすぎる」、「作りすぎる」、「勉強しすぎる」という複合動詞になる。

A 類複合動詞は V1 と V2 の意味関係は様々である。V1 と V2 はどのような動詞にも結合するわけではない。例えば「思い知る」とは言えるが、「?見知る、*聞き知る、*考え知る」は使われない。

このように、影山 (1993) は複合動詞の派生部門の違いに基づいて、複合動詞を分類した。A 類複合動詞は意味的透明性が低いので、辞書に登録する必要がある。更に、A 類複

合動詞は生産性も低い。語彙的な結合制限という「語」の特徴を備えている。そのため、A 類の複合動詞は語彙部門で派生され、語彙的複合動詞と呼ばれる。

これに対して、B 類複合動詞は生産性も、意味の透明性も高く、「語」より統語部門で形成される文や句に近い。従って、B 類は統語的複合動詞と呼ばれる。

更に、影山は意味的透明性と生産性のほかに、語彙的複合動詞と統語的複合動詞を区別するために、派生部門の特徴に基づいて、五つの統語的な要素を V1 に置き換えた。

①代用形「そうする」との置換

影山(1993)は、V1 を「そうする」という代用表現で置き換えた。A 類語彙的複合動詞の V1 は代用表現「そうする」で置き換えることができない。これに対して、B 類統語的複合動詞の場合は置き換えることができる。次の(5)を見られたい。

(5) A<語彙的な複合動詞> (cf.影山 1993:80)

遊ぶ暮らす→*そうし暮らす

押し開ける→*そうし開ける

B<統語的複合動詞>

太郎がまだ走っているのを見て、次郎もそうし続けた。

調べ終わる→そうし終わる

この違いは、「語彙照応の制約」(影山 1993:80)から見ると、よく理解できる。「語(複合語を含む)の 1 部分だけが文中の照応に参加することはできない」からである。A 類複合動詞の語彙的複合動詞は語彙部門で形成される語の 1 部分だけが文中の照応に参加することはできない。従って、(5)A の語彙的複合動詞の V1 を「そうする」という代用表現で置き換えることは許されない。一方、統語的複合動詞は統語部門で形成され、「語彙照応の制約」を受けないので、(5)B のように、V1 に「そうする」を置き換えることができる。

②主語尊敬語化

影山(1993)は、V1 だけに「お～になる」という主語尊敬語化ができるかどうか調べた。その結果、語彙的複合動詞の V1 は主語尊敬語化は許されないのに対して、統語的複合動詞の V1 は主語尊敬語化ができる。次の(6)を見られたい。

(6) A<語彙的な複合動詞> (cf.影山 1993:84)

ノートに書き込む→*お書きになり込む

手紙を受け取る→*お受けになり取る

B<統語的な複合動詞>

歌い始める→お歌いになり始める

しゃべり続ける→おしゃべりになり続ける

(6)のように、(6)A が成り立たないのは語彙的複合動詞が全体として一つの動詞なので、尊敬形式は V1 のみにつけることはできない。これは「語の形態的緊密性」から、予想できる。一方、(6)B のような統語的複合動詞は「歌うことを始める」、「しゃべることを続ける」という補文構造である。つまり、(6)B は統語的な補文構造であるので、V1 のみの尊敬語化が成り立つ。

③V1 の受動化

V1 だけに「受身形」という統語要素を編入してみると、語彙的複合動詞の V1 は受身形にできない。これに対して、統語的複合動詞の V1 には受身形を編入することができる。次の(7)を見られたい。

(7) A<語彙的複合動詞> (cf.影山 1993:87)

*書かれ込む (cf. 書き込む)

*押され開く (cf. 押し開ける)

B<統語的複合動詞>

名前が呼ばれ始めた

愛され続ける

この場合の二つの複合動詞の相違点も、派生部門の違いで説明ができる。「受身形」は、語彙部門で形成されないので(7)A は使えない。これに対して、統語部門には適用されるので(7)B は使える。

④サ変動詞

サ変動詞は動作性名詞(VN)と軽動詞⁴「する」からなる(VN+「する」— 心配する、勉強する)のような動詞である。もともと句であるので、A 類複合動詞の V1 を同義的なサ変動詞

⁴ 動作性名詞(VN)と軽動詞「する」(VN+「する」— 心配する、勉強する)の活用は

未然形:勉強しない、勉強しよう、勉強せず

連用形:勉強し

終止形:勉強する

連体形:勉強する

と置き換えることはできない。これに対して、B類複合動詞のV1は置き換えることができる。次の(8)を見られたい。

(8) **A<語彙的複合動詞>** (cf.影山 1993:88)

*壁にポスターを接着し付ける。(cf.貼り付ける)

*柵をジャンプし超える。(cf.跳び越す)

B<統語的複合動詞>

見物し続ける

調査し尽くす

仮定形:勉強すれ

命令形:勉強しろ、勉強せよ

「愛する、達する、逸する」の活用は五段活用の「愛する、達する、逸する」の活用形と見なせる形も合せて示している

未然形:愛さない

連用形:愛し

終止形:愛す

連体形:愛す

仮定形:愛せ

命令形:愛せよ、愛しろ

「論ずる、案ずる」などは濁音で、上一段活用の「論じる」の活用形と見なせる形も合せて示している。

未然形:案じない

連用形:案じ

終止形:案ずる

連体形:案ずる

仮定形:案ずれ

命令形:案じろ

動作性名詞(VN)と軽動詞「する」(VN+「する」—心配する、勉強する)の活用と「愛する、達する、逸する、論ずる、案ずる」の活用は異なり、違う物なので、本論では「愛する、達する、逸する、論ずる、案ずる」を記さない。

愛する、信ずる、案ずる、逸するなどは動作性名詞ではなく、連格が多く、形態素が違いなので、活用対象が違う。

(8)のように、VN+「する」は統語部門で形成されるので、統語的複合動詞に置き換えられるのは明らかである。一方、語彙部門で形成される語彙的複合動詞では置き換えられないことは明らかである。

⑤重複構文

重複構文とは、V1を2つ重ねて「飲みに飲む、走りに走る」のような形式にすることである。語彙的複合動詞はV1に動詞重複ができないが、統語的複合動詞はできる。

(9) A<語彙的複合動詞> (cf.影山 1993:91)

*敵を待ちに待ち構えた。

*子供たちに愛情を注ぎに注ぎ込んだ。

B<統語的な複合動詞>

その日は運がつきにつきまくった。

彼女は結婚問題で苦しみに苦しみ抜いた。

この場合も、統語的複合動詞は統語部門で形成され、重複構文も統語部門で起こるので(9)Bには、統語的複合動詞の構成素を挿入することができる。一方、語彙的部門で派生されている語彙的複合動詞(9)Aには統語的複合動詞を挿入することは許されない。

以上は影山(1993)の語彙的複合動詞と統語的複合動詞の区別である。

次は、和田(2015)の語としての厳密性を表すという共通点の例である。

①V1の空所化:和田(2015)は、A類とB類についてV1を削除することができないことを挙げ定る。次の(10)を見られたい。

(10) A<語彙的複合動詞> (cf.和田 2015:8)

田中はその辺を歩き回っている。山田も*(歩き)回っている。

B<統語的複合動詞>

山田は新聞を読み続けた。田中は雑誌を*(読み)続けた。

(10)を見ると、語彙的複合動詞、統語的複合動詞共に、構成素が密接に結びついた語を形成しており、V1が重出する表現(歩き、読み)を省略することは許されない。つまり、これらの複合動詞は語としての形態的な緊密性を示し、語の内部のV1を削除できない。

②V2 のみの反復：和田(2015)は動詞の反復文において、語彙的連用形複合動詞も統語的連用形複合動詞も V2 のみを反復させることは許されず、反復されるのは複合動詞全体であるとする。次の(11)を見られたい。

(11) A<語彙的複合動詞> (cf.和田 2015:9)

- a. 道を思い出し思い出し、駅に向かった。
- b. *道を思い出し出し、駅に向かった。

B<統語的な複合動詞>

- a. 声をかけ合いかけ合い、山を登った。
- b. *声をかけ合い合い、山を登った。

(11)の場合も、複合動詞の構成素が密接に結びついた語を形成しており、V2 の反復は許されない。

③V2 の尊敬語化：語彙的/統語的連用形複合動詞の V2 のみを「お」で尊敬語化することは許されない。

(12) A<語彙的複合動詞> (cf.和田 2015:9)

- a. お乗り換えになる
- b. *乗りお換えになる

B<統語的な複合動詞>

- a. お読み続けになる
- b. *読みお続けになる

(12)の場合も、語は形態的なまとまりを構成するために、その内部に統語的な要素を挿入することが許されないのと同様、これらの複合動詞は語の形態的な緊密性を受けるため V2 を尊敬語化を挿入することは許されない。

④「方」名詞化：和田(2015:10)語彙的/統語的複合動詞に、「方」名詞化を適用することが出来、これを含む動詞の連続は句ではなく、語であることが分かる。次の(13)を見られたい。

(13) A<語彙的な複合動詞> (cf.和田 2015:10)

イノシシが畑を踏み荒らす。→イノシシの畑の踏み荒らし方。

B<語彙的な複合動詞>

子供が本を読み続ける。→子供の本の読み続け方。

以上、影山(1993)と和田(2015)の語彙的複合動詞と統語的複合動詞の区別を説明した。上記に基づいて表1に語彙的複合動詞と統語的複合動詞の相違点と共通点を示した。

表1 語彙的複合動詞と統語的複合動詞の相違点と共通点

		語彙的複合動詞	統語的複合動詞
相 違 点	V1 と V2 の関係	雑多	一つのみ
	意味的透明性	慣習化、低い	自由な文、高い
	生産性	低い	高い
	辞書に登録	ある	ない
	派生部門	語彙部門	統語部門
	代用形「そうする」	*	OK
	主語尊敬語化	*	OK
	受身形	*	OK
	サ変動詞	*	OK
	重複構文	統語的複合動詞先行せず	統語的複合動詞先行する
共 通 点	統語的要素の挿入	*	*
	等位構造における削除	*	*
	「お」の挿入	*	*
	V1 の空所化	*	*
	V2 の反復	*	*
	V2 の尊敬語化	*	*
	「方」名詞化	OK	OK

出典：和田(2015：10)を参考に筆者作成

1.3 日本語の語彙的複合動詞の分類

前節では、語彙的複合動詞と統語的複合動詞の共通点と相違点を検討した。本節では、語彙的複合動詞のV1とV2の意味関係と結合条件を検討する。

語彙的複合動詞は、V2が補助動詞機能を持たず、V1とV2が共同で複合し、1語となるものである。影山(1993)、由本(1996)、松本(1998)は、日本語の語彙的複合動詞における前項動

詞と後項動詞には手段結果、並列関係、様態・付帯状況、因果結果関係、補文関係の5種類の意味的關係があると指摘している。

本節では、この5種類の日本語の語彙的複合動詞について検討する。

1.3.1 手段結果複合動詞

まず、手段結果複合動詞について検討する。下記は先行研究の影山、松本の日本語の手段結果複合動詞の定義と制約である。

影山(1993)によれば、手段結果複合動詞とはV1がV2に先行し、後項の手段となる行為を表す動詞である。更に、後項動詞は前項動詞の行為に伴う目的語の状態/位置変化の結果を表す。

松本(1998:52)によると、下の(13)に挙げた日本語の手段結果複合動詞は前項動詞(V1)が後項動詞(V2)に時間的に先行する。その上、前項動詞は全て動作主的動詞であり、又、後項動詞は何らかの状態/位置変化の使役を表す動詞である。

このように、手段結果複合動詞はV1が表す事象がV2の表す事象より先行し、V1することによって、V2を引き起こす。つまり、V1はV2の手段を表す動詞で、V2はV1の結果を表す。次の(14)は手段結果複合動詞の例である。

- (14) 押し倒す、叩き落とす、打ち上げる、掃き集める、投げ飛ばす、切り抜く、だまし取る、ちぎり取る、取り除く (cf.松本:1998)

(14)を見ると、V1(「押す、叩く、打つ、掃く」)はV2(「倒す」、「落とす」、「上げる」、「集める」)に先行し、V1することによって、V2を引き起こす。これらの結合が手段結果複合動詞である。

1.3.2 並立関係複合動詞

ここでは、並立関係複合動詞について検討する。下記に影山と Matsumoto、何志明の日本語の並立関係複合動詞の定義を示す。

影山(1993)と Matsumoto (1996)によると、日本語の語彙的複合動詞における並立関係複合動詞(Pair Compounds)は内容的に対等な2要素が並列されているから、V1、V2の両者が主要部として機能する。

何志明(2002:56)は、「並立関係」の複合動詞は、V1とV2は同じような意味的な特徴及び同じ項構造を持つ動詞同士でなければならない。更に、V1とV2は変化を表さない活動動詞でなければならないとしている。

このように、日本語の並立関係複合動詞は前項動詞と後項動詞は対等の関係である。更に、二つの動詞が同時進行し、同じ項構造を持つ。また、並立関係複合動詞のV1とV2の意味はほぼ同じような類義語の動詞である。例を(15)に示した。

- (15) 恐れおののく、驚き呆れる、耐え忍ぶ、抱き抱える、照り輝く、照り映える、慌てふためく、忌み嫌う、写し描く、媚びへつらう、選りすぐる、(cf.何志明 2002:41)

(15)をみると、すべてのV1(「恐れる、驚く、耐える、抱く、照る」とV2(「おののく、呆れる、忍ぶ、抱える、輝く」)の意味はほぼ同じような類義語の動詞で、V1とV2は内容的に対等な要素が並列されている。(16)で表すように並立関係複合動詞のV1とV2では対立概念の動詞の結合は容認されない。

- (16) *行き来る、*貸し借りる、*飲み食う、... (cf.影山 1993 : 101)

1.3.3 様態・付帯状況複合動詞

次に様態・付帯状況複合動詞について検討する。この複合動詞は、右側主要部の関係を持っており、V1の事象がメインイベントであるV2に付随して起こっていることを表す。時間的にはV1とV2は同時に行われる。

次の(17)は様態・付帯状況複合動詞の例である。

- (17) a. 買い戻す、払い戻す、突き戻す、引き戻す、押し戻す、呼び戻す
b. 言い渡す、引き渡す、明け渡す、下げ渡す、押し渡す、譲り渡す
c. 泣き暮らす、遊び暮らす、眺め暮らす、嘆き暮らす
d. 言い寄る、這い寄る、駆け寄る、歩み寄る、走り寄る、忍び寄る、にじり寄る
e. 降り注ぐ、煮えたぎる、たぎり落ちる、忍び泣く、すすり泣く、居並ぶ

(cf.影山 1993:115)

(17)を見ると、様態・付帯状況複合動詞はV1とV2は同時に行い、V1が起りながらV2も起こる。例えば(17)d「言い寄る」の意味構造は言う行為と寄る行為を同時に行い、寄る行為が主たる意味を担い、言う行為は言う様態を表す。

1.3.4 原因結果複合動詞

ここでは原因結果複合動詞について検討する。

松本(1998)は、原因結果複合動詞は、V2が状態変化を表し、V1がそれを引き起こす原因となる出来事を表すとしている。

由本(2005)によると、原因関係複合動詞のV1は手段として解釈できない。手段結果複合動詞と異なり、原因結果複合動詞のV2は意図性を帯びない非対格動詞に限られている。つまり、原因結果複合動詞のV1は行為が意図的であるが、V2が表す事象を目的としているわけではない。二つの事象の間に原因関係が認められるだけである。従って、V1自体の意図性は原因結果関係複合動詞の合成においては何の意味もないわけである。

このように、日本語の原因結果関係複合動詞はV1がV2に先行する。しかし、手段結果関係複合動詞と異なり、V2が表す事象は意図性を帯びない非対格動詞である。つまり、V1は意図を持っているが、V2はV1の意図に関係がない状態変化動詞である。次の(18)は原因結果複合動詞の例である。

- (18) 降り積もる、溺れ死ぬ、抜け落ちる、あふれ落ちる、泣きぬれる、泣き沈む、飲みつぶれる、働きくたびれる、走りくたびれる、走り疲れる、立ち疲れる、焼け死ぬ (cf.松本 1998:55)

(18)を見ると、V1(「降る、溺れる、抜ける」)はV2(「積もる、死ぬ、落ちる」)の原因を表す。例えば、「降り積もる」は、「雪が降ったので、屋根に雪が積もる」ことを表す。V1とV2は原因関係なので、V2(「積もる、死ぬ、落ちる」)は意図性を帯びない非対格自動詞である。これらの結合は原因結果複合動詞である。

1.3.5 補文関係複合動詞

ここでは、補文関係複合動詞について検討する。

影山(1993)によると、補文関係は統語的複合動詞に典型的に見られるが、語彙的複合動詞にも成立する。この補文関係は統語構造を直接指すのではなく、意味的な補文関係にある。個々には、従来の研究で「強調(震え上がる、静まり返る)」(姫野 1982a)、「副詞的(干上がる)」(Tagashira 1978)、などいろいろに呼称されていたものが含まれる。具体例は次の(19)である。

- (19) a. 歌い上げる、結い上げる、洗い上げる、数え上げる、磨き上げる、仕上げる、染め上げる、勤め上げる、作り上げる、塗り上げる、練り上げる、縛り上げる
b. 冷え上がる、震え上がる、抜け上がる、のばせ上がる、干上がる、縮み上がる、膨れ上がる、腫れ上がる、晴れ上がる (cf.影山 1993:109)

(19)を見ると、語彙的補文関係複合動詞は統語的複合動詞構造と同様、V2がV1を補文として取り、V1にアスペクトなどの意味を補文化しているものである。「歌い上げる」を例

として挙げると、V2(「上げる」)がV1(「歌う」)を補文として取り、V1に完了のAspectの意味を補文化している。

更に由本(2005)によると、補文関係複合動詞はV2が日本語学でしばしば補助動詞とみなされており、ある事柄の失敗(「逃す、落とす」)や中断(「さす」)、あるいは徹底(「返る、渡る、切る」)や習慣化(「習わす、こなす」)などで、V1が表す事象全体にかかる意味を加えている。例えば、「見逃す、読みさす、書き落とす、使いこなす、寝つく、呼び習わす」などである。このように補文関係複合動詞はV2がV1にAspectや習慣化などの意味を補文化する。

上記で、日本語の語彙的複合動詞の分類について概観した。日本語の語彙的複合動詞にはV1とV2の関係によって、五つの種類に分類される。次の(20)はその五つの語彙的複合動詞をまとめたものである。

(20) 日本語の語彙的複合動詞の種類

①手段結果複合動詞：V1がV2に先行し、V1することによって、V2が引き起こる、つまり、V1はV2の手段を表す動詞で、V2はV1の結果を表す動詞である。

例：押し倒す、たたき落とす、打ち上げる、押し出す、
掃き集める、投げ飛ばす、切り抜く、だまし取る、

②並立関係複合動詞：並立関係複合動詞は前項動詞と後項動詞が対等の関係である。更に、2つの動詞が同時進行し、同じ項構造を持つ。並立関係複合動詞のV1とV2の意味は同じような類義語の動詞である。

例：恐れおののく、驚き呆れる、耐え忍ぶ、抱き抱える、
照り輝く、照り映える、問い尋ねる

③状態・付帯状況複合動詞：V1とV2が同時進行するが、V2に付随してV1が起こる複合動詞である。

例：買い戻す、払い戻す、突き戻す、引き戻す、押し戻す、呼び戻す、
言い渡す、引き渡す

④原因結果複合動詞：V1がV2より先行する。しかし、手段関係複合動詞と異なり、V2が表す事象は意図性を帯びない非対格動詞である。

例：降り積もる、溺れ死ぬ、抜け落ちる、あふれ落ちる、
泣きぬれる、泣き沈む、飲みつぶれる

⑤補文関係複合動詞：V2がV1にAspectや習慣化などの意味を補文化する。

例：食べ残す、取り残す、見落とす、書き落とす、聞き漏らす、取り逃す、聞き逃す、取りこぼす

1.3.6 語彙的複合動詞の結合条件

語彙的複合動詞の分類だけではなく、影山(1993)は語彙的複合動詞の組み合わせについて、「他動性調和の原則」という制限があることを指摘している。次の(21)は影山の「他動性調和の原則」である。

(21) 他動性調和の原則 (cf.影山 1993:117)

動詞は単純に他動詞と自動詞しか存在せず、自動詞は非能格自動詞と非対格自動詞の二つに分類される。以下に他動詞、非対格自動詞の3分類を表示する。

- a. 他動詞： (x <y>)
- b. 非能格自動詞：(x < >)
- c. 非対格自動詞： <y>

(21)に示した日本語のV-V型の複合動詞は、他動詞は他動詞と自動詞は自動詞と結合するだけではない。つまり、他動詞(21)a、非能格自動詞(21)bは共に外項(x)を持つため、「他動詞+他動詞」、「非能格自動詞+非能格自動詞」だけでなく、他動詞と非能格自動詞を結合することも出来る。一方、非対格自動詞(21)cは内項<y>しか存在せず、(21)aと(21)bとは形式が異なるため、非対格自動詞は非対格自動詞とのみ結合する。この「他動性調和の原則」に基づいて、日本語のV-V型複合動詞⁵は最大限次の(22)に示した5種類の複合ができる。

- #### (22)
- ① 他動詞+他動詞：切り倒す、押し倒す、叩き壊す
 - ② 非能格自動詞+非能格自動詞：言い寄る、這い寄る、駆け降りる
 - ③ 非対格自動詞+非対格自動詞：滑り落ちる、立ち並ぶ、生えかわる
 - ④ 他動詞+非能格自動詞：探し回る、飲み歩く、しゃべり回る
 - ⑤ 非能格自動詞+他動詞：泣き落とす、勝ち取る

1.4 まとめ

本章では、影山(1993)、由本(1996)、松本(1998)の主な先行研究に基づいて、日本語の複合動詞について概観した。

日本語の複合動詞は「統語的複合動詞」と「語彙的複合動詞」に分けられる。統語的複合動詞は語彙的複合動詞より生産性と意味的透明性が高い。統語的複合動詞のV2はどのようなV1

⁵ (18)のような原因結果複合動詞は「非能格自動詞+非対格自動詞」の組み合わせが仕方がないものである。

とも結合することができる。例えば、「終わる」は「食べる」、「勉強する」、「飲む」と結びついて「食べ終わる」、「勉強し終わる」、「飲み終わる」という複合動詞になる。それに対して、語彙的複合動詞のV2はどのようなV1にも結合するわけではない。例えば、「思い知る」は言えるが、*「考え知る」、*「聞き知る」は使われない。

さらに、統語部門で派生される統語的複合動詞の前項動詞には、代用形「そうする」、主語尊敬形、受身形、サ変動詞、重複構文を置き換えることができる。それに対して、語彙的複合動詞は語彙部門で派生されるため、語彙的複合動詞の前項動詞は代用形「そうする」、主語尊敬形、受身形、サ変動詞、重複構文に置き換えられない。

更に、日本語の語彙的複合動詞の前項動詞と後項動詞には「手段」、「並列関係」、「様態・付帯」、「因果関係」、「補文関係」という5種類の意味的關係がある。これらの語彙的複合動詞の結合条件については影山(1993)の「他動性調和の原則」がある。この日本語の複合動詞の観点から、ベトナム語の複合動詞を見て行く。

次章からは、はじめにベトナム語の概要を述べ、次に、ベトナム語の複合動詞の分類、最後に日本語とベトナム語の複合動詞の対照をする。

第2章 ベトナム語の概要

2.0 概要

本稿は日本語とベトナム語の複合動詞の対照研究をすることである。そのため、日本語の複合動詞も、ベトナム語の複合動詞も知る必要がある。ベトナム語の複合動詞について検討する前に、ベトナム語の概要を述べる。つまり、ベトナム語を知らない人がベトナム語はどのような言語なのかを理解するために、本章では、ベトナム語の系統、分布、音韻、語彙、文法などについて述べておく。

2.1 ベトナム語の系統

系統的にはベトナム語はシナ・チベット語族やタイ・カダイ語族ではなく、オーストロアジア語族モン・クメール系言語のベトナム諸語に属すると解するのが一般的である。ベトナム語は単音節型不変化語で、6種の声調をもつ音調言語である。音節は〔子音＋母音＋子音〕構造で、音韻的には2個の短母音を含む11の母音音素と28の子音音素がたてられる。

ベトナム語の叙述形式は「主語＋述語＋目的語」の語順をとるが、修飾語が被修飾語の後ろに置かれることと、事物の性状をとらえて汎称する類別詞を名詞の前に置くことなどが文法上の特徴とされる。

2.2 ベトナム語の分布

ベトナム語はベトナム社会主義共和国の公用語で、人口の87%を占めるベトナム人の母語であるが、少数民族の間でも共通語として使用される。米国では100万人以上のベトナム人がベトナム語を使っている。

ベトナム語は、三つの方言に分けられる。それらは北部方言、中部方言、南部方言である。このような三つの方言はハノイ市、フエ、ホーチミン市(サイゴン)の方言を基準としている。この中の、ハノイ市の方言は全国の基準語とされている。

2.3 ベトナム語の音韻

孤立語であるベトナム語は多くの音節が別々に発音され、一字で表される。このベトナム語の特徴は音韻、語彙、文法に明らかである。まず、ベトナム語の音韻を述べる。

ベトナム語は中国語と同様、声母(音節頭子音)と韻母(介母音＋主母音＋音節末子音/母音)、および声調からなる音節構造を持ち、多くの音節はそれ自体で形態素となり得る点で、いわゆる「単音節語」的な特徴を有する言語である。

次に、ベトナム語の母音、子音と声調について説明する。

2.3.1 ベトナム語の母音

東南アジアの他の多くの言語と同様、ベトナム語は母音が非常に多い。単母音では綴り字で a、ă、â、e、ê、i=y⁶、o、ô、ơ、u、ư の 11 個がある。ベトナム語の母音には記号が付いているものが 4 種類ある。それらの母音に記号付きによって、発音の特殊が違う。次の表 1 はベトナム語の単母音を表にしたものである。

表 1 ベトナム語の単母音

文字	IPA 表記	例
a	[a:]	xa(遠い)、ba(父)、la(叱る)、ma(お化け)
e	[ɛ:]	hè(夏)、mè(ごま)、xe(車)、me(タマリンド)
i=y	[i:]	im(黙る)、chìm(沈む)、chim(鳥)、tim(ハート)
o	[ɔ]	ong(はち)、cong(カーブ)、co(縮む)、cho(あげる)
u	[u]	u(こぶ)、chú(叔父)、cú(ふくろう)
ă	[a]	ăn(食べる)、săn(狩り)、chăn(掛け布団)
â	[ə]、[ɜ]	cần(いる)、sân(庭)、chân(足)、cân(測り)
ô	[o]	ô tô(自動車)、cô(叔母)、xô(バケツ)、khô(カラカラ)
ê	[e]	ghê(恐れる)、bê(孔子)、lê(梨)、
ơ	[ə:]、[ɜ:]	ơn(恩)、son(ペイント)、hơn(より)
ư	[u]	hư(腐る)

表 1 のように、ベトナム語には単母音が 12 字ある。それは「a、ă、â、e、ê、i、y、o、ô、ơ、u、ư」である。「a、e、i、y、o、u」のように記号付かないものは、発音がそのままやや長めにする。「ă」のような短音記号の場合は短く発音する。「â、ê、ô」のようなハット記号の場合は口の開け方を付いていないものよりも狭くする。「ơ、ư」のホーン記号の場合は唇を丸めず発音する。これを非円唇母音という。

2.3.2 ベトナム語の子音

ベトナム語の子音には 17 個の単子音(1 文字のもの)と 11 個の複合子音(2~3 文字のもの)とがある。次の表 2 ではベトナム語の単子音と複合子音の書き方を表す。

⁶ i=y なので、11 母音音素だが文字は 12 字である。

表2 ベトナム語の子音

文字	IPA 表記	例
B b	[b]、 [ʔb]	bơi (泳ぐ)、biết(知る)、bò(牛)、biển(海)、bố(父)
C c	[k]	cá (魚)、cú(ふくろう)、cười(笑う)、có(いる)
D d	[z]	dao(ナイフ)、dài(長い)、doi(蝙蝠)、da(肌)
Đ đ	[d]、 [ʔd]	đan(編む)、đợi(待つ)、đo(測る)、đón(迎える)
G g	[ɣ]	gà(鶏)、gửi(送る)、gấu(熊)、ga(ガス)
H h	[h]	hoa(花)、hỏi(聞く)、hơn(より)、hiểu(分かる)
I i	[i:]	im(黙る)
K k	[k]	kiếm(刀)、kẹo(キャンディー)、kiến(蟻)、ki(けちる)
L l	[l]	lên(上がる)、lùi(後退する)、lươn(うなぎ)、lo(心配する)
M m	[m]	môi(くちびる)、mũi(鼻)、mắt(目)、mơ(夢)
N n	[n]	năm(年)、núi(山)、nắng(晴れる)、nở(咲く)
P p	[p]	pasta(パスタ)、panô(パネル)
Q q	[k]	qua(渡る)、quán(店)、qua(カラス)
R r	[z]、 [ɹ]、 [ʒ]	rổ(かご)、răng(歯)、rung(揺れる)、ra(出る)
S s	[s̺]、 [s]	sai(間違う)、suối(滝)、sông(川)、son(塗る)
T t	[t]	tôi(私)、tứ(四)、tính(計算する)、toán(数学)
V v	[j]、 [v]	vui(楽しい)、vẹt(おうむ)、ve(セミ)、về(帰る)
X x	[s]	xuống(降りる)、xưa(昔)、xa(遠い)、xuân(春)
CH ch	[c]	chơi(遊ぶ)、chiều(夕方)、chó(犬)、chăn(布団)
GH gh	[ɣ]	ghi(記録する)、ghé(寄る)、ghế(椅子)
KH kh	[x]	khi(時)、khó(難しい)、khen(褒める)、khỏe(元気)
NG ng	[ŋ]	ngon(美味しい)、ngủ(寝る)、ngoài(外)、ngô(ともし)
NGH ngh	[ŋ]	nghe(休む)、nghĩ(考える)、nghé(水牛の子)、nghe(聞く)
NH nh	[ɲ]	nhà(家)、nhớ(覚える)、nhiều(たくさん)、nhỏ(小さい)
PH ph	[f]	phim(映画)、phổi(肺)、phơi(干す)
TH th	[tʰ]	thi(試験)、thơ(詩)、thở(息)、thơm(いいにおい)
TR tr	[t̺]、 [c]	trăng(月)、trên(上)、trong(中)、trước(前)
GI gi	[z]	giếng(井戸)、giỏi(上手)、giả(偽物)、giường(ベッド)
QU qu	[k(w)]	quốc(国)、quen(慣れる)、quét(掃く)、quên(忘れる)

表2で示したように、ベトナム語には28子音があり、17個の単子音(b、c、d、đ、g、h、k、l、m、n、p、q、r、s、t、v、x)と11個の複合子音(ch、gh、kh、ng、ngh、nh、ph、th、tr、gi、qu)がある。これらの28子音は23の子音音素⁷があり、28字で記録される。これらの28字は18文字で構成されている。例えば「nh」は「n」と「h」で、「ph」は「p」と「h」で構成されている。

2.3.3 ベトナム語の声調

ベトナム語は声調言語であり、すべてのベトナム語の音節には特定の音色がある。ベトナム語の基本的な声調には6種類がある。次の表3はベトナム語の6種の声調記号である。

表3 ベトナム語の声調

声調名	記号	例
thanh ngang タインガン	(なし)	ma(お化け)
thanh huyền タインフイエン	` (グレイヴ/右下がり)	mà(CONJ)
thanh sắc タインサツ(ク)	´ (アキュート/左下がり)	má(お母さん)
thanh hỏi タインホーイ	ˆ (小さい? (フック))	mả(墓)
thanh ngã タインガー	~ (チルダ)	mã(馬)
thanh nặng タインナン	. (ドット)	mạ(苗)

表3のように、ベトナム語の声調は6種類ある。「“thanh ngang”(タインガン)」は記号がない。発音し方は普通に発音すればいい。例えば、ma(おばけ)はママのマ(子供が母を呼

⁷ c/q/kの子音音素は[k]

g/ghの子音音素は[ɣ]

ng/nghの子音音素は[ŋ]

d/giの子音音素は[z]

ぶとき)と発音すればいい。「*thanh huyền*”(タインフイエン)」は発音する時、声調が下がる。例えば、「*mà*(CONJ)」は日本語の「あ」と「え」を発音する時と同じ、声調が下がる。「*thanh sắc*”(タインサツ(ク))は発音するとき、声調が上がる。例えば、「*má*”(お母さん)」は日本語の質問する時:「何時ですか」と発音する時と同じで、「*ka*」の声調が上がる。「*thanh hỏi*”(タインホーイ)」は「*thanh ngang*”(タインガン)より低いところからちょっと上がったからぐっとさがって、そのあとちょっとぐっとあがる。「*thanh ngã*”(タインガー)は「*thanh sắc*”(タインサツ(ク))より低い。「*thanh nặng*”(タインナン)は発音が一番低い。例えば、「*mạ*”(苗)は日本語の傘の「さ」の発音の声調と同じである。これらの6種類の声調はベトナム語の基本声調である。

2.4 ベトナム語の語彙

2.4.1 ベトナム語の単語と複合語の構成構造

Do Thi Kim Lien (1999:18)によれば、単語は、言語の単位で、一つの音節から成る音形を持つ。また、語は意味を持っている単位で、独立性を持つ(自由形態素)。単語は文法規則に従って組み合わせられ、文を作る。

ベトナム語の単語は音節 (syllable) から作られ、1音節が一つの形態素に対応し、更に、それが独立した単語を形成する。

ベトナム言語学はベトナム語の孤立語的特徴に基づいて、単語を分類する。第一の分類は、音節の数により、単音節と複音節に分ける。この分類においては、単音節は単純語で複音節は合成語と分類される。つまり、音節が一つある単語は単純語で、音節が二つ以上は合成語である。Hoang Van Hanh(1998:120)によると、一音節からなる単純語は「*ăn*”(食べる)」、「*uống*”(飲む)」、「*ngủ*”(寝る)」、「*ngủ*”(休む)」であり、二音節以上の合成語は、「*cứng đầu*”(固い+頭=頑固、強情)、「*nhà cửa*”(家+戸、ドア=家屋)などである。

音韻の他に、意味の面から言葉を分類した言語学者は Nguyen Kim Than (1977)、 Diep Quang Ban(2008)である。この二人は音韻と意味の面から、単要素と複要素の概念を提案した。Diep Quang Ban (2008)単純語は音節が一つのものも二つのももある。2音節の単純語には「*bù nhìn*”(傀儡)、「*đười ươi*”(猩猩)、「*cản nhàn*”(うなる)等がある。これらの語を構成する形態素には独立した意味はない。

ベトナム語の音節と形態素の一致は偶然である。単語の構成成分の形態によって、単語を単純語と複合語に分類しているのは、Do Huu Chau (1986)と Hoang Van Hanh(1998)である。彼らの観点から、複合語の概念が現れてきたが、この複合語という概念は、先に触れた音韻や意味に基づく分類では見られなかったものである。

複合語という概念は Nguyen Kim Than (1977)、 Do Huu Chau (1986)、 Diep Quang Ban (1996)、 Hoang Van Hanh (1998)が扱っている。しかし、同じ複合語という術語であっても、その分類と概念の内容は研究者によって異なる。

単純語は一つの形態素からなり、複合語は二つ以上の形態素から構成される。複合語には合成語と重複語がある。(cf.Do Huu Chau 1986)。

重複語は同じ音節、語頭音/音節初頭音(頭韻)あるいは音節末の母音—子音連続(脚韻)を反復することによって形成される複合語である。次の(1)を見られたい。

- | | | | |
|-----|---|-----------------------------|------------|
| (1) | a | 「“ăn” (食べる)」、 「“uống” (飲む)」 | 単純語 |
| | b | nhà cửa
家 戸、ドア=家屋 | 合成語 |
| | c | lo lảng
心配する ø=心配する | 重複語 |

(1)を見ると、ベトナム語の単純語、合成後と重複語の例である。(1)aの「“ăn” (食べる)」、 「“uống” (飲む)」は一つの形態素からなり、単純語である。それに対して、(1)bと(1)cの「“nhà cửa” (家+戸、ドア=家屋)」、 「“lo lảng” (心配する +ø=心配する)」は二つ形態素からなり、複合語(合成語と重複語)である。(1)cの「“lo lảng” (心配する +ø=心配する)」は前項要素の語頭音(「l」)と後項要素の語頭音(「l」)が反復するので、重複語である。

更に、(1)cのように、合成語と異なり、重複語の構成素には無意味形態素(「lảng ø」)がある。この要素は以後「ø」で表す。

このように、ベトナム語には複合語が存在する。複合語は二つ(以上)の要素が意味的に結合したものである。更に、Tran Thi Chung Toan (2002:105)によると、ベトナム語の先行研究において、品詞に関する包括的な複合語の研究はあるが、これまで、特定の品詞(動詞、形容詞)に絞った複合語の研究はほとんど存在しない。そして、ベトナム語にも二つの動詞を結合し、全体で一つの動詞の機能を持つ複合動詞があるとしているベトナム語にも二つの動詞を結合し、全体で一つの動詞の機能を持つ複合動詞があるとしている。次の(2)を見られたい。

- | | | | |
|-----|---|--------------------------|-------------|
| (2) | a | nhà cửa
家 戸、ドア=家屋 | 複合名詞 |
| | b | học hành
学ぶ 実習する=学習する | 複合動詞 |

(2)a は複合名詞であり、(2)b は複合動詞である。(2)b の前項要素「“học”(学ぶ)」と後項要素「“hành”(練習する)」は共に動詞であり、結合して、複合動詞になっている。前項要素が動詞(「“học”(学ぶ)」)なので、全体の構成構造は複合動詞と呼ばれる。更に、このような組み合わせは構成構造が緊密であり、二つの動詞の間に他の単語を挿入することができない。次の(3)を見られたい。

(3) * học rất hành
 学ぶ とても 実習する

従って、本論では Tran Thi Chung Toan (2002)の定義に基づいて、日本語の複合動詞との対比、すなわち共通点と相違点を検討できる可能性がある。

上記のように、ベトナム語の単語は様々な観点から分類されている。動詞について言えば、日本語と同様、動詞として機能する複合語の存在を認める Nguyen Kim Than、Tran Thi Chung Toan がいる。本論では、Tran Thi Chung Toan (2002)の定義に基づいて、日本語の複合動詞と対照する。

2.4.2 ベトナム語の複合語

Diep Quang Ban (2008:564) は、「“từ gồm hai tiếng được gọi là từ phức.” (複合語は二つ(以上)の要素が意味的に結合したものである。)」と述べている。ベトナム語の複合語は一般的に文法的に、並立複合語(平行複合語)と主従複合語に分類されている。

2.4.2.1 並立複合語

並立複合語は各要素の間の文法的な関係が対等である。並立複合語の文法的意味は並立の関係にある語が結合して複合語を形成する。複合語を作る要素の意味的關係から考えると、並立複合語の構成要素間の関係は三つの特徴のいずれかを持つ。それらは同義、類似、対義である。

まず、各要素の意味が同義の関係にあるものである。各要素にはベトナムの固有語、漢語、更に、方言がある。次の(4)を見られたい。

(4)	a	đợi	chờ		固有語+固有語
		待つ+	待つ	=待ち構える	
	b	thổ	địa		漢語+漢語
		土	+ 地	=土地	
	c	chó	má		固有語+方言

犬 + 犬 = 犬

d bạn hữu 固有語+漢語
友達、仲間 + 友達、仲間 = 友人、友達

(4)を見ると、(4)a は前項要素、後項要素は共に同義語で、固有語である。前項動詞「“đợi” (待つ)」は話し言葉である。それに対して、後項要素「“chờ” (待つ)」は話し言葉にも、書き言葉にも使える。(4)b は、前項要素「“thổ” (土)」、後項要素「“địa” (地)」は共に同義語で、漢語である。しかし、(4)c は後項要素「“má” (犬)」はベトナムのタイの少数民族の方言であるが、複合語全体は共通語として使用される。最後の(4)d は前項要素、後項要素共に同義語である。しかし、前項要素「“bạn” (友達)」は固有語であるが、後項要素「“hữu” (友達)」は漢語である。

次は、各要素の意味が類似しているもので、例を(5)に示す。

- (5) a thương nhớ
愛好する + 覚える = 思い出す、追慕する
- b nhà cửa
家 + 戸、ドア = 家、家屋
- c cấp bậc
級、等級 + 階段、等級 = 等級
- d dọa nạt
おびやかす + おどす = おびやかす、おどす

(5)の前項要素「“thương” (愛好する)、“nhà” (家)、“cấp” (級、等級)、“dọa” (おびやかす)」と後項要素「“nhớ” (覚える)、“cửa” (戸、ドア)、“bậc” (階段、等級)、“nạt” (おどす)は類義語である。

第三の特徴の各要素が反義関係にあるものを(6)に示す。次の(6)を見られたい。

- (6) a sống chết
生きる + 死ぬ = 生きて死ぬ
- b mất còn
なくなる + ある = 無くなって残る
- c đi lại
行く + 来る = 行き来する
- d mua bán

買う + 売る = 売買する

(6)は、ベトナム語の並立関係複合語で前項要素「“sống” (生きる)、“mất” (なくなる)、“đi” (行く)、“mua” (買う)」と後項要素「“chết” (死ぬ)、“còn” (ある)、“lại” (戻る、来る)、“bán” (売る)」の意味は反対である。つまり、前項要素と後項要素は対義語である。

以上、ベトナム語の並立複合語の特徴を説明した。次にベトナム語の主従複合語について説明する。

2.4.2.2 主従複合語

Diep Quang Ban (2008:577)によれば、主従複合語は二つの形態素の中の 하나가主要部、他の構成素が副次的な役割を担う。意味的な面から考えると、並立複合語とは異なり、主要部が種類等を表し、他の副次的な構成素は更に限定した意味を加える。

主従複合語を作る要素の意味的關係により、主従複合語は限定主従複合語と色彩化主従複合語の2種類に分類されている。下記に限定主従複合語と色彩化主従複合語について述べる。

①限定主従複合語

限定主従複合語は前項要素が主要部で色彩を表し、後項要素は前項要素の種類を限定する主従複合語である。次の(7)は限定主従複合語の例である。

- (7)
- | | | | | |
|---|-----|------|------|---------|
| a | máy | bay | | |
| | 機械 | + | 飛ぶ | = 飛行機 |
| b | máy | tính | | |
| | 機械 | + | 計算する | = 計算機 |
| c | máy | cày | | |
| | 機械 | + | 耕す | = トラクター |

(7)の前項要素「“máy”(機械)」は主要部で、機械を表し、後項要素は前項要素の機械の種類を更に限定する。例えば、(7)aの「“máy bay”(飛行機)」の主従複合語の構成は前項要素「“máy”(機械)」と後項要素「“bay”(飛ぶ)」の結合で、飛行機となる。

②色彩化主従複合語

色彩化主従複合語は前項要素が主要部で後項要素は前項要素の色彩を修飾する複合語である。次の(8)は色彩化主従複合語の例である。

- (8) a xanh nhạt (形容詞)
 青、緑 + 薄い = 水色
- b xanh đậm (形容詞)
 青、緑 + 濃い = 紺色

(8)を見ると、前項要素は主要素で、同じ意味で色(青、緑)を表し、後項要素は前項要素の色彩意味を修飾する。従って、例(8)の色(青、緑)は同じだが、色彩、色のレベルが異なる。(8)aは薄い青で水色という意味で、(8)bは濃い青い(紺色)という意味である。

2.5 ベトナム語の文法

ベトナム語の語順はSVO型(主語—動詞—目的語)である。さらに、ベトナム語の孤立語の特徴から、形態変化をせず、統語的關係はもっぱら語順、機能詞によって表される。ベトナム語のアスペクトは機能詞⁸で表す。下記にベトナム語のアスペクトについて述べる。

2.5.1 ベトナム語のアスペクト

ベトナム語のアスペクトは機能詞、副詞で表す。Nguyen Kim Than (1977:187)によれば「“phạm trù thời không phải là phạm trù ngữ pháp đặc biệt của động từ tiếng Việt ; đã, đang, sẽ, vừa mới là những từ chỉ thể-thời tức là chỉ sự tiến hành hay hoàn thành trong thời gian và việc sử dụng những phó từ biểu thị thể-thời ở bộ phận vị ngữ thuộc về phạm vi cấu trúc của câu。”(時制はベトナム語の動詞の特別な文法カテゴリーではない。「“đã”(もう)」、「“đang”(最中)」、「“sẽ”(will-未来)」、「“vừa”(…したばかり)」、「“sắp”(もうすぐ、まもなく)、「“lại”(また)」などは時制・アスペクトを表す言葉である。これらの言葉を使って、ベトナム語の時制・アスペクトの事項の始動、継続、完了などを表すことができる。文の述語部に時制・アスペクトを表す副詞を使うのは文法構造に属する。)」(筆者訳)。

Nguyen Kim Thanと同様に、Cao Xuan Hao (2007)は「“trong tiếng Việt, sử dụng động từ mang tính tình thái để biểu thị ý nghĩa quá khứ. Trong trường hợp nhất thiết phải biểu thị thời quá khứ, hiện tại thì sẽ sử dụng những từ mà mang nghĩa biểu thị thời. Ý nghĩa mà biểu thị bằng các phó từ chỉ thời gian thể hiện thời qua khứ này chính bằng ý nghĩa thời, thể trong ngôn ngữ Ấn, Âu” (ベトナム語において、過程的な意味を持つ法動詞(modal verb)を使い、アスペクトを表す。過去時制・現在時制を表すことが必要な場合は、ベトナム語においては、時間を表

⁸ 機能語とは、Nguyen Kim Than (1977:20)によると、本来語彙的な意味を持たないが、対比等の文法機能を持っている語を指す。機能語は、必須成分ではなく随意的な成分である。単独で文も構成できない với、chà、chẳng(レトリックの軽視やアイロニカルな意味を表す)要素等が機能語に該当する。

す語彙的な意味を持っている単語が使われている。過去時制の時間副詞で表す意味とインド・ヨーロッパの過去時制で表す意味は一致する。)」(筆者訳)。言い換えると、ベトナム語において、時制は必ずしも表現しないので、文法化機能を持っていない。更に、必要な場合は常に語彙で表現する。これらの語彙と意味面において、時制は全く対応する。

このように、ベトナム語のアスペクトは機能詞、法動詞で表す。次の(9)~(11)はベトナム語のアスペクトの表し方の例である。

- (9) a Tôi muốn sẽ gặp lại anh. “sẽ”(will-未来)
私 希望する 未来 会う また あなた
私はあなたにまた会いたいです。
- b Tàu sắp tới. “sắp”(もうすぐ、まもなく)
電車 もうすぐ、まもなく 到着する
電車がまもなく到着する。
- c Tôi đã ở nhật 3 tháng. “đã”(過去形)
私 過去形 いる 日本 3ヶ月
私は日本に3ヶ月住んでいた。
- (10) a Mưa bắt đầu rơi. “bắt đầu”(始める)
雨 始める 降る
雨が降り始める。
- b Tiếp tục nói “tiếp tục”(続ける)
続ける 言う
言い続ける。
- c Ăn xong “xong”(終わる)
食べる 終わる
食べ終わる。
- (11) a Mưa đã bắt đầu rơi. 「“đã”(過去形)と“bắt đầu”(始める)」
雨 過去形 始める 降る
雨が降り始めた。
- b Tôi sẽ tiếp tục nói. 「“sẽ”(未来)と“tiếp tục”(続ける)」
私 未来 続ける 言う
私は言い続ける。
- c Tôi sắp ăn xong. 「“sắp”(もうすぐ)と“xong”(終わる)」
私 もうすぐ 食べる 終わる
私はもうすぐ食べ終わる。

(9)～(11)を見ると、ベトナム語のアスペクトは特別な文法カテゴリーではない。アスペクトを表すために、機能詞や副詞を使っている。(9)の場合は時制(「*sẽ* (will-未来)」、「*sắp* (もうすぐ、まもなく)」、「*đã* (過去形)」)を表す副詞の例文である。それに対して、(10)は過程的な意味を持つ法動詞(「*bắt đầu* (始める)」、「*tiếp tục* (続ける)」、「*xong* (終わる)」)で表すアスペクトの例文である。最後の(11)は時制を表す副詞と過程的な意味を持つ法動詞で表すアスペクトの例文である。

このように、日本語と異なり、ベトナム語のアスペクトはアスペクトを表す機能詞や過程的な意味で表される。

孤立語であるベトナム語は形態変化しないという特徴の他に、語順によって文法的な機能を表す。これらの特徴はベトナム語の他動詞と自動詞によく表れる。

下記では、ベトナム語の他動詞・自動詞について述べる。

2.5.2 ベトナム語の他動詞と自動詞の特徴

形態変化しないベトナム語は他動詞と自動詞が同じ形式である。そのため日本語と異なり、他動詞と自動詞を区別するのは、語順である。次の(12)、(13)を見られたい。

- (12) a Họ đã **bật** đèn.
 彼ら 過去 つける 電気
 彼らは電気を消した。
- b Đèn đã **bật**.
 電気 過去 つく
 電気が消えた。
- (13) a Cô ấy đã **mở** cửa phòng.
 彼女 過去 開ける ドア 部屋
 彼女は部屋のドアにカギをかけた。
- b Cửa phòng đã **mở**.
 ドア 部屋 過去 開く
 部屋のドアのカギがかかった。

(12)と(13)のように、ベトナム語では他動詞と自動詞の形式は変わらず、同じ形式で表現し、文の語順によって、自動詞か他動詞かが決まる。(12)a、(13)aの動詞(「*bật* (つける)」、「*mở* (開ける)」)は目的語(「*đèn* (電気)」、「*cửa phòng* (部屋のドア)」、)をとり、主語(「*họ* (彼ら)」、「*cô ấy* (彼女)」、「」)が目的語に及ぶ動作を表す動詞なので、他動詞で

ある⁹。常に、他動詞は「S1 V S2」¹⁰の形式である。それに対して、(12)b、(13)b の場合(「“bật” (つける)」、「“mở” (開ける)」)は動詞が主語 (「“đèn” (電気)」、「“cửa phòng” (部屋のドア)」、)の後につき、目的語の状態変化を表すため自動詞である。自動詞の一般的な形式は「S2 V」の語順である。

このように、日本語の自動詞と他動詞の形式が変わるに対して、ベトナム語の自動詞と他動詞は形式が変わらない。そのため、同じ動詞が自動詞としても、他動詞としても用いられる。次の(14)はベトナム語の同じ動詞が自動詞としても、他動詞としても用いられるものである。

- (14) 「“tắt” (消す／消える)」、「“bật” (つける／つく)」、「“mở” (開ける／開く)」、「“đóng” (閉める／閉まる)」、「“dừng” (止める／止まる)」、「“khóa” (掛ける／掛かる)」、「“kết thúc” (終える／終わる)」、「“bắt đầu” (始める／始まる)」、「“lăn” (転がす／転がる)」 (cf. Nguyen Thi Hoang Yen 2016:37)

2.6 まとめ

本節では、ベトナム語の概要を述べた。日本語と同様、ベトナム語にも複合語と複合動詞も存在する。

ベトナム語の複合語には並立関係複合、主従関係複合と重複語がある。ベトナム語の複合動詞については第3章で詳しく検討する。

文法的には孤立語であるベトナム語は形態変化をせず、統語的關係はもっぱら語順、機能詞によって表す。従って、ベトナム語のアスペクトは特別な文法カテゴリーではない。ベトナム語のアスペクトを表すために、副詞や過程的な意味を持つ法動詞を使う。

更に、文の語順もベトナム語では重要である。ベトナム語の他動詞と自動詞は形式が同じであるため、文中の語順によって決まる。他動詞は目的語をとり、SVO 形式をとる。

⁹ ベトナム語の構文は SVO

¹⁰ S1:主語 V:動詞 S2:目的語

第3章 ベトナム語の複合動詞の分類

3.0 概要

本章では、ベトナム語の複合動詞の概要について検討する。Nguyen Kim Than (1977)は、ベトナム語の語彙的複合動詞を CHAP 動詞、並立関係、支配関係、行為結果、関係動詞+名詞、重複語、強意関係、同義語(並立関係 2)の8種類に分けた。この8分類は、一貫性がない。それに対して、Tran Thi Chung Toan(2002)は、要素の役割と意味の構成に基づいて、並立関係と主従関係二つの関係に再分類した。

しかし、Nguyen Kim Than (1977)、Tran Thi Chung Toan(2002)の研究に基づいて、日本語の複合動詞を対照すると、不適格なことがある。そのため、本章では筆者は先行研究の複合動詞の分類に基づいて、ベトナム語の複合動詞の種類を手段結果複合動詞と並立関係複合動詞に再分類した。

3.1 先行研究における複合動詞の分類

3.1.1 Nguyen Kim Than の分類

ベトナム語の動詞に関する Nguyen Kim Than (1977) の研究では、ベトナム語の動詞の構造を次のように分類している。

第一に、音韻の面から、単要素と多要素の二つの種類がある。一つは一音節から成るものを単要素「“đi” (行く)」、 「“đứng” (立つ)」、 「“ngồi” (座る)」で、もう一つは、二つ以上の音節から成るものを多要素「“lo lắng” (心配する)」、 「“yêu thương” (愛する)」、 「“đạy bảo” (教える)」である。

第二に、意味の面から分類すると、動詞の構造も二つの種類に分けられる。それらは単要素と多要素である。

Nguyen Kim Than (1977)の動詞の分類は次の図(1)で表す。略語の意味は次のようである。

CHAP は CHAP 動詞である。

A1 は並立関係である。

A2 は支配関係である。

A3 は行為結果である。

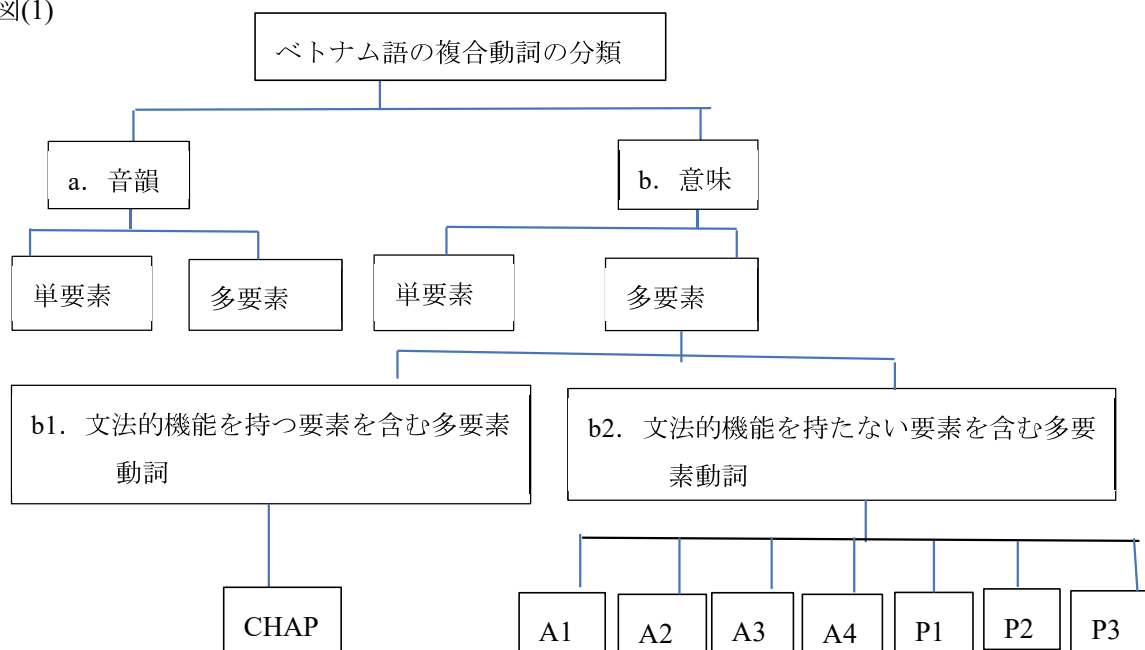
A4 関係動詞+名詞である。

P1 重複語である。

P2 強意である。

P3 同義語(並立関係 2)である。

図(1)



図(1)を見ると、ベトナム語の複合動詞の分類は次のようである。

a. 単要素の動詞

意味的に分割できない一つの形態素からなる動詞を単純語動詞と呼ぶ。(làm(やる、する)、ăn(食べる)、 học(勉強する)等)

b. 多要素の動詞

複数の構成素から成る動詞で、これは分類すると、第1要素が、自動詞を他動詞化する等の文法的機能を持つものと、第1要素がその様な文法的機能を担わないものに分けられる。

b1. 文法的機能を持つ要素を含む多要素の動詞

①CHAP 動詞

本来、本動詞として使われる動詞が他の動詞と結合して、他動詞化する等の文法的機能を果たす場合がある。このような機能を果たす一群の動詞類を、この種類の代表的な動詞である(CHAP-割れたものをくっつける等)に基づき、CHAP 動詞(以下ではCで表わす)と呼ぶ。CHAP 動詞の詳細は後述する。次の(1)~(3)はその例である。

- | | | | |
|-----|----------|------|-------|
| (1) | đánh | roi | |
| | 叩く、打つ、殴る | 落ちる | = 落とす |
| (2) | đánh | vỡ | |
| | 叩く、打つ、殴る | 割れる | = 割る |
| (3) | đánh | thức | |

叩く、打つ、殴る 起きる = 起こす

(1)～(3)では、đánh という要素が含まれているが、自動詞「roi (落ちる)」、「vỡ (割れる)」、「thức (起きる)」と結合すると、全体として他動詞になる「đánh roi (落とす)」、「đánh vỡ (割る)」、「đánh thức (起こす)」。

更に、đánh という動詞は打撃・接触動詞のグループに属し、本来の意味は人を叩く、太鼓を打つという意味である。次の(4)を見られたい。

- (4) Con trai tôi đánh người. 「**“đánh” (叩く)**」の真動詞の用法の例
息子 私 叩く 人
私の息子は人を叩いた。

又、Nguyen Kim Than (1976 : 55)によると、「đánh không có khả năng tách khỏi nội động từ để phát sinh quan hệ ngữ pháp với từ khác」(「đánh (叩く)」という動詞は結合した自動詞から切り離し、他の単語と結合すると文法的機能を結合することができない)。次の(5)～(7)はその例である。

- (5) sách rơi 自動詞の例
本 落ちる
本が落ちる
- (6) đánh roi sách 他動詞の例
叩く、打つ、殴る 落ちる 本
本を落とす
- (7) *đánh sách 文法的機能を持たない例
叩く、打つ、殴る 本

CHAP 動詞は自動詞を他動詞にする機能を持っているので、このような đánh という要素は文法的機能を持つ動詞と呼ばれる。従って、đánh という文法的機能を持つ動詞は自動詞用法しか持たない自動詞と形容詞のみと結合すれば、他動詞になり、複合動詞の要素になる。đánh の他に、本来の使役他動詞「làm (やる、する)」も自動詞や形容詞を結合すれば、他動詞になる。次の(8)～(10)は、形容詞から他動詞(複合動詞)になる文法的機能動詞である¹¹。

¹¹ (8)～(10)の例においてグロスでは動詞の「ている」形を作っているが、これに対応するベトナム語の単語は形容詞である。

- (8) làm hỏng
やる 壊れている＝壊す
- (9) làm rách
やる 破れている＝破る
- (10) làm nát
やる ダメだ＝つぶす

しかし、日本語と同様に、ベトナム語もいくつかの動詞が自動詞としても他動詞としても使える（第2章を参照）。下の(11)と(12)は他動詞としても、自動詞としても使える動詞である。

- (11) mở : 開ける、開く
- a. Tôi mở cửa.
私 開ける、開く ドア
私はドアを開ける。 **他動詞の例**
- b. Cửa mở.
ドア 開ける、開く
ドアが開く。 **自動詞の例**
- (12) đóng : 閉める、閉まる
- a. Tôi đóng cửa.
私 閉める、閉まる ドア
私はドアを閉める。 **他動詞の例**
- b. Cửa đóng.
ドア 閉める、閉まる
ドアが閉まる。 **自動詞の例**

しかし、(11)、(12)のような動詞は他動詞と自動詞でも使えるので、CHAP 動詞のような文法的機能を持つ動詞と結合することは許されない。以下にその例を示す。

- (13) *đánh mở
叩く、打つ、殴る 開ける、開く
- (14) *đánh đóng
叩く、打つ、殴る 閉める、閉まる

(13)、(14)のような、「mở」(開ける、開く)、「đóng」(閉める、閉まる)は他動詞、自動詞と共に表れるので、「đánh」(叩く、打つ、殴る)という CHAP 動詞を結合することができない。

CHAP 動詞という名称の元となった CHAP という動詞は、割れたものを接合したり、両手を合わせたりする場合に使われる動詞である。

このように、CHAP 動詞は自動詞を他動詞化する機能を持ち、更に、形容詞から他動詞に変化するなど、複合動詞の要素になる。

b2. 文法的機能を持たない要素を含む多要素の動詞

文法的機能を持たない要素を含む多要素の動詞にも二つの種類がある。それらは複合動詞と PHA 動詞である。

第一の種類は複合動詞である。複合動詞とは二つの語彙的な意味を持つ要素を含む動詞である。この複合動詞は4種類があり、順番に A1、A2、A3、A4 の記号とする。

②A1—並立関係

並立関係においては二つの動詞が対等の関係で結合する。次の(15)~(17)は並立関係の例である。

- | | | |
|------|------|----------|
| (15) | ăn | uống |
| | 食べる | 飲む=飲食する |
| (16) | ẵm | bé |
| | 抱く | 抱く=抱き上げる |
| (17) | sống | chết |
| | 生きる | 死ぬ=生て死ぬ |

(15)~(17)を見ると、二つの要素は本来の語彙的な意味を結合する。二つの要素構成の意味は類義語か反対語である。単純語の意味より複合動詞の意味のほうが抽象的である。(15)の「ăn」(食べる)の本来の語彙的な意味は食物をかんで、飲み込むこと(ご飯を食べるように)で、「uống」(飲む)の本来の語彙的な意味は液体、気体、粉などをのどに流し込むことである。

これに対して、二つの要素が結合した「ăn uống」(飲食する)は、「飲食する」という抽象的な意味になる。単純語の食べる(ăn)と飲む(uống)が、具体的な目的語を要求するのに対して、結合することによって自動詞の用法しか持たず、具体的な飲食物を目的語として取ることはなくなる。次の(20)~(22)を見られたい。

- (18) Tôi ăn cơm. 単純語の食べる-ăn の例
私 食べる ご飯
私はご飯を食べる。
- (19) Tôi uống nước. 単純語の飲む-uống の例
私 飲む 水
私は水を飲む。
- (20) Tôi ăn uống vui vẻ. 自動詞飲食する ăn-uống の例
私 飲食する 楽しい
私は楽しく飲食する。
- (21) *Tôi ăn uống cơm 具体的な飲食物の目的語の例
私 飲食する ご飯

③A2—支配関係

支配関係においては、前項要素は行為を表す動詞で、後項要素は前項要素の動詞の対象の名詞が来る。次の(22)～(24)はその例である。

- (22) ăn cánh
食べる 翼 = 片棒を担ぐ
- (23) có mặt
いる、ある 顔 = 出席する、参加する
- (24) biết ơn
知る 恩 = 感謝する

(22)～(24)を見ると、前項要素「“ăn” (食べる)」、「“có” (いる、ある)」、「“biết” (知る)」は動詞であるが、後項要素「“cánh” (翼)」、「“mặt” (顔)」、「“ơn” (恩)」は名詞である。前項要素の動詞と後項動詞の名詞を結合すると、支配関係複合動詞になる。

④A3—行為結果

前項要素が主動詞で、後項要素が前項の動詞の結果、あるいは前項の動詞の状態を表すタイプを行為結果の複合動詞と呼ぶ。要素構成は「動詞+動詞」または「動詞+形容詞」である。次の(25)～(28)はその例である。

- (25) lật đổ
伏せる 倒れる = 倒す
- (26) thu hẹp

- 納める、あつめる 狭い = 縮小する、狭める
- (27) đánh gục
打つ、叩く、殴る 倒れる = 倒す、殴り倒す
- (28) Lục sẽ đánh gục mẹ con Thị Cần.
ルックさん 未来 殴り 倒れる 母子 ティキャンさん
ルックさんはティキャンさん母子を殴り倒す。

(25)～(27)を見ると、前項要素は他動詞「*lật」(伏せる)、「*thu」(納める、あつめる)、「*đánh」(打つ、叩く、殴る)であるが、後項要素は自動詞か形容詞「*đổ」(倒れる)、「*hẹp」(狭い)、「*gục」(倒れる)である。前項要素の他動詞と後項動詞の自動詞/形容詞を結合すると、行為結果合動詞になる。(28)は行為結果複合動詞の例文である。

更に、このような行為結果複合動詞の特徴は、他の要素を二つの要素の間に挿入することができない。そのため、ベトナム語の行為結果複合動詞は1語であることが証明される。(29)と(30)はその例である。

- (29) *lật đã đổ (cf.Nguyen Kim Than 1977:488 を筆者改変)
伏せる 過去 倒れる
- (30) *thu sắp hẹp (cf.Nguyen Kim Than 1977:488 を筆者改変)
納まる、あつめる 未来 狭い

ここで、注意しなければならないことは、後項要素は本来は、(25)と(27)は自動詞で(26)は形容詞なので、単純語として用いられる場合には目的語は必要ないことである。しかし、前項要素と結合すると、直接目的語が必要となる。次の(31)、(32)をみられたい。

- (31) *hẹp khoảng cách địa lí “hẹp”(狭い)が単純語として用いられる場合
狭い 距離 地理
- (32) thu hẹp khoảng cách địa lí “thu hẹp”(狭める)前項要素と結合する場合
狭める 距離 地理

地理の距離を狭める

(31)を見ると、「*hẹp」(狭い)の単純語の場合は「*khoảng cách địa lí」(地理の距離)の目的語が必要ない。それに対して、(32)の場合は、前項要素「*thu」(納める、あつめる)と結合する「*thu hẹp」(狭める)は直接目的「*khoảng cách địa lí」(地理の距離)を取る。

私 労働する 宿題

- (41) Cha mẹ làm lụng vất vả để nuôi con. làm lụng の自動詞の例 両親 労働する 大変 目的語 育てる 子供
子供を育てるために、両親は一生懸命労働する。

更に、P1 は複合動詞の A1 (並立関係)と同じで二つの要素の間にレトリックの要素(với、chả、chẳng)を挿入すると、本来の意味は変わらないが、軽視やアイロニカルな意味を表す。次の(42)、(43)を見られたい。

- (42) lo với chả lảng (cf. “lo lảng” (心配する))
心配する レトリックの要素 ø = 心配するなんて
- (43) ăn với chả uống (cf. “ăn uống” (飲食する))
食べる レトリックの要素 飲む = 飲食するなんて

⑦P2—強意

P2—強意は、前項要素の強意である。前項要素は動詞で、後項要素が加わると前項要素を強める。後項要素は感情を表す。次の(44)～(46)はその例である。

- (44) nhắm nghiên
閉じる ø = 目を閉じる(強意)
- (45) lăn kènh
転がる ø = 転がる(強意)
- (46) trói nghiên
縛る ø = 縛る(強意)

(44)～(46)のように、前項要素「“nhắm” (閉じる)」、「“lăn” (転がる)」、「“trói” (縛る)」は動詞であるが、後項要素「“nghiên” (ø)」、「“kènh” (ø)」、「“nghiên” (ø)」は語彙的な意味を持っていない要素である。しかし、二つの要素を結合する「“nhắm nghiên” (目を閉じる)」、「“lăn kènh” (転がる)」、「“trói nghiên” (縛る)」と前項要素を強意化する。

Nguyen Kim Than (1976:53)によると、「“những ngữ vị này không có ý nghĩa chân thực、 không được vận dụng tự do、 không có tác dụng cấu tạo từ rộng rãi、 nhưng kết hợp với ngữ vị gốc có tác dụng tăng cường độ của hoạt động hoặc biểu thị thái độ cương quyết của chủ thể khi thực hiện hoạt động” (このような後項要素は本来の意味を持たないので、自由に使えない。更に、生産性が低い [(“trói nghiên” (縛る)(強意))、 (* “buộc nghiên” = 結ぶ)]。「“trói” (縛る) と “buộc” (結ぶ) は類義語であるにもかかわらず、「“trói nghiên” (縛る+ ø=縛る))

は使えるが、「* “buộc nghiên” (結ぶ+ ø=結ぶ)」とはできない。いくつかの本来の要素のみを結合することができたなら、行為の意味が強意になる。要素構造も厳密で、間にとのような言葉も挿入することができない。)。 (筆者訳)次の(47)と(48)を見られたい。

- (47) *trói cho nghiên (Nguyen Kim Than 1977:53 を筆者改変)
 縛る 機能語 ø
- (48) *lăn cho kệnh (Nguyen Kim Than 1977:53 を筆者改変)
 転がる 機能語 ø

(47)と(48)を見ると、「“trói nghiên” (縛る)」と「“lăn kệnh” (転がる)」は一語である。そのため、二つの要素の間に他の語を介入することは許されない。

⑧P3-同義語(並立関係 2)

同義語(並立関係 2)は前項要素は動詞で本来の語彙的な意味を持ち、後項要素は語彙的な意味を持たない。通時的には、古代のベトナム語では、前項要素の意味と同じであった。共時的にはこのような動詞は並立関係の複合動詞である。後項要素は本来の独立の要素である。次の(49)~(51)はその例である。

- (49) lo âu
 心配する ø = 心配する
- (50) hỏi han
 聞く、伺う ø = 聞く、伺う
- (51) đổi chác
 替わる ø = 替わる

上記の(49)~(51) は同義語の例である。前項要素「“lo” (心配する)」、「“hỏi” (聞く)」、「“đổi” (替わる)」は本来の語彙的な意味を持つ動詞である。それに対して、後項動詞(“âu” (ø)、“han” (ø)、“chác” (ø))は語彙的な意味を持たない。しかし、それらの要素は通時的には、古代のベトナム語では、前項要素の意味と同じであった。

上記の Nguyen Kim Than(1977)の動詞の分類を、次の表 1 にまとめておく。

表 1 Nguyen Kim Than(1977)の動詞の分類

単要素	単純語	「“đi” (行く)、“đứng” (立つ)、“ngồi(座る)」	
多要素	文法的機能を持つ動詞	CHAP 動詞は二つの要素がある。 ①文法的な機能を持つ。 ②本来的な語彙的意味を持つ。	<p>đánh roi 叩く、打つ、殴る+落ちる=落す</p> <p>đánh vỡ 叩く、打つ、殴る+割れる=割る</p> <p>đánh thức 叩く、打つ、殴る+起きる=起こす</p>
	文法的機能を持たない動詞	複合動詞 ・二つの本来的な語彙的意味を持つ要素が結合する。 ・4種類に分けられる。	<p>A1-並立関係(1)</p> <p>・二つの要素は動詞で、対等に結合。</p> <p>・二つの要素構成の意味は並立関係、類義語、反対語。</p> <p>・要素構成： 動詞+動詞</p> <p>ăn uống 食べる+飲む=飲食する</p> <p>ẵm bế 抱く+抱く=抱き上げる</p> <p>sống chết 生きる+死ぬ=生死する</p>
			<p>A2-支配関係</p> <p>・前項要素は行為を表す動詞、後項要素は前項要素の動詞の対象の名詞</p> <p>・要素構成： 動詞+名詞</p> <p>ăn cánh 食べる+翼=片棒を担ぐ</p> <p>có mặt いる、ある +顔=出席する、参加する</p>

		A3-主従関係 ・前項要素は主動詞、後項要素は主動詞の結果を表す ・要素構成： 動詞+動詞・形容詞	lật nhào 伏せる 倒れる = 倒す thu hẹp 納まる+ 狭い =縮小する、狭める
		A4-関係動詞+名詞	làm 働く、やる、する、 + khách 客 =遠慮する 気兼ねする đánh bạn 叩く、打 つ+友達 =友達となる
	PHA 動詞 ・本来の語彙的な意味を持つ。 ・他の要素は語彙の意味を持たない。 ・3種類ある。	P1-重複語	lo lắng 心配する+ ø =心配する cậy cục 信頼する、頼む+ø =信頼する
		P2-強意 前項要素は動詞、後項要素が加わると、前項要素の強意になる。後項要素は本来の語彙的な意味を持たない。	nhắm nghiền 閉じる+ ø= 目を閉じる Lăn kèn 転がる+ø=転がる
		P3-並立関係(2) 前項要素は動詞で本来の語彙的な意味を持つ。後項要	lo âu 心配する+ ø = 心配する hỏi han

			素は語彙的な意味を持たない。通時的には前項要素の意味と同じ。同時的には並立関係の複合動詞に当たる。	聞く、伺う+ ø=聞く、伺う đổi chác 替わる+ ø=替わる
--	--	--	---	---

出典：Tran Thi Chung Toan (2002:108)を参考に筆者作成。

表(1)のように、Nguyen Kim Than (1977)は、意味の面から多要素動詞を文法的機能を持つ要素を含む CHAP 動詞と文法的機能を持たない動詞を含む複合動詞と PHA 動詞の三つに分類した。更に、文法的機能を持つ動詞を含まない動詞には構成要素が語彙的な意味を保って複合する複合動詞と、意味を失った構成素を含む PHA 動詞に分類し、CHAP 動詞を入れると、合計 8 種類がある。

しかし、複合動詞の研究を行った Tran Thi Chung Toan (2002 : 110) は、Nguyen Kim Than (1977)の 8 分類には、重なっているタイプがあるので、更に簡潔に分類することができると考えた。次に、その Tran Thi Chung Toan (2002)の観点を見ることにする。

3.1.2 Tran Thi Chung Toan の分類

Tran Thi Chung Toan (2002 : 110)によると、C-CHAP 動詞にも、A4-関係動詞+名詞においても「đánh」(打つ、殴る、叩く)」という動詞がある。どちらの類においても「đánh」(打つ、殴る、叩く)」の意味は同じで、「làm」(使役他動詞-やる、する)」という意味を表す。そうであれば、前項要素は後項要素を実現させる。次の(52)~(55)を見られたい。

- (52) đánh vỡ C の例
叩く、殴る 割れる = 割る
- (53) đánh bạn A4 の例
叩く、殴る 友達 = 親しくなる、友達となる
- (54) làm vỡ
やる、する 割れる = 割る
- (55) làm bạn
やる、する 友達 = 親しくなる、友達となる

(52)の CHAP 動詞「“đánh vỡ”(割る)」と(53)の関係動詞+名詞「“đánh bạn”(友達なる)」には「“đánh”(打つ、殴る、叩く)」という動詞がある。更に、(54)、(55)のように、これら「“đánh”(打つ、殴る、叩く)」という動詞の意味は同じで、「“làm”(使役他動詞—やる、する)」という意味を表す「“làm vỡ”(割る)」、「“làm bạn”(友達となる)」。

次の A3 も P2 も共に前項要素が行為、後項要素が結果・状態を表す複合動詞である。そのため、A3 と P2 は一の種類となる。

最後の A1、P1 と P3 は三つの種類の各要素の関係は全体で並立関係である。そのため、A1、P1 と P3 は一の種類となる。

次の表 2 は Tran Thi Chung Toan の分類の表である。

表 2 Tran Thi Chung Toan の複合動詞の分類

同様種類	解 釈	例
C+A4	他の要素と結合すると、何かの同じ意味を持っている言葉を作成することができる要素がある。	đánh roi 叩く、殴る+落ちる = 落とす đánh bạn 叩く、打つ、磨く、捉える+友達 =友達となる、親しくなる
A3+P2	主従関係で前項要素が行為、後項要素が結果・状態を表す複合動詞である	nhắm nghiền 閉じる+ \emptyset =目を閉じる(強意) lật nhào 伏せる 倒れる = 倒す
A1+P1+P3	これらの三つの種類の各要素の関係は全体で並立関係である。	Ăn uống 食べる+飲む = 飲食する Lo lắng 心配する+ \emptyset =心配する hỏi han 聞く、伺う+ \emptyset =聞く、伺う

表(2)を見ると、A2 の種類 (支配関係) はない。Tran Thi Chung Toan(2002)は、Nguyen Kim Than (1977)の 8 種類の分類から、要素の役割の面と意味の構成の面に基づいて、ベトナム語の複合動詞を並立関係と主従関係の 2 つに再分類した。主従関係の中に、前項要素が派生動

詞の種類もあるので、全部で小さな3種類しかない。(Tran Thi Chung Toan (2002:111)。次の表3を見られたい。

表3 Tran Thi Chung Toan の複合動詞の再分類

同様関係	再分類の関係	要素の記号	解釈	例
A1+P1+P3	並立関係	v1+v2 ¹⁵	A1 (並立関係) P1 (重複語) は複合語の特別な種類 (自分と結合する) ので、並立関係に入れてもよい。 P3 前項要素は動詞で本来の語彙的な意味を持つ。後項要素は語彙的な意味を持たない。通時的には前項要素の意味と同じなので、並立関係に入れてもよい。	Ăn uống 食べる+飲む=飲食する Lo lắng 心配する+ø=心配する cậy cựa 信頼する+ø =信頼する đổi chác 替わる+ø=替わる Quét tước 掃除する+ø=掃除する Lo âu 心配する+ø=心配する
A2+A3+P2	主従関係	V1+v2 ¹⁶	A2 (支配関係) は複合動詞の場合には動詞と結果の関係である。	Ăn cánh 食べる+翼=片棒を担ぐ Có mặt いる、ある+顔= 出席する、参加する
C+A4		V1'+V2 ¹⁷	前要素は派生意味 ¹⁸ である。	Đánh rơi 叩く、打つ+落ちる=落

¹⁵ v : 付属動詞

¹⁶ V : 自立動詞

¹⁷ ' : 派生意味、1 : 前項要素、2 : 後項要素

¹⁸ 派生意味: 本来意味を持っていない。例えば、CHAP 動詞「“đánh vỡ”(割る)」と「関係動詞+名

(56)~(58)の3つの例は2つの要素から構成されるが、両構成素の意味が融合する。更にこれらの3つの例には共通点がある。

Nguyen Kim Than (1977 : 52) によれば、複合動詞の並立関係(1)、PHA 動詞の重複語、PHA 動詞の並立関係(2)は、いずれも、二つの構成素の間に機能語（レトリックの要素）を挿入することができるという点で共通している。次の(59)~(61)を見られたい。

- | | | | | |
|------|-----|-----|------|-----------------------|
| (59) | ẵ | với | bé | 複合動詞の並立関係(1) |
| | 抱く | 機能語 | 抱く = | 抱き上げるなんて |
| (60) | bắt | với | bớ | PHA 動詞の重複語 |
| | 捕まる | 機能語 | ∅ = | 捕まるなんて、捕らえるなんて |
| (61) | lo | với | âu | PHA 動詞の並立関係(2) |
| | 心配 | 機能語 | ∅ = | 心配するなんて |

(59)~(61)を見ると、V1 と V2 の間に機能語(với)を挿入することができる。そして、これらの複合動詞の構成素の意味は融合する。従って、本稿では複合動詞の共通点に基づいて、Nguyen Kim Than (1977)の三つの種類(複合動詞の並立関係(1)、PHA 動詞の重複語、PHA 動詞の並立関係(2))をまとめ、一つのタイプとし、これを「並立関係複合動詞」とする。

次の第二のタイプの手段結果複合動詞について説明しておく。

本論の研究対象は日本語とベトナム語の複合動詞のうち、「動詞+動詞」(V1+V2)の複合動詞である。従って、ベトナム語の「動詞+動詞」、「動詞+形容詞」の複合動詞だけ取り出す。しかし、Tran Thi Chung Toan(2002)の分類の主従関係には、A2(支配関係)、A4(関係動詞+名詞)、P2(強意)がある。これらの複合動詞は後項要素が動詞ではないため、本論は研究対象としない。次の(62)~(64)は V2 が動詞ではない例である。

- | | | | |
|------|-------|----------------|--------------------|
| (62) | ăn | cánh | A2(支配関係) |
| | 食べる | 翼=片棒を担ぐ | |
| (63) | đánh | bạn | A4(関係動詞+名詞) |
| | 叩く、打つ | 友達=友達となる、親しくなる | |
| (64) | nhắm | nghe | P2(強意) |
| | 閉じる | ∅ = | 目を閉じる(強意) |

(62)～(64)をみると、前項要素は動詞「“ăn”(食べる)、“đánh”(叩く、打つ)、“nhắm”(閉じる)」であるが、後項要素は名詞「“cánh”(翼)、“bạn”(友達)」である。更に、これらの後項要素は、前項動詞の結果を表してはいない。

影山(1993:78)によると、日本語の複合動詞の V1 と V2 は、動作の状態・手段(押し開ける、転げ落ちる、もみ消す)、付帯状況(飲み歩く、語り明かす)、平行動作(泣き叫ぶ、恋い慕う、忌み嫌う)などのような意味関係を持っている。

一方、Tran Thi Chung Toan(2002)の分類によると、ベトナム語の主従関係の V1 と V2 の意味関係は V1 の示す出来事が、V2 の示す出来事に対してどのような役割を果たすか明確でない。日本語とベトナム語の複合動詞を対照するためには二つの言語が対等でなければならない。

本論では、Nguyen Kim Than (1977)の分類した種類 1 (C-CHAP 動詞) と種類 4 (A3-行為結果) の要素構成は前項要素が動作を表し、後項要素が前項要素の結果を表すので、手段結果複合動詞として扱う。次の(65)、(66)を見られたい。

(65) đánh roi **種類 1 (CHAP 動詞)**

叩く、殴る、打つ 落ちる =落とす

(66) lật nhào **種類 4(行為結果)**

伏せる 倒れる = 倒す

(65)と(66)を見ると、V1 「“đánh”(叩く、殴る、打つ)」、「“lật”(伏せる)」は他動詞で V2 「“roi”(落ちる)」、「“nhào”(倒れる)」は V1 の行為の結果を表す自動詞である。そのため、V1 と V2 を結合すると、手段結果複合動詞になる。従って、本稿では、Nguyen Kim Than (1977)の分類した種類 1 (CHAP 動詞) と種類 4 (行為結果) を 1 グループにし、手段結果複合動詞とする。

ベトナム語の複合動詞の各種類の共通点と日本語の複合動詞とベトナム語の複合動詞の研究対象と対等に基づいて、本論ではベトナム語の複合動詞を整理し、並立関係複合動詞と手段結果複合動詞の 2 種類に再分類した。次の表 4 は筆者の複合動詞の分類である。

表 4 筆者の複合動詞の分類

タイプ	筆者の分類	解釈	例
第 1 のタイプ	並立関係複合動詞	二つの要素から構成されるが、両構成素の意味が融合する。	ăn uống (並立関係(1)) 食べる+飲む = 飲食する lo lắng (重複語) 心配する+ø=心配する

			hỏi han (並立関係(2)) 聞く、伺う+ ø = 聞く、伺う
第 2 の タイプ	手段結果 複合動詞	前項要素が主動詞、後項要素が主動詞の結果を表す。	lật nhào (行為結果関係) 伏せる 倒れる = 倒す Đánh roi (CHAP 動詞) 叩く、打つ+ 落ちる = 落とす

3.3 まとめ

本章ではベトナム語の複合動詞について検討した。筆者が先行研究の Nguyen Kim Than (1977)と Tran Thi Chung Toan(2002)のベトナム語の複合動詞の分類に基づいて、並立関係複合動詞と手段結果複合動詞の二つの種類に再分類した。

Nguyen Kim Than(1977)はベトナム語の複合動詞を 8 種類に分類した。それらは CHAP 動詞、並立関係(1)、支配関係、行為結果、関係動詞+名詞、重複合、強意、並立関係(2)である。

しかし、Tran Thi Chung Toan (2002:110) は、Nguyen Kim Than (1977)の 8 分類には、一貫性がなく、更に簡潔に分類することができると考えた。

そのため、Tran Thi Chung Toan (2002) は、Nguyen Kim Than (1977)の 8 種類の分類から、要素の役割の面と意味の構成の面に基づいて、複合動詞を並立関係複合動詞と主従関係複合動詞の二つの関係に分類した。

影山(1993:78)によると、日本語の複合動詞は構成する V1 と V2 の意味関係に目を向けると、動作の状態・手段(押し開ける、転げ落ちる、もみ消す)、付帯状況(飲み歩く、語り明かす)、平行動作 (泣き叫ぶ、恋い慕う、忌み嫌う)などのような意味関係を持っている。一方、ベトナム語の主従関係の V1 と V2 の意味関係は V1 の示す出来事が、V2 の示す出来事に対してどのような役割を果たすか明確でない。

本論の研究対象は日本語とベトナム語の複合動詞のうち、「動詞+動詞」の複合動詞である。従って、ベトナム語の「動詞+動詞」もしくは、「動詞+形容詞」の複合動詞は除外する。

日本語の複合動詞とベトナム語の複合動詞を対照するために、筆者は Nguyen Kim Than (1977)と Tran Thi Chung Toan (2002) のベトナム語の複合動詞の分類を基に、手段結果複合動詞と並立関係複合動詞の 2 種類に再分類した。

第4章 日本語とベトナム語の複合動詞の対照研究

I 概要

日本語の複合動詞が語彙的複合動詞と統語的複合動詞の二つに分類されるということは、影山(1993)によって指摘されている。語彙的複合動詞は、後項動詞が助動詞的な役割を持たないのに対し、統語的複合動詞の後項動詞は、アスペクト等の助動詞的な機能を持っている。しかし、ベトナム語の複合動詞には日本語の語彙的複合動詞に対応するものしかない。日本語の統語的複合動詞のアスペクトなどの助動詞に相当するものは、ベトナム語では機能詞である。従って、本節では、日本語の統語的複合動詞には言及せず、日本語の語彙的複合動詞とベトナム語の複合動詞の対照を研究する。

日本語と異なり、ベトナム語の複合動詞には付帯状況、原因結果、補文関係²⁰が存在しない。そのため、本節では日本語とベトナム語の手段結果複合動詞と並立関係の複合動詞の対照を研究する。IIでは日本語とベトナム語の手段結果複合動詞の対照をする。IIIでは日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の対照をする。

II 日本語とベトナム語の手段結果複合動詞の対照

4.0 日本語とベトナム語の手段結果複合動詞の概要

日本語とベトナム語と共に手段結果複合動詞がある。日本語の手段結果複合動詞は、複数の述語を一つの動詞に結合することが出来るため、「切り倒す、飲み干す、押し出す」などのように三つの意味的な述語「〈手段〉 + 〈使役 〈結果〉〉」を合わせた一つの動詞となる。

「切り倒す、叩き殺す、折り曲げる」などでは、前項動詞(切る、叩く、折る)は手段が表れ、後項動詞(倒す、殺す、曲げる)は働きかけ(倒した、殺した、曲げた)と同時に結果(倒れた、死んだ、曲がった)が表れる。このように、日本語の使役他動詞の使役を表す要素は顕在的に表示し、動作と同時に結果も含意し、更に、構成素が他動性に関して、同一のものしか組み合わせられない。また、日本語の手段結果複合動詞は語彙レベルで形成される。従って、影山(1993)の「他動性調和の原則」の制限に従う。

一方、ベトナム語は複数の述語を複数の位置に代入する形式をとる。そのため、ベトナム語の手段結果複合動詞は二つの述語「〈手段〉 + 〈結果〉」を二つの位置に代入する。使役を表す要素は義務的ではなく、潜在的に表示する。つまり、日本語と異なり、ベトナム語の使役他動詞は動作のみを表し、完了アスペクトを含意しない。例えば、「殺す」という使役他動詞は、「殺した」という行動をしたが、「死んだ」という結果まで言及しない。結果を表す場合は、状態・位置変化を表す結果の自動詞と連結し、手段結果複合動詞になる。例えば、

²⁰ ベトナム語では付帯状況、原因結果、補文関係は副詞と連結動詞句で表す。

「、「bẻ gãy” (折る折れる)、“đốt cháy” (燃やす燃える)」である。従って、ベトナム語の手段結果複合動詞の構成要素は日本語と異なり、他動詞と自動詞を結合することができる。

4.1 日本語の手段結果複合動詞の構成構造

由本 (1996:110)によると、手段結果複合動詞は日本語の複合動詞の中で最も生産性が高いタイプである。BY で関連付けられる二つの事象は当然意図的な行為を表すので、V1 と V2 の動作主が同定される。つまり、日本語の手段結果複合動詞の V1 と V2 は他動詞/非能格動詞同士の組み合わせの複合である。

松本(1998:52)によると、下の(1)に挙げた日本語の手段結果複合動詞は前項動詞(V1)が後項動詞(V2)に時間的に先行する。その上、前項動詞は全て動作主的動詞であり、又、後項動詞は何らかの状態/位置変化の使役を表す動詞であり、つまり使役他動詞である。

- (1) 押し倒す、叩き落とす、打ち上げる、掃き集める、投げ飛ばす、切り抜く、だまし取る、ちぎり取る、取り除く、焼き付ける、折り曲げる、たたき壊す、踏み固める、蹴り崩す、殴り殺す、洗い清める (cf.松本 1998:53)

(1)を見ると、日本語の手段結果複合動詞の構成素は、前項動詞「押す、叩く、打つ、掃く...」が動作他動詞と後項動詞「倒す、落とす、上げる、集める...」が使役他動詞と結合する。日本語の手段結果複合動詞は「他動詞+他動詞」の組み合わせでなければならない。

4.2 日本語とベトナムの働きかけ動詞と使役他動詞

普通、他動詞は、その節の中で目的語をとり、主語から目的語に及ぶ動作で、同時に目的語の状態/位置変化を表す。しかし、他動詞の中に活動しか表さない動詞(状態/位置変化を伴わない動詞)も存在する。次の 4.2.1、4.2.2 では日本語とベトナム語の働きかけ動詞と使役他動詞(働きかけ動詞同時に結果を表す動詞)の具体的な性格を説明する。

4.2.1 日本語とベトナム語の働きかけ動詞

働きかけ動詞とは状態/位置変化を伴わない他動詞と非能格自動詞で、働きかけのみを表し、結果がどうなるかの意味を含意しない動詞である(cf.影山:1996)。日本語、ベトナム語共にこのような働きかけを表す動詞が存在する。

日本語の、結果を含意せずに働きかけだけを表す他動詞は、次の(2)が代表的なものである。

- (2) 叩く、蹴る、こする、振る、ねじる、触る、誉める、読む (cf.影山 1996:242)

- (3) 私は子供を叱ったが、子供が聞かなかった。
 (4) 私はマッチを擦ったが、火が出なかった。

(3)と(4)は働きかけのみ表す他動詞「叱る、擦る」の目的語は働きかけの及ぶ作用対象に過ぎず、状態/位置変化の対象ではないので、否定文「聞かなかった、出なかった」でも適用できる。

次は、ベトナム語の働きかけを表す他動詞を見てみよう。

日本語と同様、ベトナム語では状態/位置変化を伴わない他動詞が多い。Nguyen Thi Thu Huong (2010:117)によると、「các hành động chuyển tác như đọc , xem, nhìn có tác động đến thực thể nhưng không làm thay đổi thực thể(「“đọc”(読む)、“nhìn, xem”(見る)」など)は動作主が活動しか表さず、目的語の状態/位置変化に言及しない動詞である)」(筆者訳)。次の(5)はその代表的なものである。

- (5) 「“nhìn, xem”(見る)」、「“đọc”(読む)」、「“nghe”(聞く)」、「“vẽ”(描く)」、「“viết”(書く)」、「“bảo”(諭す)」 (cf.Nguyen Thi Thu Huong 2010:119)
 (6) Tôi đã bảo nó, nhưng nó không nghe.
 私 過去 諭す あいつ しかし あいつ ~ない 聞く
 私はあいつを諭したが、聞いてくれなかった。
 (7) Tôi đã đọc truyện này, nhưng tôi không hiểu.
 私 過去 読む 小説 この しかし 私 ~ない 分からない
 私はこの小説を読んだが、分からなかった。
 (8) * 「đọc hỏng*(読む壊れる)」、* 「 nghe rách(聞く破れる)」、* 「vẽ chết(描く死ぬ)」

日本語と同様、(6)と(7)では、「“bảo”(諭す)、“đọc”(読む)」の他動詞は単純に動作主の動作を表し、状態/位置変化の結果を表さないので、対象が否定文「“không nghe”(聞いてくれなかった)、“không hiểu”(分からなかった)」でも適用できる。(8)は働きかけ動詞は結果を表す状態変化非対格自動詞を結合することができない例である。

このように、4.2.1では、働きかけしか表さない動詞、つまり状態/位置変化を伴わない他動詞について説明した。このような動詞は日本語、ベトナム語共に存在する。しかし、日本語の働きかけ動詞は使役他動詞を結合することができる²¹。それに対して、ベトナム語の働きかけ動詞は使役他動詞を結合することができない。複合動詞の構成構造とならない。

²¹ 日本語の働きかけ動詞には「叩く、蹴る、投げる、押す」などのような接触/打撃動詞がある。「叩き、蹴り、投げる、押す」の語彙概念には結果性が含まない。しかし、これらの行為に対して、「壊す、飛ばす」がその行為に伴う目的語の状態変化を表している。(cf.影山 1996:84-89)

次の4.2.2では、日本語とベトナム語の使役他動詞(状態/位置変化を伴う他動詞)について説明する。

4.2.2 日本語とベトナム語の使役他動詞

影山(1996:84)は、「使役他動詞とは主語の何らかの行為によって、目的語の状態変化ないし位置変化が引き起こされる動詞である。「引き起こす」という概念は通常、使役(causation)とよばれる。」とする。言い換えれば、「殺す、倒す、切る、折る、壊す」などのような動詞は働きかけ(殺した、倒した、切った、折った、壊した)と同時に状態変化の結果(死んだ、倒れた、切れた、折れた、壊れた)も含意する動詞である。このような他動詞は日本語、ベトナム語共に存在する。しかし、日本語は単純な動詞で表れるのに対して、ベトナム語は「“giết chết” (殺す)、“đánh đổ” (倒す)、“cắt đứt” (切る)、“bẻ gãy” (折る)、“đánh hỏng” (壊す)」のような複合動詞で表れる。

Nguyen Thi Ai Tien (2014)は、日本語の使役他動詞はベトナム語の他動詞と自動詞の結合に対応するとしている。その原因は、日本語の使役他動詞は働きかけと状態変化の結果を含意するのに対して、ベトナム語の使役他動詞は単に動作主の行為のみを表し、非対格自動詞は、目的語の状態/位置変化しか表さないからである。そのため、日本語の使役他動詞を表現するためには、ベトナム語では前項動詞の他動詞の主語の動作と後項動詞の非対格自動詞の目的語の状態/位置変化を結合しなければならない。

Nguyen Thi Ai Tien (2014)の研究は正しいが、更に詳しく分析すれば、日本語とベトナム語の言語類型の特徴のため、二つの言語の使役を表す要素の表示が異なるのである。日本語の使役他動詞は、一つの動詞が動作を表し、文法的機能(完了アスペクト)も表す。従って、日本語の使役他動詞の使役を表す要素は動作主の意図を顕在的に表示し、動作と同時に結果も含意する。

一方、ベトナム語は一つの動詞は動作しか表さない。使役他動詞は動作主の行為のみを表すが、状態/位置変化の結果を生じさせる潜在的な可能性しか持っていない。つまり、日本語と異なり、ベトナム語の使役他動詞の使役を表す要素は潜在的に表示する。結果(完了アスペクト)を表したい場合は、状態/位置変化を表す結果の自動詞と結合する。

このことをよく理解できるように、下記に日本語とベトナム語の使役他動詞について、詳細に述べる。

4.2.2.1 日本語の使役他動詞

下に挙げたものは日本語の使役他動詞である。

- (9) 壊す、潰す、切る、曲げる、折る、染める、塗る、揚げる、温める、焼く、磨く、乾かす、燃える、固める、汚す、のぼす、縮める (cf.影山 1996)

(9) は主語の何らかの行為によって、目的語の状態/位置変化の達成を表す他動詞である。従って、4.2.1 の働きかけ動詞と異なり、これらの他動詞は働きかけと同時に状態/位置変化の結果を表すので、次の(10)と(11)のような文はあり得ない。

- (10) *殺人者は人を殺したが、死ななかつた。
 (11) *子供は枝を折ったが、折れなかつた。

(10)、(11)の使役他動詞「殺す、折る」は「殺した、折った」の行為と同時に状態/位置変化の結果「死んだ、折れた」ということを含意している。従って、(10)、(11)の二つの文は意味的な矛盾があるので、不適格である。

このように、日本語の使役他動詞は使役を表す要素を顕在的に表示し、単純な動詞が動作と同時に状態/位置変化の結果も表す。すなわち完了アスペクトを含意する。日本語の使役他動詞の意味構造を次の(12)に示した。

- (12) 使役他動詞＝達成働きかけ(他動詞の完了形)+状態/位置変化(自動詞の完了形)

壊す	壊した	壊れた
割る	割った	割れた
燃やす	燃やした	燃えた
暖める	暖めた	暖まった
汚す	汚した	汚れた
放す	放した	放れた
乾かす	乾かした	乾いた
曲げる	曲げた	曲がった
倒す	倒した	倒れた
上げる	上げた	上がった

4.2.2.2 ベトナム語の使役他動詞

日本語と同様、ベトナム語にも使役他動詞が存在する。しかし、日本語と異なり、ベトナム語の使役他動詞は状態/位置変化を表さないが、使役を潜在型で表す他動詞である。即ち、ベトナム語の使役他動詞は動作のみを表すが、状態/位置変化の結果を表す非能格自動詞と結合することが出来る。4.2.1 の働きかけ動詞は状態/位置変化を表す自動詞と結合すること

ができないのに対して、使役他動詞は結合することができ、ベトナム語の手段結果複合動詞として扱う。例を(13)に表示した。

- (13) 「“bẻ” (折る)」、 「“giết” (殺す)」、 「“đốt” (燃やす)」、 「“cắt” (切る)」、 「“đập” (打つ、砕く、叩く)」、 「“chặt” (切る)」、 「“bắn” (撃つ)」、 「“đá” (蹴る)」、 「“cọ” (こする)」、 「“đánh” (殴る、打つ、叩く)」、 「“sờ” (触る)」、 「“đẩy” (押す)」、 「“xé” (破る)」、 「“chặt” (切る)」、 「“lau” (拭く)」、 「“ném” 投げる)」、 「“thổi” (噴く) (cf. Nguyen Thi Thu Huong 2010)

ベトナム語の使役他動詞について、Nguyen Thi Thu Huong(2010:118)は「“một hành động được cho là gây khiến khi nó tiềm tàng khả năng làm nảy sinh một hành động , quá trình hay trạng thái khác với tư cách là kết quả của sự tác động.” (使役他動詞は状態及び位置変化の結果を生じさせる潜在的な可能性を持っている動詞である。)」(筆者訳)。言い換えれば、ベトナム語の使役他動詞は行為しか表さないが、使役を表す要素を潜在的に含んでいる。この使役他動詞は日本語の使役他動詞と異なり、状態変化および位置変化が必然的に含意しない。そのため、本稿では(13)のような動詞を準使役他動詞と呼ぶ。日本語の使役他動詞に相当する形式は状態もしくは位置変化を表す自動詞と結合しなければならず、これが手段結果複合動詞である。

4.2.2.3 ベトナム語の手段結果複合動詞の構成構造

4.2.2.2 のように、ベトナム語の手段結果複合動詞は V1—使役の要素を潜在的に表示する動詞と V2 の結果動詞を結合し構成される。具体的な形式は次の(14)である。(cf. Nguyen Thi Thu Huong 2010:118 を筆者改変)

- | | | | | | |
|------|---------------|---|------|---|-----------|
| (14) | 使役を潜在的に表示する動詞 | + | 結果動詞 | ⇒ | 手段結果複合動詞 |
| | bẻ | | gãy | | bẻ gãy |
| | 折る | | 折れる | | 折る 折れる |
| | giết | | chết | | giết chết |
| | 殺す | | 死ぬ | | 殺す 死ぬ |
| | đốt | | cháy | | đốt cháy |
| | 沸かす | | 沸く | | 燃やす 燃える |
| | cắt | | đứt | | cắt đứt |
| | 切る | | 切れる | | 切る 切れる |
- (15) Tôi đã bẻ gãy cành cây.
私 過去 折る 折れる 枝

私は枝を折った。

- (16) Tên sát nhân đã giết chết năm người.
者 殺人 過去 殺す 死ぬ 5 人
殺人者は5人殺した。

- (17) Hấn đã đốt cháy nhà.
あいつ 過去 燃やす 燃える 家
あいつは家を燃やした。

(14) は、(13)に示したベトナム語の使役の要素を潜在型で表す動詞「“bẻ”(折る)、“giết”(殺す)、“đốt”(燃やす)、“cắt”(切る)」で、状態もしくは位置変化の結果を表す自動詞「“gãy”(折れる)、“chết”(死ぬ)、“cháy”(燃える)」と結合すると、手段結果複合動詞となることを示したものである。(15)~(17)はベトナム語の手段結果複合動詞の例文である。

更に、(14)に挙げた他動詞は使役を潜在型で表すため、状態もしくは位置変化の結果を表す自動詞と結合することが出来る。つまり、これらの準使役他動詞は単独では、日本語と異なり、状態もしくは位置変化の意味を含意しない。そのため、状態もしくは位置変化の結果を表す自動詞もしくは形容詞と結合しない場合は、これらの他動詞は動作しか注目せず、動作の意図した目的は必ずしも達成されとは限らない、未完了だから結果の否定ができる。例を(18)、(19)に示した。

- (18) a Tôi đã bẻ cành cây, nhưng nó không gãy.
私 過去 折る 枝 しかし それ ~ない 折れる
b 直訳:私は枝を折ったが、それが折れなかった。
c 私は枝を折ろうとしたが、それが折れなかった。
- (19) a Tên sát nhân đã giết năm người, nhưng không ai chết.
者 殺人 過去 殺す 5 人 しかし ~ない だれ 死ぬ
b 直訳:*殺人者は5人を殺したが、だれも死ななかった。
c 殺人者は5人を殺そうとしたが、だれも死ななかった。

(18)aと(19)aは、ベトナム語の準使役他動詞「“bẻ”(折る)、“giết”(殺す)」は、主語「“Tôi”(私)、“Tên sát nhân”(殺人者)」の動作しか表さず、目的語の状態もしくは位置変化の結果に言及しないものである。そのため、後節の結果を表す文は否定文(「“nó không gãy”(それが折れなかった)、「“không ai chết”(だれも死ななかった)」)が許容される。一方、日本語の使役他動詞は働きかけと同時に状態もしくは位置変化の結果も表す。すなわち、完了アスペ

クトも含意するため、(18)b と(19)b は意味的な矛盾があり、不適格となる。正確な文は、(18)c と(19)c の文である。

このように、ベトナム語に準使役他動詞が存在する。ベトナム語の準使役他動詞は使役を潜在型で表し、状態/位置変化の結果を表す自動詞と結合すると、手段結果複合動詞(使役他動詞)となり、日本語の使役他動詞に対応する。

次の表 1 は、ベトナム語の手段結果複合動詞に対応する日本語の使役他動詞である。

表 1 ベトナム語の手段結果複合動詞と日本語の使役他動詞の対応

V1 (他動詞－動作) (結果含意しない)	V2 (非対格自動 詞－結果)	ベトナム語の手段結果複合動 詞(結果含意する)	日本語の使 役他動詞
phá－壊す	hỏng－壊れる	phá hỏng 壊す＋壊れる	壊す
cắt－切る	đứt 一切れる	cắt đứt 切る＋切れる	切る
đốt－燃やす	cháy－燃える	đốt cháy 燃やす＋燃える	燃やす
bẻ ー折る	gãy－折れる	bẻ gãy 折る＋折れる	折る
uốn－曲げる	cong－曲がる	uốn cong 曲げる＋曲がる	曲げる
đánh－叩く	roi－落ちる	đánh roi 叩く＋落ちる	落とす
mở－開ける	rộng－広い	mở rộng 開ける＋広い	広げる
nâng－上げる	lên－上がる	nâng lên 上げる＋上がる	上げる
giết－殺す	chết－死ぬ	giết chết 殺す＋死ぬ	殺す

出典: Nguyen Thi Ai Tien(2014:72)を参考に筆者作成。

表 1 のように、ベトナム語には日本語のように働きかけと同時に状態もしくは位置変化の結果を表す他動詞に対応する一つの単純な他動詞にはない。日本語の単純語の使役他動詞「壊す、沸かす、破る、入れる、下げる、上げる」等は、ベトナム語では対応する動作を表す準使役他動詞「“phá” (壊す)、“cắt” (切る)、“đốt” (燃やす)、“bẻ” (折る)、“uốn” (曲げる)」と状態もしくは位置変化の結果を表す非対格自動詞「“hỏng” (壊れる)、“đứt” (切れる)、“cháy” (燃える)、“gãy” (折れる)、“cong” (曲がる)」の複合である。これらの複合からベトナム語の手段結果複合動詞が形成される。

しかし、日本語では結果構文を表すための単純な使役他動詞のパターンではなく、V1 と V2 は独立した述語であるが、結合して手段結果複合動詞となるものもある。

次の(20)と(21)は単純使役他動詞と手段結果複合動詞の例である。

- (20) a 彼女は花瓶を粉々に割った。 使役他動詞 (cf.影山 1996)
 b 彼女は魚をからからに干した。
- (21) a こどもは花瓶を叩き壊した。 手段結果複合動詞
 b 彼はボールを蹴り飛ばした。

(20)の「割る、干す」の語彙概念には結果性が含まれている。従って、「粉々、からから」のような結果述語がそれらの動詞を修飾することができる。つまり、「割る、干す」ということから、「粉々、からから」という結果状態が引き起こされる可能性がある。それに対して、(21)はV1の「叩き、蹴り」の語彙概念には結果が含まれない。しかし、V1の「叩き、蹴り」などの行為に対して、V2「壊す、飛ばす」がその行為に伴う目的語の状態変化を表している(cf.影山 1996)。

上記のように、日本語、ベトナム語共に手段結果複合動詞が存在する。ところが、日本語の手段結果複合動詞は他動性に関して同一のものしか組み合わせることができない。それに対して、ベトナム語のV2の結果を表すのは他動詞ではなく、自動詞である。その原因は何だろうか。

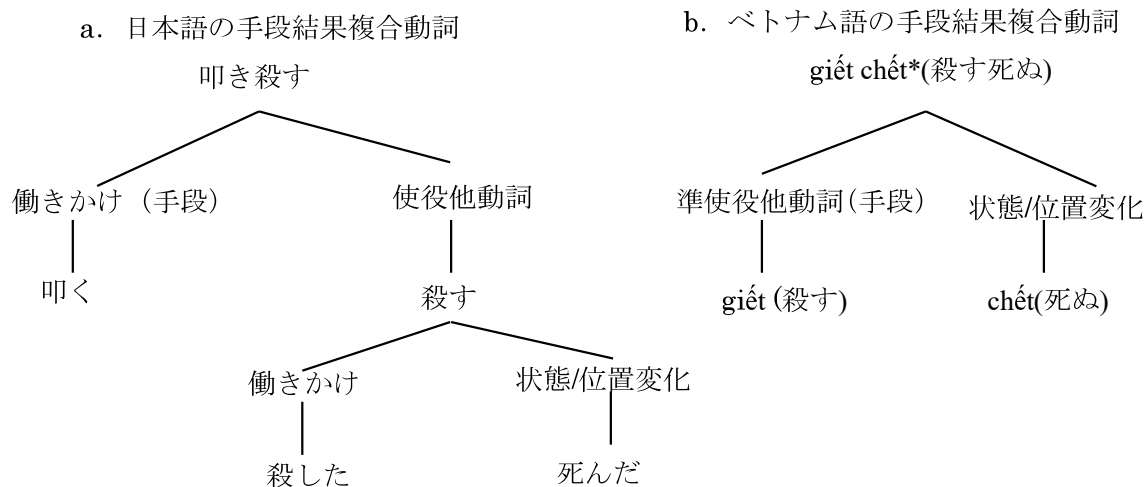
次に、日本語の手段結果複合動詞をベトナム語の手段結果複合動詞に対照してみよう。

4.3 日本語とベトナム語の手段結果複合動詞の対照

松本(1998:52)は「日本語の手段結果複合動詞は前項動詞は全て動作主的動詞であり、又、後項動詞は何らかの状態もしくは位置変化の使役を表す動詞である。後項動詞(V2)の働きかけ(ACT)が後項動詞の述語であり、その意味的付加詞としての方法(Means)に前項動詞の意味構造が埋め込まれている」とする。つまり、日本語の手段結果複合動詞の前項動詞(V1)は、働きかけと同時に後項動詞(V2)の手段を表す。更に、V2は働きかけと同時に状態/位置変化を表す。従って、V1とV2は同じ動作主に限られる。又、二つの動詞は他動詞/非能格動詞の複合でなければならない。この構成構造は、影山(1993)の「他動性調和の原則」の制限にも従っている。

それに対して、ベトナム語は一つの動詞は動作のみを持っており、文法的な意味を表したい場合は、文法的機能を持つ語を付ける。ベトナム語の手段結果複合動詞のV1は準使役他動詞と同時にV2の手段を表す。しかし、ベトナム語の準使役他動詞は動作主の行為しか表さない、つまり、使役を表す要素は潜在的に表示される。二つの意味的述語「〈手段〉+〈結果〉」を二つの位置に代入する。日本語とベトナム語の手段結果複合動詞の構成素の違いを簡単に示すと以下の(22)のようになる

(22) 日本語とベトナム語の手段結果複合動詞の構成構造



(22)のように、日本語とベトナム語の手段結果複合動詞は同じ時間関係を表す(V1がV2に先行する)。しかし、使役を表す要素の表示が異なるため、日本語とベトナム語の手段結果複合動詞の構成構造は異なる。日本語の手段結果複合動詞の構成構造は「他動詞＋他動詞」である。それに対し、ベトナム語の複合動詞の構成構造は「他動詞＋非対格自動詞」である。

更に、(22)のように、ベトナム語の手段結果複合動詞は日本語の使役他動詞に対応する。そのため、「叩く殺す—*đánh giết chết」のような日本語の手段結果複合動詞の構成構造はベトナム語の複合動詞には存在しない。ベトナム語の複合動詞には「*đánh chết (*叩き死ぬ)」、「*giết chết (*殺す死ぬ)」などのような構成構造が存在する。

4.4 まとめ

本論文により、日本語とベトナム語における手段結果複合動詞は構成構造が違う。日本語の手段結果複合動詞は複数の述語を一つの動詞に合成することが出来るため、三つの意味述語「〈手段〉＋〈使役〈結果〉」を合わせた一つの動詞となる。つまり、日本語の使役他動詞においては使役を表す要素は顕在的に表示し、動作と同時に結果も含意する。更に、日本語の複合動詞は構成素が他動性に関して、同一のものしか組み合わせられないため、手段結果複合動詞は「他動詞＋他動詞」の構成構造となる。影山(1993)の「他動性調和の原則」制限に従う。

一方、ベトナム語は複数の述語を複数の位置に代入する。そのため、ベトナム語の手段結果複合動詞は二つの意味述語を「〈手段〉＋〈結果〉」を二つの位置に代入する。つまり、使役を表す要素は義務的ではなく、潜在的に表示する。準使役他動詞は動作のみ表し、完了アスペクトを含意しない。結果を表したい場合は、状態もしくは位置変化を表す結果の自動詞

と結合する。このことから、ベトナム語の手段結果複合動詞は構成構造が「他動詞＋自動詞」となる。

III 日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の対照

4.1 日本語の並立関係複合動詞の特性

本節では日本語の並立関係複合動詞について概観する。日本語の並立関係複合動詞に関する研究は多数ある。それらの研究の中で、影山(1993)、Matsumoto(1996)、何志明(2002)、由本(2005)、などは、日本語の並立関係複合動詞について、詳しく説明している。下記では、影山、由本と Matsumoto、何志明の日本語の並立関係複合動詞の研究について概観する。

(23)に挙げた複合動詞は、日本語の並立関係複合動詞である。前項動詞(V1)と後項動詞(V2)は対等な関係で、同時進行する。更に、V1 と V2 の意味はほぼ同じで類義語である。

- (23) 慌てふためく、忌み嫌う、選りすぐる、恐れおののく、驚き呆れる、
思い描く、思い煩う、恋い慕う、媚びへつらう、耐え忍ぶ、抱き抱える、照り輝く、
照り映える、問い尋ねる、泣き叫ぶ、泣きわめく、光り輝く、ほめたたえる、待ち
望む、喜び勇む... (cf.何志明 2002:41)

日本語の並立関係複合動詞の特性をよく理解するために、下記では影山、Matsumoto、何志明と由本の日本語の並立関係複合動詞の定義について概観する。

影山(1993)と Matsumoto (1996)によると、日本語の語彙的複合動詞における並立関係複合動詞(Pair Compounds)は内容的に対等な2要素が並列されているから、V1、V2の両者が主要部として機能する。

何志明(2002:56)は「並立関係」の複合動詞は、V1 と V2 は同じような意味的な特徴及び同じ項構造を持つ動詞同士でなければならない。更に、V1 と V2 は変化を表さない活動動詞でなければならない。

由本(2005:113-4)は、「並立関係」の複合動詞は、二つの動詞の LCS が単に AND で結ばれ項の同定で、他動性やアスペクトに関して全く同じタイプの動詞の組み合わせで、類似した事象を表すものである。更に、並立関係複合動詞の V1 と V2 が表す事象はすべて同じ主語と目的語が関与し、しかも同一時間を共有するものである。

このように、日本語の並立関係複合動詞は前項動詞と後項動詞が対等の関係である。更に、二つの動詞が同時進行し、同じ項構造を持つ。並立関係複合動詞の V1 と V2 の意味はほぼ同じような類義語の動詞である。例を(24)に表示した。

- (24) 驚き呆れる、恐れおののく、忌み嫌う、堪え忍ぶ、媚びへつらう、恋慕う、思い描く、思い煩う、慌てふためく、泣き叫ぶ (cf.影山 1993:99)

(24)をみると、すべての前項動詞(「驚く、恐れる、忌む、堪える…」)と後項動詞(「呆れる、おののく、嫌う、忍ぶ…」)の意味はほぼ同じような類義語の動詞である。また、V1の行為とV2の行為は同時進行する。

更に、何志明(2002:41)によると、日本語の並立関係複合動詞はV1が表す出来事とV2が表す出来事が対等な重さを持って表されている。この場合の重さというのは、V1とV2は同じような意味的な特徴を重ねて、複合動詞の全体の意味が一層強調されるということである。例えばの「恐れおののく」は「恐れる」という出来事と「おののく」という出来事が重なって、複合動詞の全体の意味が強調されるのである。

しかし、すべてのV1とV2が同じ項構造を持ち、同時進行し、ほぼ同じ意味を持つ組み合わせであれば、並立関係複合動詞になるだろうか。

何志明(2002)は、「*割り砕く、*おろしさげる、*殴り蹴る」はV1とV2の意味がほぼ同じで、二つの動作が同時進行し、また同じ項構造を持つ。しかし、これらの組み合わせは明らかに不自然である。つまり、影山(1993)、Matsumoto(1996)、由本(2005)などの研究における、日本語の並立関係複合動詞の組み合わせの基準に基づくと、不適切な組み合わせを生成してしまう。そこで、何志明(2002)は動詞が持つ意味的な特徴によって、適切な並立関係複合動詞と認められる場合と認められない場合を考察した。

その結果、日本語の並立関係複合動詞のV1とV2は類義語、同時進行、同じ項構造であることという制約の他に、V1とV2になる動詞は活動動詞²²でなければならないことを明らかにした。つまり、状態動詞、変化動詞、使役他動詞同士の組み合わせは日本語では並立関係複合動詞にならないのである。次の(25)はその例である。

- (25) a 状態動詞+状態動詞 (cf.何志明 2002)

例:*ありいる、*行ある...

- b 変化動詞+変化動詞

例:*抜け外れる、*剥がれ外れる、*取れ剥がれる、*慣れ壊れる、*壊れ破れる、*ゆがみひずむ...

- c. 使役他動詞+使役他動詞

²² 活動動詞とは意図的に開始たり終了したりできる行為を表し、進行形を付けて He is walking となると、その活動が目下、継続中であることを意味。(cf.影山 1996:42 Vendler (1967)も参照のこと)

例:走る、食べる、飲む、飛ぶ、歩く... (83)

例:*抜き外す、*剥がし外す、*慣し壊す...

(25)に示したように、何志明(2002)は動詞のアスペクトの意味の特徴に基づいて、並立関係複合動詞の組み合わせの基準を決めた。例えば、働きかけと同時に結果を表す使役他動詞、つまり、完了アスペクトを表す活動動詞は並立関係複合動詞の組み合わせには不適である。

このように、先行研究の(影山(1993)、Matsumoto (1996)、何志明 (2002)、由本(2005)、)の研究から、日本語の並立関係複合動詞のV1とV2の組み合わせの制約には次の3つがある。

(26) 日本語の並立関係複合動詞の組み合わせの制約

- ① V1とV2は同時進行する。
- ② V1とV2の意味はほぼ同じで類義語である。
- ③ V1とV2はともに活動動詞である。

このように、日本語の並立関係複合動詞の組み合わせの制約は、影山(1993)の「類義語」と「他動性調和の原則」であり、何志明(2002)の動詞の語彙的なアスペクトに基づいて、V1とV2の「活動動詞+活動動詞」の組み合わせである。

日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の対照研究をするためには、日本語の並立関係複合動詞の組み合わせの制約を理解することが重要である。そのために、次の4.2節では日本語の並立関係複合動詞の組み合わせの制約について詳しく検討する。

4.2 日本語の並立関係複合動詞の構成構造の制約

本節では日本語の並立関係複合動詞の「類義語」、「他動性調和の原則」(1.3.6を参考)と語彙的なアスペクトの動詞の分類に基づき「活動動詞+活動動詞」の三つの制約の具体的な性格を検討する。

4.2.1 「類義語」の制約

由本(1996:108)によると、二つの事象が完全な並列関係であると解釈される複合動詞は少ない。その理由として、影山(1993:100)は、音韻的な理由以外に、同じ一つの主語/目的語を共通にもたねばならず、類似の概念でなければ単一の動作として再解釈することが困難なことを挙げている。従って、「類義語」は並立関係複合動詞の組み合わせの一番目の制約である。

日本語のV1とV2が類義語である並立関係複合動詞を(27)に挙げる(28)、(29)は例文である。

- (27) ほめたたえる、光り輝く、耐え忍ぶ、恐れおののく、媚びへつらう、問い尋ねる、抱き抱える、照り映える、泣き叫ぶ、泣きわめく... (cf.由本 1996)
- (28) 娘は人形を抱き抱える。(<https://db4.ninjal.ac.jp/vvlexicon/db/>)
- (29) 彼は職場での不遇を耐え忍んだ。

(27)に示した日本語の並立関係複合動詞は V1 の意味を表す動詞「ほめる、光る、耐える、恐れる、媚びる」などは V2 の意味を表す動詞「たたえる、輝く、忍ぶ、おののく、へつらう」と類似の概念である。更に、二つの動詞は主語と目的語が共通している。(28)と(29)は日本語の並立関係複合動詞の例文である。(28)では、前項動詞(「抱く」)と後項動詞(「抱える」)は主語(「娘」)と目的語(「人形」)が同じである。更に、V1 と V2 の主語と目的語が同じなので、例文(28)を分割すると、(30)になる。

- (30) a 娘は人形を抱く。
b 娘は人形を抱える。

何志明(2002:49)は、「日本語の並立関係複合動詞における V1、V2 の動作が互に補足し、複合動詞全体の意味が V1 又は V2 だけより強くなる。つまり、V1 と V2 は同じような意味的な特徴を持つ動詞同士である。V1 と V2 を重ねて発生することによって、複合動詞全体の事象が一層強意され、相乗効果がある。更に、V1 と V2 は同じ項構造を持つ動詞同士である。」と言っている。

従って、「抱き抱える」は「娘が人形を抱くという行為と娘が抱えるという行為が対等の重さを持って表れている。つまり、(28)の「抱き抱える」の意味は(30)a の「抱く」または(30)b の「抱える」の意味より強い。複合動詞にすることにより、「抱き抱える」の意味が一層強化される。

(28)と同様に(29)でも、前項動詞(耐える)と後項動詞(忍ぶ)は、主語(「彼」)と目的語(「不遇」)は同じである。例文(29)を分割すると、(31)になる。

- (31) a 彼は職場での不遇を耐えた。
b 彼は職場での不遇を忍んだ。

(29)の「耐え忍ぶ」は「彼が不遇を耐えるという行為と彼が不遇を忍ぶという行為は対等の重さを持って表れている」ということを表す。つまり、(29)の「耐え忍ぶ」の意味は(31)a の「耐える」または(31)b の「忍ぶ」の意味より強く、複合動詞の「耐え忍ぶ」は意味が一層強意化される。

更に、影山(1993)によれば、「対立概念の動詞の結合は対等の重さを持って表されている複合動詞とはならない」。そのため、対立概念の動詞の結合は並立という解釈では容認されない。次の(32)は、その例である。

(32) *行き来る、*貸し借りる、*飲み食う... (cf.影山 1993:101)

このように、日本語の並立関係複合動詞の V1 と V2 は意味がほぼ同じでなければ、並立関係複合動詞を形成することはできない。つまり、「類義語」は並立関係複合動詞の第一の制約である。

4.2.2 「活動動詞+活動動詞」の制約

何志明(2002)によると、先行研究影山(1993、1999)、Matsumoto(1996)、由本(1996)などにおいては、V1 と V2 は共に他動詞同士であるか、非対格自動詞であり、前項動詞が表す行為と後項動詞が表す行為は「類義語」で、対等の重さを持って表されている。しかし、「おろしさげる、割り砕く、殴り蹴る」のような並立複合動詞は容認されない。何志明(2002)は語彙的アスペクトの動詞分類に基づいて、並立関係複合動詞の V1 と V2 になる動詞の特徴を考察した。その結果、日本語の並立関係複合動詞の V1 と V2 は活動動詞 でなければならない。次の例(33)、(34)と(35)を見られたい。

(33) 再会する日を待ち望んでいます。 <https://db4.ninjal.ac.jp/vvlexicon/db/>

(34) *太郎が荷物をおろしさげる。 (cf.何志明 2002:42)

(35) *太郎が花瓶を割り砕く。

(33)のように、「待ち望む」の前項動詞(待つ)と後項動詞(望む)は活動動詞である。更に、V1 と V2 共に他動詞で、類義語である。そのため、「待ち望む」の構成構造は並立関係複合動詞が適格である。しかし、(34)と(35)は、*「おろしさげる」と*「割り砕く」は、V1 と V2 が共に使役他動詞である。従って、V1 と V2 は類義語で、他動詞同士(「おろす+さげる」、「割る+砕く」)であり、「他動性調和の原則」に従っているが、並立関係複合動詞の組み合わせは不適用になる。

何志明(2002)によれば、すべての「類義語」で、「他動性調和の原則」に従う「活動動詞」の結合は並立関係複合動詞になるわけではない。次の(36)は、その例である。

(36) *太郎が次郎に殴り蹴る。 (cf.何志明 2002:42)

(36)のように、「殴り蹴る」の組み合わせでは、V1とV2は共に他動詞(殴る+蹴る)であり、また、殴るという行為と蹴るという行為が対等の重さを持っている。しかし、*「殴り蹴る」の並立関係複合動詞は不適格の組み合わせである。その理由は次のようである。

何志明(2002)は、日本語の並立関係複合動詞のV1とV2は持続性を持っている動詞でなければならないとしている。しかし、「殴る」と「蹴る」は持続性がなく、動作が1回のみ行われる動詞であるため、不適格である。次の(37)と(38)を見られたい。

(37) *太郎は1時間に5回サンドバッグを殴っている。(cf.何志明 2002:53 筆者改変)

(38) *太郎は1時間に5回サンドバッグを蹴っている。

(37)と(38)では、「殴る、蹴る」のような動詞は1時間に1回だけではなく、単発的な複数の行為全体を一つの行為として捉える解釈しかできない。そのため、「殴る」と「蹴る」は持続性を持っている動詞でなく、並立関係複合動詞にならない。つまり、語彙的アスペクトに関する動詞も日本語の並立関係複合動詞の制約である。

このように、日本語の並立関係複合動詞の組み合わせは、V1とV2の意味はほぼ「類義語」で「他動性調和の原則」に従い、更に、並立関係複合動詞の制約は動詞のアスペクト性にも関係がある。

4.3 ベトナム語の並立関係複合動詞

本節ではベトナム語の並立関係複合動詞について検討する。ベトナム語の並立関係複合動詞に関する研究の中で、Nguyen Kim Than (1977)、Diep Quang Ban(2008)などは、ベトナム語の並立関係複合動詞について詳しく説明している。下記では、彼らの並立関係複合動詞の研究について検討する。

4.3.1 ベトナム語の並立関係複合動詞の定義

Nguyen Kim Than (1977:44)によれば、「“động từ ghép cấu tạo theo quan hệ liên hợp là hai yếu tố tạo thành của nó ghép lại với nhau một cách bình đẳng. Xét về mặt cấu tạo ngữ âm thì bao gồm hai âm tiết .Xét về mặt loại gốc của những thành tố chỉ có thể là động từ+động từ.” (ベトナム語の並立関係複合動詞は二つの要素が対等に結合する。音韻面では音節は二つある。並立関係複合動詞の構成構造は「動詞+動詞」から形成される。)」(筆者訳)。

Diep Quang Ban(2008:569)によれば「“trong từ ghép đẳng lập các từ tố trong từ ghép có quan hệ đẳng lập .Ý nghĩa ngữ pháp của từ ghép đẳng lập là ý nghĩa tổng hợp, tức là kiểu ý nghĩa chỉ loại sự vật, chỉ loại đặc trưng chung” (ベトナム語の並立関係は二つの要素の関係が対等である。並

立関係複合動詞の意味は包括的な意味である。つまり、具体的なことを表さずに物事の概要の意味を表す。)」(筆者訳)。

このように、ベトナム語の並立関係複合動詞は、前項動詞と後項動詞は対等な関係である。そして、並立関係複合動詞のV1とV2の意味はほぼ同じような類義語の動詞だけではなく、対義語の種類も存在する。(39)はベトナム語の並立関係複合動詞の例で、(40)は例文である。

- (39) a e ngại (cf.Nguyen Kim Than: 1977)
 恐れる おそれる = 恐れおののく
- b ẵm bé
 抱く 抱く = 抱き抱える
- c lo lắng
 危懼する、心配する ø = 心配する
- d bắt bớ
 捕まる、捕える ø = 捕まる、捕える
- e sống chết
 生きる 死ぬ = 生きて死ぬ
- f đi lại
 行く 来る = 行って来る、密接な関係がある
- (40) a Thấy sai thì có ý kiến, e ngại gì!
 見える 違い 機能語 ある・いる 意見 恐る 恐る 何
 間違っただけをしているのを見た時、注意するのをなぜ怖がるの？
- b Cô ấy lo lắng quá sinh bệnh.
 彼女 指示語 心配する ø 過ぎ 生む 病気
 彼女が心配しすぎて、病気になった。
- c Hai nhà đi lại với nhau.
 2 家 行く 来る と、一緒に 互いに
 二つの家は密接な関係にある。

(39)a、(39)bは、前項動詞「“e”(恐れる)」、「“ẵm”(抱く)」と後項動詞「“ngại”(恐れる)」、「“bé”(抱く)」はほぼ同じ意味を持っており、類義語である。(39)c、(39)dは、前項動詞「“lo”(危懼する、心配する)」、「“bắt”(捕まる、捕える)」は語彙的な意味を持っている動詞である。後項動詞「“bớ”(ø)」、「“lắng”(ø)」は語彙的な意味を持っていない動詞である。Nguyen Kim Than (1977)は、「通時的には、古代のベトナム語では、後項動詞は前項要素の意味と同

じであった。共時的にはこのような動詞は並立関係複合動詞である。」とする。そのため、ベトナム語の並立関係複合動詞には、「無意味形態素」を含む組み合わせが存在する。

(39)e、(39)fは、前項動詞「“sống” (生きる)」、「“đi” (行く)」と後項動詞「“chết” (死ぬ)」、「“lại” (来る)」の意味は反対である。この場合のベトナム語の並立関係複合動詞のV1とV2は対義語の関係である。(40)aは「類義語」の並立関係複合動詞の例文である。(40)bは「無意味形態素」の並立関係である。(40)cは「対義語」の並立関係複合動詞の例文である。

日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の対照の研究をするためには、ベトナム語の並立関係複合動詞の組み合わせの各種類を理解する必要がある。そのために、次の5.3.2節ではベトナム語の並立関係複合動詞の組み合わせの各種類について詳しく検討する。

4.3.2 ベトナム語の並立関係の構成構造

以下、4.3.2.1では「類義語」を、4.3.2.2では「無意味形態素」を、4.3.2.3では「反対語」の並立関係複合動詞の組み合わせを詳細に説明する。

4.3.2.1 「類義語」の組み合わせ

日本語の並立関係複合動詞と同様、ベトナム語も、V1とV2がほぼ同じ意味を持っている動詞から形成される並立関係複合動詞が存在する。二つの同じ意味を持つ動詞を結合することによって、複合動詞全体の意味を表すことができる。次の(41)は類義語から形成される並立関係複合動詞の例で、(42)は例文である。

(41) a cắt xén (cf.Nguyen Kim Than :1977)

切る 裁断する = 刈り込む

b dọa nạt

おびやかす おどす = おびやかす、おどす

c cấy cấy

たがやす 移植する = たがやす

(42) Không nên dọa nạt trẻ con.

ない ねばならぬ おびやかす おどす 若い 子供

子供をおびやかしてはいけない。

(41)a、(41)b、(41)cでは、前項要素(「“cắt” (切る)、“dọa” (おびやかす)、“cấy” (たがやす)」)の意味は後項要素(「“xén” (裁断する)、“nạt” (おどす)、“cấy” (移植する)」)の意味とほぼ同じである。二つの動詞を結合することによって、複合動詞全体の事象「“cắt xén”(刈

り込む)」、「*đọa nạt*」(おびやかす、おどす)、「*cày cấy*」(耕す)」が一層強調化される。つまり、日本語の並立関係複合動詞と同様、この「類義語」から形成される複合動詞の全体の意味は二つの動詞の意味の結合で表す。(42)は V1 と V2 が「類義語」から形成される並立関係複合動詞の例文である。

4.3.2.2 「無意味形態素」を含む組み合わせ

Diep Quang Ban(2008 :572)によれば、「*từ ghép đơn nghĩa là từ ghép mà chỉ có một yếu tố phản ánh nghĩa của toàn từ ghép*、*nghĩa của yếu tố còn lại chỉ hỗ trợ cho nghĩa của yếu tố kia nhằm tạo ra nghĩa ngữ pháp tổng hợp chung cho từ.*」(ベトナム語の「無意味形態素」を含む並立関係複合動詞は前項要素は、本来意味を持つ形態素(語彙的な意味を持っている動詞)であるが、後項要素は無意味の形態素(語彙的な意味を持っていない動詞)である。二つの要素を結合し、並立関係複合動詞を形成する。しかし、複合動詞の意味は前項動詞の意味を担う。後項動詞の意味は前項要素の意味を補足し、並立関係複合動詞の全体の意味を表す)(筆者訳)。つまり、ベトナム語の並立関係複合動詞の組み合わせは、無意味形態素を含む組み合わせも存在する。後項動詞の無意味形態素は共時的には、前項要素の意味に当てはまる。次の(43)はその例である。

- (43) a *gặp* *gỡ*
 会う、逢う \emptyset = 会う
- b *sửa* *sang*
 直す、修理する \emptyset = 直す、修理する
- (44) *Gặp* *gỡ* *người thân.*
 会う、逢う \emptyset 親戚
 親戚に会う。

(43)の前項要素「*gặp*」(会う、逢う)、「*sửa*」(直す、修理する)は語彙的な意味を持つ動詞である。それに対して、後項要素「*gỡ*」(\emptyset)、「*sang*」(\emptyset)は語彙的な意味を持っていない。無意味形態素は以前は一つの形態素で、語彙的な意味を持っていた。しかし、現在では本来の意味を失っている。つまり、通時的には、古代のベトナム語では、後項動詞の意味は前項要素の意味と同じだった。そのため、前項動詞と後項動詞は類義語であると言える。V1 と V2 は類義語なので、二つの要素を結合し、並立関係複合動詞を形成する。この種の並立関係複合動詞では複合動詞全体の意味は、意味を持つ前項動詞が担うが、前項動詞の意味より抽象的である。次の(45)と(46)を見られたい。

- (45) a làm lụng (cf.Nguyen Kim Than 1977) 並立関係複合動詞
 する、やる、働く ø = 労働する
- b Tôi làm bài tập. 「する、やる、働く」動詞
 私 する、やる 宿題
 私は宿題をする。
- c *Tôi làm lụng bài tập. 目的語を取って不適格
 私 働く ø 宿題
- d Cha mẹ làm lụng vất vả để nuôi con. 自動詞として適格
 父 母 働く ø 大変 ø 目的語 育てる 子供
 子供を育てるために、両親は生懸命労働する。
- (46) a nghỉ ngơi 並立関係複合動詞の例
 休む ø = 休憩する、憩う
- b Tôi nghỉ học. 「休む」動詞
 私 休む 勉強
 私は学校を休む。
- c *Tôi nghỉ ngơi học. 目的語を取って不適格
 私 休憩する ø 勉強
- d Nghỉ ngơi dưới bóng cây trong công viên. 自動詞として適格
 休む ø 下 陰 木 中 公園
 公園の木陰に憩う。

(45)b と(46)b の単純語(「“làm” (する、やる)」、 「“nghỉ ngơi” (休憩する、憩う))は他動詞であるから、具体的な目的語(「“bài tập” (宿題)」、 「“học” (勉強))が必要である。しかし、(45)a と(46)a の並立関係複合動詞の「“làm lụng” (労働する、働く)」は労働する、働くという意味の自動詞となり、具体的な目的語は必要はなく、抽象的な意味を持つのである。(45)c と(46)c は自動詞なので、目的語を取って不適格な例文である。それに対して、(45)d と(46)d は自動詞として適格な例文である。

4.3.2.3 「対義語」の組み合わせ

Diep Quang Ban(2008)によると、「“mỗi từ tổ của từ ghép có nghĩa riêng khác với yếu tố còn lại.Nghĩa của từ ghép sẽ là nghĩa gộp lại của cả hai từ tổ.”(ベトナム語の並立関係複合動詞には、「対義語」の組み合わせが存在する。V1 と V2 が互いに「対義語」である場合は、複合動詞全体の意味を表す) (筆者訳)。次の(47)、(48)はその例である。

- (47) a *buôn bán*
 買う 売る = 売買する、商売する (cf. Nguyen Kim Than: 1977)
- b *ăn uống*
 食べる 飲む = 飲食する
- (48) Họ đang cùng ăn uống vui vẻ.
 彼ら 進行形 一緒に 食べる 飲む 楽しい ø
 彼らは一緒に楽しく飲食している。

(47) では、前項要素の「*buôn* (買う)」、 「*ăn* (食べる)」 に対し、後項要素は「*bán* (売
 る)」、 「*uống* (飲む)」 で反対語である。この場合、並立関係複合動詞は動詞要素のそれぞ
 れの意味を結合して、全体の意味を表す「*buôn bán* (売買する、商売する)」、 「*ăn uống*
 (飲食する)」。(48)はベトナム語の並立関係複合動詞の「対義語」の組み合わせの例文である。

このように、ベトナム語の並立関係複合動詞の組み合わせには三つの種類が存在する。そ
 れらは、「類義語」、「無意味形態素」と「対義語」の組み合わせである。従って、日本語の
 並立関係複合動詞の組み合わせと対照すると、日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の組
 み合わせには、共通点と相違点共に存在する。日本語は V1 と V2 の関係は「類義語」であ
 る。一方、ベトナム語の並立関係の V1 と V2 の関係は「類義語」だけではなく、「対義語」
 も存在する。両言語の並立関係複合動詞の対照は次の 4 節で検討する。

4.4 日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の対照

4.2 節と 4.3 節でみたように、日本語とベトナム語の並立関係複合動詞には共通点と相違
 点が存在する。本節では両言語の並立関係複合動詞の共通点と相違点について検討する。

4.4.1 日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の形態的緊密性

影山(1993)は「語という単位は句や文と異なり、語は形態的なまとまりを形成する」と述
 べている。この形態緊密性と呼ばれる制約は様々なテストによって検証することができる。
 ここでは、隣接性のテストによって、日本語とベトナム語の形態的緊密性を検討する。
 隣接性の制約は語の間には統語的な要素を挿入することを許さない。次の(49)は日本語の例
 である。

- (49) a *飛びモ上がる、*歩きモ回る (cf. 影山:1993) 語彙的複合動詞
 b *食べモ続ける、*しゃべりモまくる 統語的複合動詞

(49)のように、語彙的複合動詞も統語的複合動詞も語の間に統語的な要素(モ)が侵入することは許されない。もちろん、この制約は日本語の並立関係複合動詞にも適用できる。次の(50)を見られたい。

(50) *泣きモ叫ぶ (cf.影山:1993)

予想した通り、日本語の並立関係複合動詞は二つの動詞が結合して、一つの動詞となる。つまり、日本語の並立関係複合動詞は1語であることが分かる。

次は隣接性のテストによって、ベトナム語の並立関係複合動詞の形態的緊密性について検討する。Nguyen Kim Than (1977:37)によると、「“từ là không thể xen một yếu tố nào dù là từ thực hay hư từ vào giữa các thành tố của nó (trường hợp ngoại lệ , có tác dụng tu từ học) và mỗi thành tố của nó không bao giờ phát sinh quan hệ ngữ pháp riêng rẽ với một từ khác ở ngoài kết cấu của nó” (語は固まりなので、他の語も機能語も語の間に挿入することは許されない(レトリックの効果の例外は後で述べる)²³。更に、語の各要素は、分割し、その語の構造を超えて他の語と文法的な関係を生じることはない。)」(筆者訳)。次の(51)と(52)を見られたい。

- (51) a để ý (cf.Nguyen Kim Than1977:39)
置く、放置する 意見、意義、意志 = 注意する、気を付ける、気にする
- b *để cái ý
置く、放置する 助数詞 意見、意義、意志
- c *để nhiều ý
置く、放置する 多い 意見、意義、意志
- (52) a có ý
ある、いる、持つ 意見、意義、意志 = 意味する
- b Có lắm ý lắm
ある、いる、持つ たくさん 意味、意見、意義、意志 たくさん
意味がたくさんある。
- c Có cái ý khác
ある、いる、持つ 助数詞 意見、意義、意志、 他
他の意義がある。

²³ ベトナム語の並立関係複合動詞は、口語では軽視やアイロニカルな意味を表すレトリックの要素(với、chà、)を侵入することができる。

(51)aを見ると、複合動詞「“đề ý” (注意する、気を付ける)」は1語である。そのため、(51)b、(51)cのような場合は、複合動詞の間に他の語や機能詞を挿入することができない。それに対して、(52)a「“có ý” (意味する)」は分割して、新しい文法構造ができる。つまり、(52)a「“có ý” (意味する)」の語の間に程度副詞「“lắm” (たくさん)」、助数詞(cái)を挿入して、新しい文法構造ができる。(52)b、の「“có lắm ý lắm” (意味がたくさんある)」、(52)cの「“có cái ý khác” (他の意味がある)」のようになる。そのため「“có ý” (意味する)」は1語ではなく、句である。

この制約はベトナム語の並立関係複合動詞にも適用できると考える。次の(53)~(55)を見られたい。

- (53) a làm ăn 並立関係複合動詞
やる、する、働く 食べる = 労働する、生計を立てる
- b làm ăn vất vả. 並立関係複合動詞の例文
やる、する、働く 食べる 大変 = 一生懸命働く
- c *làm vất vả ăn 並立関係複合動詞の間に挿入
働く、やる、する 大変 食べる
- (54) a mua bán 並立関係複合動詞
買う 売る = 売買する
- b Mua bán hàng hóa. 並立関係複合動詞の例文
買う 売る 商品、製品、品物
商品を売買する
- c *mua hàng hóa bán 並立関係複合動詞の間に挿入
買う 商品、製品、品物 売る
- (55) a bế bồng 並立関係複合動詞
抱く、抱っこ 抱く、抱っこする = 抱く
- b Bé bồng con cháu. 並立関係複合動詞の例文
抱く、抱っこする 抱く、抱っこする 孫子
孫子を抱く
- c *bé con cháu bồng 並立関係複合動詞の間に挿入
抱く、抱っこ 孫子 抱く、抱っこする

(53)~(55)を見ると、(53)aと(54)a、(55)aではベトナム語の並立関係複合動詞「“làm ăn” (労働する、生計を立てる)」、「“mua bán” (売買する)」、「“bế bồng” (抱き抱える)」は二つの動詞が結合して、一つの動詞となる。従って、(53)c、(54)cと(55)cのように並立関係複合動

詞の間に他の語「“hàng hóa” (商品、製品、品物)」、「“con cháu” (孫子)」を挿入することは許されない。つまり、ベトナム語の並立関係複合動詞は1語であることが分かる。

更に、ベトナム語の並立関係複合動詞は前項動詞、後項動詞が共に名詞の組み合わせも存在する。Diep Quang Ban(2008)によると、ベトナム語の並立関係の各要素は品詞が同じであるが、例外もある「“com nước” (食事する、料理する、食事、料理)」、「“son phấn” (化粧する、化粧、紅とおしろい)」のような例は、前項要素と後要素は名詞で、結合すると、複合名詞にもなり、複合動詞としても使える。しかし、分割すると、前項要素と後項要素が名詞として使える。次の(56)と(57)を見られたい。

- (56) a com nước (cf.Diep Quang Ban:2004)(筆者改変) 並立関係複合動詞/名詞
 ご飯 水 = 食事する、料理する/食事、料理
- b com ngon ご飯(名詞)
 ご飯 美味しい = 美味しいごはん
- c nước mát 水の(名詞)
 水 冷たい、涼しい = 冷たい水
- d Com nước ở quán này chán quá. 複合名詞として使う
 ご飯 水 居る 店 ここ まずい とても
 この店の料理はとてもまずい。
- e Com nước xong²⁴ họ đã lên đường. 複合動詞として使う
 ご飯 水 終わる 彼ら 過去形 上がる 道
 食事し終わった後、彼らは出発した。
- (57) a son phấn 並立関係複合動詞/名詞
 口紅 おしろい = 化粧する/化粧、口紅とおしろい
- b son đắt 口紅 (名詞)
 口紅 高い= 高い口紅
- c phấn rẻ おしろい (名詞)
 おしろい 安い = 安いおしろい
- d Tôi mua son phấn đắt tiền. 複合名詞として使う
 私 買う 口紅 おしろい 高い お金
 私は高価な化粧を買う。
- e Son phấn xong thì tôi lên trình diễn. 複合動詞として使う
 口紅 おしろい 終わる 機能語 私 上がる 演奏する
 化粧したら、私が演奏する。

²⁴ 「“xong” (終わる)」は名詞の後では使えない。

(56)、(57)を見ると、ベトナム語の並立関係複合動詞/名詞「“com nước” (食事する、料理する/食事、料理)、「son phấn” (化粧する、化粧、紅とおしろい) はそれぞれの要素「“com” (ご飯)+ “nước” (水)、“son” (口紅)+ “phấn” (おしろい)」の単語の意味から、複合動詞の全体の意味を判断することができない。更に、(56)b 「“com ngon” (美味しいご飯)」、(56)c 「“nước mát” (冷たい水)」と(57)b 「“son đất” (高い口紅)」、(57)c 「“phấn rẻ” (安いおしろい)」のような単語は名詞である。しかし、二つの要素を結合すると、(56)d と(57)d のような複合名詞になるし、(56)e と(57)e の並立関係複合動詞もできる。そのため、「“com nước” (食事する、料理する/食事、料理)、「son phấn” (化粧する/化粧、紅とおしろい)」は並立関係複合動詞で、1語であることが支持されると言える。

また、(56)と(57)とは逆に、ベトナム語の並立関係複合動詞は前項動詞、後項動詞が共に動詞であるが、名詞化できる。次の(58)はその例である。

- (58)
- | | | | | |
|---|--------------|---------|--------------------------|-------------|
| a | khâu | vá | | 並立関係複合動詞 |
| | 手で縫う | 繕う=縫う | | |
| b | Khâu | vá | quần áo. | 並立関係複合動詞の例文 |
| | 手で縫う | 繕う | 服 | |
| | 服を縫う | | | |
| c | *khâu | quần áo | vá | 複合動詞の間に挿入する |
| | 手で縫う | 服 | 繕う | |
| d | khâu | áo | | 手で縫う(動詞) |
| | 手で縫う | シャツ | | |
| | シャツを手で縫う | | | |
| e | vá | áo | | 繕う(動詞) |
| | 繕う | シャツ | | |
| | シャツを繕う | | | |
| f | Khâu | vá | là công việc của phụ nữ. | 名詞として使う |
| | 手で縫う | 繕う | である 仕事 の 女性 | |
| | 裁縫は女性の仕事である。 | | | |
| g | *khâu | là | công việc của phụ nữ | 名詞として使えない |
| | 手で縫う | である | 仕事 の 女性 | |
| h | *vá | là | công việc của phụ nữ | 名詞として使えない |
| | 繕う | である | 仕事 の 女性 | |

(58)a、(58)bを見ると、ベトナム語の並立関係複合動詞「*khâu vá*」(裁縫・縫整)は二つの要素「*khâu*」(手で縫う)+「*vá*」(繕う)を結合し、それぞれの要素の単語の意味から、複合動詞全体の意味を判断することはできない。(58)cのように、ベトナム語の並立関係複合動詞「*khâu vá*」(裁縫・縫整)は1語なので、語の間に他の語を挿入することはできない。更に、(58)d「*khâu áo*」(シャツを手で縫う)」、(58)e「*vá áo*」(シャツを繕う)のような単語の意味は動詞である。しかし、このような二つの要素を結合すると、(58)fのような複合名詞になる。従って、「*khâu vá*」(裁縫・縫整)は並立関係複合動詞で、1語であることが支持されると言える。

しかし、ベトナム語の並立関係複合動詞は1語のタイプの他に、口語で語の間に機能詞(レトリックの要素 *với*、*chả*、)を挿入することができるタイプも存在する。Nguyen Kim Than(1977)によれば、「*trong tiếng Việt có một hình thức tu từ đặc biệt thường áp dụng trong khẩu ngữ ,đó là việc xen yếu tố với, chẳng vào giữa hai âm tiết của một từ.*」(ベトナム語の並立関係複合動詞は、口語ではレトリックの要素 (*với*、*chả*、)を挿入することができ、この場合の本来の意味は変わらないが、軽視やアイロニカルな意味を表す。更に、これらの複合動詞の補語は集合名詞や不定代名詞である。)(筆者訳)。次の(59)~(61)は例文である。

- (59) a *trông nom*
見る、期待する よく見る、見守る = 世話をする、預かる
- b *trông với nom gì!* (cf.Nguyen Kim Than :1977)
見る、期待する 機能詞 よく見る、見守る 不定代名詞
それ、世話なんて言えるのか。
- (60) a *mua bán*
買う 売る = 売買する
- b *Cụ không phải mua với bán gì.*
おじいちゃん ~ない ~しなければならない買う機能詞 売る不定代名詞
おじいちゃんは何も買わなくてよい。
- (61) a *giặt giũ*
洗う 濯ぐ =洗濯する
- b *Đi giặt với giũ đi.*
行く 洗う 機能詞 濯ぐ 命令詞
洗濯しに行ってください。

(59)～(61)のように、ベトナム語の並立関係複合動詞「“trông nom” (世話をする、預かる)」「“mua bán” (売買する)」、 「“giặt giũ” (洗濯する)」は補語(が不定代名詞(「gi」)である。(59)b、(60)b、(61)b は並立関係複合動詞の間にレトリックの要素 với を挿入した例文である。

また、ベトナム語の並立関係複合動詞は日本語の並立関係複合動詞とは異なり、二つの要素の語順を変えることができる。Nguyen Kim Than (1977:44)は「“có một số động từ phức liên hợp chưa có kết cấu thật là chặt chẽ, vì người ta có thể đảo lại trật tự của hai thành tố. Song hiện tượng này chỉ tồn tại ở một số từ (nói chung là gốc Việt), thường xuất hiện trong thơ ca khi cần làm cho câu thơ vần điệu.” (ベトナム語の並立関係複合動詞には、構成構造があまり強くなく、二つの要素の語順を変えることができる複合動詞が存在する。しかし、この現象はいくつの場合がある(固有語の結合)。歌詞の音の韻を揃えたり、意味を強意したりするために、これらの複合動詞の語順を変えることが許される。)」としている。次の(62)はその例である。

- (62) a Cảnh ngộ có thể thay đổi được người .(cf. Nguyen KimThan :1977)
 境遇 可能 代える 換える ～される 人間
 人間は境遇によって変化させられる。
- b Cảnh ngộ có thể đổi thay được người
 境遇 可能 換える 代える ～される 人間
 人間は境遇によって変化させられる

(62)は、文学作品で、強意を表すために、作者は複合動詞の語順を変えている「“thay đổi”(代える 換える) ⇒ 「“đổi thay”(換える、代える)」。

更に、並立関係複合動詞の語順を変えることについて、Diep Quan Ban(2008)の研究がある。

Diep Quan Ban(2008:577)は、「“khả năng có thể thay đổi trật tự là đặc trưng của từ ghép đẳng lập. Thế nhưng, không phải tất cả các trường hợp đều thay đổi trật tự. Từ mà có thể thay đổi được là từ “đồng nghĩa” và “trái nghĩa”. Trong khi đó động từ phức mà có chứa từ mất nghĩa sẽ không thay đổi được trật tự “(並立関係複合動詞の特徴について、語順を変えることができると言われる。しかし、すべてのベトナム語の並立関係複合動詞のV1とV2の語順を変えることはできない。変えることができるのは並立関係複合動詞の「類義語」の組み合わせと「対義語」の組み合わせの場合のみである。それに対して、並立関係複合動詞の「無意味形態素」を含む組み合わせのV1とV2の語順は変えることができない。)」としている(筆者訳)。つまり、意味的透明性が低い並立関係複合動詞の語順は変えることができない。次の(63)～(66)を見られたい。

- (63) a *bé* *bông*²⁵ 「類義語」の組み合わせ
抱く、抱っこする 抱く、抱っこする = 抱く
b *bông* *bé*
抱く、抱っこする 抱く、抱っこする = 抱く
- (64) a *sống* *chết* 「対義語」の組み合わせ
生きる 死ぬ=生きて死ぬ
b *chết* *sống*
死ぬ 生きる=生きて死ぬ
- (65) a *làm* *lụng* 「無意味形態素」の組み合わせ
する、やる \emptyset =労働する
b **lụng* *làm*
 \emptyset する、やる
- (66) a *ăn* *ở*
食べる 居る=周りの人に振舞う、生活する、夫婦が共に住む
b **ở* *ăn*
居る、住む 食べる

(63)a、(64)aのように、並立関係複合動詞の「類義語」「*bé bông*」(抱く)と「対義語」「*sống chết*」(生きて死ぬ)の組み合わせのV1とV2の意味から、全体の意味が導ける。つまり、これらの並立関係複合動詞の意味的透明性が高いので、V1とV2の語順は変えることができる。(63)b「*bông bé*」(抱く)と(64)b「*chết sống*」(生きて死ぬ)は(63)a、(64)aのV1とV2の語順を変えた例である。

それに対して、(65)、(66)の並立関係複合動詞の「無意味形態素」の組み合わせのV1とV2の語順は変えることができない。その理由はベトナム語の並立関係複合動詞のV1は語彙的な意味を持っている要素でなければならないからである。そのため、(65)b(「**lụng làm*」(\emptyset する、やる))は不適格になる。更に、この並立関係複合動詞「*làm lụng*」(労働する)は抽象的な意味を持ち、V1とV2の意味から全体の意味が導けない、意味的透明性が低いのである。

更に、(66)aの並立関係複合動詞「*ăn ở*」(周りの人に振舞う、生活する、夫婦が共に住む)の意味は後項動詞「*ở*」(居る、住む)で表す。前項動詞「*ăn*」(食べる)を結合すると、イデオム的な意味を持つ並立関係複合動詞になる。つまり、このような並立関係複合動詞のV1とV2の意味から、複合動詞全体の意味が導けないので、意味的透明性が低い。従って、(66)b「**ở ăn*」(居る、住む 食べる)のように語順を変えることは許されない。

²⁵ *bông* は ベトナムの北部の方言である。

このように、ベトナム語の並立関係複合動詞の V1 と V2 の語順を変えてもよい場合もあるし、変えてはいけない場合もある。(63)と(64)のような並立関係複合動詞の V1 と V2 の意味から、全体の意味が導け、すなわち複合動詞の意味的透明性が高い場合は、V1 と V2 の語順を変えることができる。それに対して、(65)と(66)のような並立関係複合動詞の V1 と V2 の意味から、全体の意味が導けず、すなわち複合動詞の意味的透明性が低い場合は、V1 と V2 の語順を変えることができない。

以上のように、日本語の並立関係複合動詞は隣接性の制約から、V1 と V2 の間に句や語を挿入することは許されない。それに対して、ベトナム語では(63)~(66)のように、口語では、ベトナム語の並立関係複合動詞の間に機能詞(レトリックの要素 *vói*、*chả*、)を挿入することができる。これにより、本来の意味は変わらないが、軽視やアイロニカルな意味を表す。

更に、日本語の並立関係複合動詞の V1 と V2 の語順は変えることができない。しかし、(63)~(66)のように、ベトナム語の並立関係複合動詞は V1 と V2 の語順を変えられる場合もあり、変えられない場合もある。(63)、(64)のような意味的透明性が高い並立関係複合動詞の場合は、V1 と V2 の語順を変えることができる。それに対して、(65)、(66)のような意味的透明性が低い並立関係複合動詞の場合は、V1 と V2 の語順を変えることができない。

日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の形態緊密性の共通点と相違点を次の表 2 に示した。

表 2 日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の形態緊密性

	日本語の並立関係複合動詞	ベトナム語の並立関係複合動詞
隣接性	必須	必須であるが、口語では、機能詞(レトリックの軽視やアイロニカルな意味を表す要素 <i>vói</i> 、 <i>chả</i> 、)を挿入することができる。
語順変化	*	意味的透明性が高い場合は V1 と V2 の語順を変えることができる。

表 2 を見ると、日本語の並立関係複合動詞は V1 と V2 の間に統語的な要素を挿入することができない。それに対して、「*ăn vói uống*」(飲食する)のようなベトナム語の並立関係複合動詞の口語では、機能詞(レトリックの軽視やアイロニカルな意味を表す要素 *vói*、*chả*、)を挿入することができる。更に、日本語の並立関係複合動詞は V1 と V2 の語順を変

ることはできない。それに対し、「bế bồng” = “bồng bế” (抱く)」のようなベトナム語の並立関係複合動詞で意味的透明性が高い場合は、V1 と V2 の語順を変えることができる。

4.4.2 日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の意味関係の組み合わせ

4.4.1 節では、日本語とベトナム語の形態緊密性について説明した。本節(4.4.2)では、日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の意味関係の組み合わせの対照をする。

4.4.2.1 V1 と V2 の「類義語」の組み合わせ

既にみたように(4.1.2.1)と(4.2.2.1) でみたように、日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の組み合わせは「類義語」である。つまり、V1 と V2 の意味がほぼ同じである。次の(67) は V1 と V2 がほぼ同じ意味の動詞で形成される日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の例である。

(67) a ほめたたえる、光り輝く、耐え忍ぶ、恐れおののく、媚びへつらう、問い尋ねる、抱き抱える、照り映える、泣き叫ぶ、泣きわめく... (cf.由本:1996)

b đọa nạt (cf.Nguyen Kim Than :1977)

おびやかす おどす=おびやかす、おどす

e ngại

恐れる おそれる=恐れおののく

gò bó

強制する 結束する=気兼ねする、気詰まり

gom góp

集める 寄附する=貯める、貯蔵する

cắt xén

切る 裁断する=刈り込む

cày cấy

耕す 移植する=耕す

dụ dỗ

誘う あやす=勧誘する

(67)a(日本語の並立関係複合動詞)と(67)b(ベトナム語の並立関係複合動詞)のように、日本語とベトナム語の並立関係複合動詞は共に、V1 と V2 の意味がほぼ同じである。

(67)a の日本語の並立関係複合動詞の「ほめたたえる」を例とすると、前項動詞(ほめる)と後項動詞(たたえる)は共に意味がほぼ同じである。日本語と同様、(67)b のベトナム語の

並立関係複合動詞の「*đọạ nạt*」(おびやかす、おどす)は前項動詞「*đọạ*」(おびやかす)と後項動詞「*nạt*」(おどす)の意味はほぼ同じである。このように、日本語とベトナム語の並立関係複合動詞には「類義語」の組み合わせが存在する。

しかし、日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の「類義語」の組み合わせには、相違点も存在する。それはアスペクトに関する制約である。次の4.4.3.2では日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の語彙的アスペクトによる動詞分類の関係する制約について検討する。

4.4.2.2 語彙的アスペクトに関する V1 と V2 の組み合わせ

何志明(2002)は、Vendler(1967)の語彙的アスペクトによる4つの動詞分類を考察し、日本語の並立関係複合動詞の組み合わせと V1 と V2 になれる動詞の主な特徴を検討した。日本語の並立関係複合動詞は変化動詞と変化動詞を結合することはできない。それに対して、ベトナム語の並立関係複合動詞では、V1 の変化動詞と V2 の変化動詞を結合することができる。下記に Vendler (1967)の語彙的アスペクトによる動詞の4分類を示す。

Vendler (1967)の4分類 (cf. 影山 1996:41)

①状態(states) : 原形のまま状態を表し、進行形をとらない。

例 : know, believe, have, desire, love

②活動(activities) : 進行形で動作の継続を表し、着点や結果や動作の限界点をもたない。

例 : run, walk, swim, push a cart, drive a car

③到達(achievements) : ある状態が実現される瞬間的な出来事を表す。動作の過程は表さない。

例 : recognize, spot, find, lose, reach, die

④達成(accomplishments) : 継続的な動作の結果、ある状態を実現することを表す。

例 : paint a picture, make a chair, push a cart to the supermarket, recover from illness

4.4.2.2.1 「変化動詞+変化動詞」の組み合わせ

何志明(2002)によれば、日本語の並立関係複合動詞の V1 と V2 の組み合わせが「変化動詞+変化動詞」の時は一義的経路の制約 (Unique Path Constraint)に従わないので、並立関係複合動詞を作ることはできない。下記には Goldberg (1991)の一義的経路の制約を示す。(和訳は影山(1996:227))

X が具体物の場合、単文内で X を2つ以上の異なる経路 (path) について叙述することができない。これは次の2つの場合を規定している :

(a) Xは特定の時点において2つの別々の位置(locations)に移動するようには叙述できない。

(b) 移動は単一の情景の中で一つの経路を辿らなければならない。

つまり、V1とV2の意味がほぼ同じであっても、V1とV2が変化動詞同士の組み合わせは並立関係複合動詞として不適切である。次の(70)を見られたい。

Goldberg (1991)の一義的経路の制約によると、V1とV2の意味がほぼ同じであっても、V1とV2が変化動詞同士の組み合わせは並立関係複合動詞として不適切である。次の(68)を見られたい。

(68) *ポスターが剥がれ外れる。 (cf.何志明:2002)

cf. ポスターがはがれる、ポスターが外れる

*コップが割れ砕ける。

cf. コップが割れる、コップが砕ける。

(68)のように、一つの対象(ポスター)が二つの変化(「剥がれる」と「外れる」、)になる。そのため、(68)は不適切になる。

しかし、ベトナム語の、並立関係複合動詞の組み合わせには、V1が変化動詞でV2も変化動詞の組み合わせが存在する。次の(69)はその例である。

(69) a roi rụng
 落ちる 散る、抜ける=散る

b roi vãi
 落ちる バラバラに散る、落ちる=こぼれる、ゆっくりと消える

(70) Thóc roi vãi dọc đường
 玄米 落ちる バラバラに散る、落ちる に沿って、縦 道
 玄米が道の上にこぼれていた。

(69)ではV1「roi」(落ちる)の意味はV2「rụng」(落ちる、散る、抜ける)、「vãi」(バラバラに散る、落ちる)の意味とほぼ同じである。更に、V1とV2は変化動詞である。(70)はベトナム語の並立関係複合動詞の「変化動詞+変化動詞」の組み合わせの例文である。

語彙的アスペクトに関する日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の相違点は「変化動詞+変化動詞」の組み合わせの他に、「活動動詞+活動動詞」の組み合わせの相違点も存在する。

次に、日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の「活動動詞+活動動詞」の組み合わせについて検討する。

4.4.2.2 「活動動詞+活動動詞」の組み合わせ

何志明(2002:52)は、「活動動詞」は位置変化も状態変化も生じないため、対象が受ける結果変化はない。対象を結果変化に導く経路がないため、一義的経路の制約には反しない。従って、「活動動詞+活動動詞」は適切な組み合わせになる。更に、このような動作の過程は一定の時間的な幅、いわゆる、持続性を持っているとする。つまり、日本語の並立関係複合動詞のV1とV2になれる動詞は「類義語」であることという制約の他に、変化を表さない活動動詞でなければならない。更に、「活動動詞」であっても、V1とV2が持続性を持っていない動詞も日本語の並立関係複合動詞には存在しない。次の(71)と(72)はその例である。

- (71) a 花子が1時間泣いている。(cf.何志明:2002)
b 太郎が1時間叫んでいる。
- (72) a 先生が1時間学生の作品をほめている。
b 市長が1時間代表チームの優勝をたたえている。

(71)と(72)は日本語の並立関係複合動詞を「泣き叫ぶ」と「ほめたたえる」を「1時間」という時間副詞で修飾した例文である。「泣き叫ぶ」と「ほめたたえる」は共に、V1(「泣く、ほめる」)とV2(「叫ぶ、たたえる」を「1時間」の副詞で修飾することができ、持続性を持っている動詞である。

「殴り蹴る」の場合は、V1とV2は類義語で、活動動詞であるが、「殴り蹴る」は日本語の並立関係複合動詞には存在しない。その理由は、「殴る」と「蹴る」は一般的に一回ないし複数回はするが持続しては行かない。動詞は1時間の中で1回だけではなく、複数回を続けて行うという動詞である。つまり、「殴る」と「蹴る」は持続性を持っていない動詞であるため、日本語の並立関係複合動詞にはならない。次の(73)を見られたい。

- (73) a 太郎は1時間に5回サンドバッグを殴っている。(cf.何志明 2002:53 筆者改変)
b 太郎は1時間に5回サンドバッグを蹴っている。

(73)のように、「殴る」や「蹴る」という動詞は1時間の中で1回だけではなく、5回「殴る」や「蹴る」という動作を続けて行うということに限られる。そのため、1回だけの「殴る」や「蹴る」は1時間持続するということはない。従って、日本語には*「殴り蹴る」のような持続性を持っていない活動動詞の並立関係複合動詞は存在しない。

このように、日本語の並立関係複合動詞の制約は語彙的アスペクトに関係がある。しかし、ベトナム語ではアスペクトを表すために、アスペクトを表す言葉を使う。そのため、日本語と異なり、ベトナム語の並立関係複合動詞は持続性を持っていない活動動詞の組み合わせが成立する。次の(74)~(76)を見られたい。

- (74) a **đấm đá** 並立関係複合動詞
 殴る 蹴る = 殴って蹴る(手足での争い)
- b **đánh đấm**
 叩く、打つ 殴る = 叩いて殴る
- c **đánh đập**
 叩く、打つ 打つ = 殴打する
- (75) a Người đàn ông **đấm** bao cát 5 lần trong 1 tiếng. 「殴る」単純動詞
 人 男 殴る サンドバッグ 5 回 中 1時間
 男の人は1時間に30回サンドバッグを殴る。
- b Người đàn ông **đá** bao cát 5 lần trong 1 tiếng. 「蹴る」単純動詞
 人 男 蹴る サンドバッグ 5 回 中 1時間
 男の人は1時間にサンドバッグを5回蹴る。
- c Người đàn ông **đánh** con 5 lần trong 1 tiếng. 「叩く」単純動詞
 人 男 叩く 子供 5回 中 1時間
 男の人は1時間に5回子供を叩く。
- d Người đàn ông **đập** bàn 10 lần trong 1 tiếng. 「打つ」単純動詞
 人 男 打つ 机 10回 中 1時間
 男の人は1時間に10回机を打つ。
- (76) a Trẻ con đang **đấm đá** nhau. 並立関係複合動詞の例文
 子供 進行中 殴る 蹴る 互い
 子供たちは殴って蹴っている。
- b Chủ **đánh đập** thô bạo người làm. (http://tratu.coviet.vn/)
 主人 叩く 打つ 粗暴 人 働く
 主人は人夫を激しく殴打する。

(74)のように、ベトナム語の並立関係複合動詞の組み合わせは前項動詞「**đấm**」(殴る)、「**đánh**」(叩く)と後項動詞「**đá**」(蹴る)、「**đấm**」(殴る)、「**đập**」(打つ)は活動動詞である。更に、(75)のように、ベトナム語の並立関係複合動詞のV1とV2は共に、1時間の間に1回だけではなく、複数回を続ける動詞である。そのため、「**đấm**」(殴る)、「**đánh**」

(叩く)、「*dá* (蹴る)」、「*đám* (殴る)」、「*đập* (打つ)」は持続性を持っていない動詞である。日本語の並立関係複合動詞の組み合わせと異なり、ベトナム語の並立関係複合動詞は持続性を持っていない動詞の組み合わせが存在する。(76)はその例文である。

アスペクトに関する日本語とベトナム語の並立関係複合動詞には相違点の他に、共通点もある。次では、日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の「使役他動詞+使役他動詞」の組み合わせについて検討する。

4.4.2.2.3 「使役他動詞+使役他動詞」の組み合わせ

何志明(2002)は、一義的経路の制約を利用し、V1 と V2 の組み合わせを考察した。その結果日本語の並立関係複合動詞の組み合わせの V1、V2 になる動詞は活動動詞であり、位置や状態の変化を表す動詞は並立関係複合動詞の V1 と V2 にはならないとしている。従って、日本語の並立関係複合動詞の V1 と V2 は使役他動詞の組み合わせを許さない。次の(77)を見られたい。

(77) *太郎が荷物をおろしさげる。(cf.何志明 2002:54)

cf. 荷物をおろす、荷物をさげる

(77)のように、*「おろしさげる」、の組み合わせは V1 の使役他動詞(「おろす」と V2 の使役他動詞(「さげる」)の組み合わせである。(77)a、は一義的経路の場合は「荷物をおろした」と「荷物をさげた」から、荷物が「おろされる」と「さげられる」である。そのため、(77)のような組み合わせは日本語の並立関係複合動詞には存在しない。

日本語と同様、ベトナム語の並立関係複合動詞も V1 が使役他動詞で V2 が使役他動詞の組み合わせを容認しない。ベトナム語の使役他動詞は日本語と違い、働きかけのみを表し、結果を含意しない。つまり、日本語の使役他動詞がベトナム語の手段結果複合動詞に対応するのは「働きかけ動詞+状態/位置変化」の結果を表す動詞である。そのため、V1 の使役他動詞と V2 の使役他動詞を結合すれば、構成構造が四つの要素 (V1 「働きかけ動詞+状態/位置変化の結果を表す動詞」+V2 「働きかけ動詞+状態/位置変化の結果を表す動詞」)になり、並立関係複合動詞の構成構造に当てはまらない。更に、手段結果複合動詞なので、並立関係複合動詞に変更することができない。次の(78)を見られたい。

(78) *Tôi đã đánh vỡ đập vỡ cái cốc.

私 過去 叩く 割れる 打つ 割れる 類別詞 コップ

cf. Tôi đã đánh vỡ cái cốc, đập vỡ cái cốc.

私 過去 叩く 割れる 類別詞 コップ 打つ 割れる 類別詞 コップ

私はコップを割った、コップを砕いた

(78) のように、ベトナム語の V1 の使役他動詞は二つの要素を持つ(「*đánh*」(叩く)と「*vỡ*」(割れる))。V2 の使役他動詞も二つの要素を持つ(「*đập*」(打つ)と「*vỡ*」(割れる))。従って、V1 と V2 を結合すると、構成構造が 4 つの要素になり「*đánh*」(叩く)、
「*vỡ*」(割れる)、「*đập*」(打つ)、「*vỡ*」(割れる)、複合動詞とならない。更に、「*đánh vỡ*」(割る)、「*đập vỡ*」(叩き壊す)は結果関係複合動詞であり、並立関係複合動詞に変更することはできない。

このように、日本語、ベトナム語共に、並立関係複合動詞は V1 と V2 が使役他動詞の組み合わせは存在しない。

4.4.2.3 V1 と V2 が「対義語」の組み合わせ

日本語と異なり、ベトナム語の並立関係複合動詞においては、V1 と V2 の「対義語」の組み合わせが存在する。

影山(1993:101)は複合動詞は一つの主語、一つの目的語で構成される単一の事象を表すから、複数の異なる事象を盛り込むことは困難になり、対立概念を一つの複合動詞に取り込むことは出来ないとしている。次の(79)はその例である。

(79) *行き来る、*貸し借りる、*飲み食う、... (cf.影山:1993)

しかし、ベトナム語は、複数の異なる事象を盛り込むことを容認する。そのため、対立概念を一つの複合動詞に取り込むことが出来る。次の (80)を見られたい。

- (80) a nghe nhìn (cf. Diep Quang Ban:2008)
聞く 見る = 見聞きする/音響・映像
b sống chết
生きる 死ぬ = 生死する
c đi lại
行く 戻る、また = 行き来する
d mua bán
買う 売る = 売買する、商売する

(80)は、ベトナム語の並立関係複合動詞の V1 の「*nghe*」(聞く)、「*sống*」(生きる)、「*đi*」(行く)、「*mua*」(買う)と V2 の「*nhìn*」(見る)、「*chết*」(死ぬ)、「*lại*」(戻る)、「*bán*」(売る)

は対立概念である。これらは、日本語の並立関係複合動詞の影山(1993)の「対義語」の制約に従わない。

更に、V1 と V2 の「対義語」の並立関係複合動詞を構成する要素を単独で用いると(単純語)、単独の動詞本来の意味が現れ、複合動詞とは意味が異なる。例えば(81)a、(81)b の並立関係複合動詞「“ăn uống”(食べる+ 飲む = 飲食する)」が自動詞であるのに対し、単純語、「“ăn”(食べる)」と「“uống”(飲む)」は他動詞である。

- | | | | | | | |
|------|----|------------------|--------------|-----------------|-----------------|-------------------|
| (81) | a | ăn | uống | 並立関係複合動詞 | | |
| | | 食べる | 飲む | | | |
| | | 飲食する | | | | |
| | b | Họ | đang ăn uống | vui vẻ. | 自動詞として適切 | |
| | | 彼ら | 進行中 | 飲食する | 楽しい | |
| | | 彼らは楽しく飲食している。 | | | | |
| | *c | Họ | đang ăn uống | com | vui vẻ. | 目的語を取って不適切 |
| | | 彼ら | 進行中 | 飲食する | ご飯 | 楽しい |
| | | 彼らは楽しくご飯を飲食している。 | | | | |
| | d | Họ | đang ăn | com. | 食べる動詞 | |
| | | 彼ら | 進行中 | 食べる | ご飯 | |
| | | 彼らはご飯を食べている。 | | | | |
| | e | Họ | đang uống | rượu. | 飲む動詞 | |
| | | 彼ら | 進行中 | 飲む | お酒 | |
| | | 彼らはお酒を飲んでいる。 | | | | |

また、ベトナム語は自動詞と他動詞の形式は変わらず、同じ形式で表現され、文の語順によって、自動詞か他動詞かが決まる。そのため、日本語と異なり、ベトナム語の並立関係複合動詞では他動詞と非対格自動詞は結合することができる。つまり、ベトナム語の並立関係複合動詞の全体の意味は V1 と V2 の結合した総合的な意味を表し、自動詞、他動詞には関係ない。日本語の並立関係複合動詞の制約とは異なり、ベトナム語の並立関係複合動詞は「他動性調和の原則」に当てはまらない。

次の(82)は、ベトナム語の並立関係複合動詞の組み合わせで、V1 は他動詞、V2 は非対格自動詞の例である。

- | | | | |
|------|---|-----|--------------------------|
| (82) | a | ăn | ở |
| | | 食べる | 居る=周りの人に振舞う、生活する、夫婦が共に住む |

b sinh tử
 生む 死ぬ=生死する

(83) Day con ăn ở dàng hoàng
 教える 子供 食べる 居る 堂々とした
 子供に周りの人に堂々と振舞うよう教える。

(82)を見ると、ベトナム語の並立関係複合動詞には V1 が他動詞「“ăn” (食べる)」、「sinh” (生む)」と V2 が非対格自動詞(「“ở” (居る)」、「“tử” (死ぬ))の組み合わせが存在する。(83) はベトナム語の並立関係複合動詞の他動詞と非対格自動詞の組み合わせ「“ăn ở” (周りの人に振舞う)」の例文である。

このように、日本語とベトナム語の並立関係複合動詞共には V1 と V2 は「類義語」であることという制約がある。更に、「使役他動詞+使役他動詞」の組み合わせは、日本語とベトナム語の並立関係複合動詞には存在しない。

しかし、日本語の並立関係複合動詞は一義的経路の制約に従うので、V1、V2 共に変化動詞の組み合わせが存在しない。それに対して、ベトナム語の並立関係複合動詞は V1、V2 共に「変化動詞+変化動詞」の組み合わせができる。更に、日本語の並立関係複合動詞の「活動動詞+活動動詞」の組み合わせでは、V1、V2 共に、持続性を持っている動詞でなければならない。それに対して、ベトナム語の並立関係複合動詞の「活動動詞+活動動詞」の組み合わせは V1、V2 共に持続性を持っている動詞同士だけではなく、持続性を持っていない動詞同士もある。

また、日本語の並立関係複合は V1 と V2 の意味が同じでなければならない。それに対して、ベトナム語の並立関係複合動詞は V1 と V2 の意味が対義語の組み合わせも存在する。日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の意味関係の組み合わせの共通点と相違点にまとめたのが次の表 3 である。

表 3 日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の意味関係の組み合わせ

	日本語の並立関係複合動詞	ベトナム語の並立関係複合動詞
「類義語」	必須	必須
「使役他動詞+使役他動詞」	無	無
「変化動詞+変化動詞」	無	有
「活動動詞+活動動詞」	持続性を持つ動詞	持続性を持つ/持たない動詞
「対義語」	無	有

4.5 まとめ

以上のように、日本語とベトナム語の並立関係複合動詞には共通点と相違点が存在する。次の表4はそれをまとめたものである。

表4 日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の共通点と相違点

		日本語の並立関係複合動詞	ベトナム語の並立関係複合動詞
共通点	複合レベル	語彙的複合動詞	語彙的複合動詞
	「類義語」	必須	必須
	「無意味形態素」の組み合わせ	有	有
	「使役他動詞」の組み合わせ	無	無
	同時進行	必須	必須
相違点	隣接性	必須	必須であるが、口語では、機能詞（レトリックの軽視やアイロニカルな意味を表す要素 <i>vói</i> 、 <i>chà</i> ）を挿入することができる
	語順変化	*	意味的透明性が高い並立関係複合動詞の場合は、V1とV2の語順を変えることができる。
	「変化動詞」の組み合わせ	無	有る
	「活動動詞」の組み合わせ	持続性を持っている動詞	持続性を持つ/持たない動詞
	「対義語」	無	有
	「他動性調和の原則」	必須	従わない

IV 本章まとめ

本章では、日本語とベトナム語の複合動詞の対照を研究した。日本語の語彙的複合動詞には、V1とV2の関係に基づいて、手段結果複合動詞、並立関係複合動詞、様子・付帯状況複合動詞、原因結果複合動詞、補文関係複合動詞の5種類がある。一方、日本語の複合動詞に対応するベトナム語の複合動詞には、手段結果複合動詞と並立関係複合動詞しか存在しな

い。従って、本章では、日本語とベトナム語の手段結果複合動詞と並立関係複合動詞の対照を研究した。

まず、日本語とベトナム語の手段結果複合動詞について説明する。

日本語の手段結果複合動詞は複数の述語を一つの動詞に合成することが出来るため、三つの意味的述語「〈手段〉 + 〈使役〈結果〉〉」を合わせた一つの動詞となる。つまり、日本語の使役他動詞は使役を表す要素は顕在的に表示し、動作と同時に結果も含意する。更に、日本語の複合動詞は構成素が他動性に関して、同一のものしか組み合わせられないため、手段結果複合動詞は V1、V2 共に他動詞/非能格動詞同士の組み合わせるとなる。

一方、ベトナム語は複数の述語を複数の位置に代入する。そのため、ベトナム語の手段結果複合動詞は二つの述語「〈手段〉 + 〈結果〉」を二つの位置に代入する。つまり、使役を表す要素は潜在的に表示し、使役他動詞は動作のみ表し、完了アスペクトを含意しない。そのため、結果を表したい場合は、状態・位置変化を表す結果の自動詞と結合させる。そのため、ベトナム語の手段結果複合動詞は「他動性調和の原則」に当てはまらず、構成構造は「他動詞+自動詞」となる。

次に、日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の共通点と相違点が明らかになった。並立関係複合動詞は V1 と V2 が対等の関係で、同時進行するという特徴がある。そのため、日本語とベトナム語の並立関係複合動詞は共に、V1 と V2 が類義語で、同時に進行する共通点を持っている。更に、日本語とベトナム語の並立関係複合動詞に、「無意味形態素」の組み合わせはあるが、「使役他動詞」の組み合わせはない。

しかし、日本語の動詞と異なり、ベトナム語の動詞はアスペクトを含意しない。並立関係複合動詞においては「変化動詞」の組み合わせがある。それに対して、日本語の並立関係複合動詞に、「変化動詞」の組み合わせは存在しない。更に、日本語の並立関係複合動詞の「活動動詞」の組み合わせでは持続性を持っている動詞しか結合しない。それに対して、ベトナム語の並立関係複合動詞の「活動動詞」の組み合わせでは、持続性を持っている動詞も持続性を持っていない動詞を結合する。

また、日本語の並立関係複合動詞は V1 と V2 が類義語でなければならない。それに対して、ベトナム語の並立関係複合動詞は V1 と V2 が類義語だけでなく、対義語の結合もある。

最後に、日本語の並立関係複合動詞は「他動性調和の原則」に従うが、ベトナム語の並立関係複合動詞は「他動性調和の原則」に当てはまらない。「他動詞+自対格自動詞」の組み合わせもある。

第5章 まとめと残された問題

5.1 まとめ

本稿では、日本語の複合動詞とベトナム語の複合動詞を対照することによって共通点と相違点を探した。

第1章では、日本語の複合動詞を概観した。日本語の複合動詞については多くの研究がなされている。しかし、現代の複合動詞についての研究は、大多数の研究者が影山の説に基づいてなされている。本研究も影山の語彙的複合動詞と統語的複合動詞の二つの分類に基づいて、ベトナム語の複合動詞を対照し考察した。

語彙的複合動詞は語彙部門で形成され、V2には助動詞的な機能はなく、V1とV2が共同で、1つの本動詞である。一方、統語的複合動詞は統語部門で形成され、V2がアスペクトなどの補助動詞ないし助動詞的な機能を持ち、前項動詞(V1)を補文化する。

日本語の語彙的複合動詞のV1とV2には「並列関係」「手段」「付帯・様態」「因果関係」「補文関係」の5種類の意味的關係がある。語彙的複合動詞の結合条件については影山の「他動性調和の原則」がある。この日本語の複合動詞の観点から、ベトナム語の複合動詞を見て行く。

第2章では、ベトナム語の概要を述べた。系統的にはベトナム語はシナ・チベット語族やタイ・カダイ語族ではなく、オーストロアジア語族モン・クメール系言語のベトナム語に属すると解するのが一般的である。日本語の語順のSOVと異なり、ベトナム語の語順はSVO型(主語—動詞—目的語)である。

また、日本語と異なり、ベトナム語は形態変化せず、統語的關係はもっぱら機能詞、語順によって表される。しかし、日本語と同様、ベトナム語には複合語も存在する。複合語は二つ(以上)の要素が意味的に結合したものである。つまり、ベトナム語にも二つの動詞を結合し、全体で一つの動詞の機能を持つ複合動詞があるとしている。そのため、日本語の複合動詞との対比、すなわち共通点と相違点を検討できる可能性がある。

第3章では、ベトナム語の複合動詞の分類について検討した。ベトナム語の複合動詞についての先行研究は、Nguyen Kim Than(1977)とTran Thi Chung Toan(2002)のみである。

Nguyen Kim Than(1977)は、ベトナム語の語彙的複合動詞をCHAP動詞、並立関係、支配関係、主従関係、関係動詞+名詞、重複語、強意関係、原因結果関係の8種類に分けた。しかし、この8分類には、統一性がなく、更に簡潔に分類することができると考え、Tran Thi Chung Toan(2002)は、各要素の役割の面と意味の構成の面から、並立関係複合動詞と主従関係複合動詞二つに分類した。

影山(1993:78)によると、日本語の複合動詞を構成するV1とV2の意味関係から見ると、動作の状態・手段(押し開ける、転げ落ちる、もみ消す)、付帯状況(飲み歩く、語り明かす)、平行動作(泣き叫ぶ、恋い慕う、忌み嫌う)などがある。日本語の複合動詞と同じように、

ベトナム語の主従関係の V1 と V2 の意味関係はどうなっているか、すなわち、V1 が示す出来事が V2 が示す出来事に対してどんな役割を果たすことかはっきりしない。そのため、日本語の複合動詞とベトナム語の複合動詞の対照が容易に理解できるように、筆者は Nguyen Kim Than (1977) と Tran Thi Chung Toan (2002) のベトナム語の複合動詞の分類を基に手段結果複合動詞と並立関係複合動詞二つのタイプに再分類した。筆者の複合動詞の分類を表 1 に示す。

表 1 筆者の複合動詞の分類

タイプ	筆者の分類	解釈	例
第 1 のタイプ	並立関係複合動詞	二つの要素から構成されるが、両構成素の意味が融合する。	<p>ăn uóng (並立関係(1)) 食べる+飲む = 飲食する</p> <p>lo lảng (重複語) 心配する+ø=心配する</p> <p>hỏi han (並立関係(2)) 聞く、伺う+ ø = 聞く、伺う</p>
第 2 のタイプ	手段結果複合動詞	前項要素が主動詞、後項要素が主動詞の結果を表す。	<p>lật nhào (行為結果関係) 伏せる+ 倒れる = 倒す</p> <p>đánh rơi (CHAP 動詞) 叩く、打つ+ 落ちる = 落とす</p>

第 4 章では、日本語とベトナム語の複合動詞を対照した。日本語の複合動詞には語彙的複合動詞と統語的複合動詞がある。しかし、ベトナム語の複合動詞には、日本語の語彙的複合動詞に対応するものしかない。そのため、本研究では、日本語の語彙的複合動詞のみを対照した。更に、日本語の語彙的複合動詞を、影山(1993)は V1 と V2 の関係に基づいて、五つの手段結果複合動詞、並立関係複合動詞、付帯状況複合動詞、原因結果複合動詞、補文関係複合動詞である。ベトナム語には手段結果複合動詞と並立関係複合動詞しかないので、日本語とベトナム語の手段結果複合動詞と並立関係複合動詞だけを対照した。表 2 は日本語とベトナム語の複合動詞をまとめたものである。

表2 日本語とベトナム語の複合動詞の対照

	日本語の複合動詞					ベトナム語の複合動詞	
	手段結果複合動詞	並立関係複合動詞	付帯状況複合動詞	原因結果複合動詞	補文関係複合動詞	手段結果複合動詞	並立関係複合動詞
V1 と V2 の関係	手段結果関係	並立関係	付帯状況関係	原因結果関係	補文関係	手段結果関係	並立関係
隣接性	必須					必須であるが、口語では、機能詞(レトリックの軽視やアイロニカルな意味を表す要素 vói、chà)を挿入することができる。	
語順変化	*	*	*	*	*	*	意味的透明性が高い並立関係複合動詞の場合は、V1 と V2 の語順を変えることができる。
類義語	*	必須	*	*	*	*	必須
対義語	*	*	*	*	*	*	OK
「無意味形態素」の組み合わせ	無	有	無	無	無	無	有
「使役他動詞」の組み合わせ	無						
「変化動詞」の組み合わせ	無					有	
「活動動詞」の組み合わせ	無	持続性を持つ動詞	無	無	無	無	持続性を持つ/持たない動詞
「他動性調	必須					*	*

和の原則」			
-------	--	--	--

表2のように、日本語の語彙的複合動詞は5種類がある。これに対して、ベトナム語の複合動詞には、手段結果複合動詞、並立関係複合動詞しかない。

まず、日本語とベトナム語の手段結果複合動詞である。

日本語とベトナム語は言語類型学的特徴が異なるため、手段結果複合動詞の構成構造は異なる。

日本語の手段結果複合動詞は複数の述語を一つの動詞に合成することが出来るため、三つの述語「〈手段〉+〈使役〈結果〉〉」を合わせた一つの動詞となる。日本語の使役他動詞は使役を表す要素は顕在的に表示し、動作と同時に結果も含意する。影山(1993)の「他動性調和の原則」に従う。

一方、ベトナム語の手段結果複合動詞は、複数の述語を複数の位置に代入する。そのため、ベトナム語の手段結果複合動詞は二つの述語「〈手段〉+〈結果〉」を二つの位置に代入する。使役を表す要素は潜在的に表示し、使役他動詞は動作のみを表し、完了アスペクトを含意しない。結果を表したい場合は、状態/位置変化を表す結果の自動詞と結合する。そのため、ベトナム語の手段結果複合動詞は「他動性調和の原則」に当てはまらず、構成構造は「他動詞+自動詞」となる。日本語とベトナム語の複合動詞は語形成の原理が違うのである。

次は、日本語とベトナム語の並立関係複合動詞である。

1. 日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の共通点である。

①V1とV2は「類義語」である。

②V1とV2は「使役他動詞+使役他動詞」の組み合わせは存在しない。

2. 日本語とベトナム語の並立関係複合動詞の相違点である。

①日本語の並立関係複合動詞は隣接性が必須である。ベトナム語の並立関係複合動詞は必須であるが、口語では、機能詞（レトリックの軽視やアイロニカルな意味を表す要素 *vói*、*chả*）を挿入することができる。

②日本語の並立関係複合動詞は語順変化ができない。ベトナム語の並立関係は意味的透明性が高い場合は、V1とV2の語順を変えることができる。

③日本語の並立関係複合動詞のV1とV2は対義語はない。ベトナム語の並立関係複合動詞のV1とV2が対義語ができる。

④日本語の並立関係複合動詞にはV1とV2が「変化動詞」の組み合わせはない。ベトナム語の並立関係複合動詞にはV1とV2の「変化動詞」の組み合わせがある。

⑤日本語の並立関係複合動詞はV1とV2が共に持続性を持っている動詞である。ベトナム語の並立関係複合動詞はV1とV2が持続性を持つ/ことももたないこともある動詞である。

⑥日本語の並立関係複合動詞は「他動性調和の原則」に従う。ベトナム語の並立関係複合動詞は「他動性調和の原則」に従わない。

5.2 残された問題

以上、本研究のまとめを提示した。次には、本研究を踏まえた今後の検討課題を提示する。

まず、第1章の「日本語の複合動詞の概要」では、日本語の複合動詞は語彙的複合動詞と統語的複合動詞の二つに分類されている。語彙的複合動詞は後項動詞が助動詞的な役割を持たないのに対し、統語的複合動詞の後項動詞は、アスペクト等の助動詞的な機能を持っている。日本語の語彙的複合動詞には並立関係、付帯状況、原因結果、手段・状態、補文関係の5種類が存在する。今後、それらの5つの種類が存在するか、あるいはこれ以外の関係があるかを再検討する。

更に、日本語の複合動詞は動詞と動詞の組み合わせの中に制限がある。他動詞と他動詞(押し開ける、聞き直す、作り直す、塗り直す)、非能格自動詞と非能格自動詞(歩き回る、動き回る、逃げ回る)、非対格自動詞と非対格自動詞(こぼれ落ちる、崩れ落ちる、燃え落ちる)、非能格自動詞と他動詞(座り直す、寝直す、出直す)、他動詞と非能格自動詞(探し回る、買い回る、触れ回る)という組み合わせは許されるが、これ以外の組み合わせは許されない(他動性調和の原則)。今後、「他動性調和の原則」以外に、日本語の複合動詞のV1とV2の制限を考察する。

次に、第2章の「ベトナム語の複合動詞」では、筆者はベトナム語の複合動詞を主従関係複合動詞と並立関係複合動詞の二つに分類した。今後、それらの二つの種類以外、日本語のような付帯状況関係複合動詞、原因結果複合動詞、補文関係複合動詞などの種類が存在するかを再検討する。

最後に、第4章の「日本語とベトナム語の複合動詞の対照研究」では、日本語とベトナム語の手段結果複合動詞と並立関係複合動詞を対照した。今後、日本語とベトナム語の手段結果複合動詞と並立関係複合動詞以外の、付帯状況関係複合動詞、原因結果複合動詞、補文関係複合動詞などのような種類を対照する。仮に、ベトナム語には、これらが存在しなかったら、日本語の複合動詞の種類を更に深く分析して、ベトナム語に対応する表現を研究する。

更に、日本語の複合動詞は動詞と動詞の組み合わせの中に「他動性調和の原則」以外に他の法則はないか検討し、一方で、ベトナム語の複合動詞にも制約がないか検討する。

ベトナム語と日本語の複合動詞の体系的な異同をさらに明らかにしたい。

参考文献

- Adele E. Goldberg and Ray Jackendoff (2004) “The English Resautative as a Family of Constructions”
University of Illinois Brandeis University.
- 浅井良策(2016)『結果構文に関する英語と日本語の対照研究』、*Bulletin of Osaka University of Pharmaceutical Sciences.*
- Cao Xuân Hạo(1998) “Về ý nghĩa “thì” và “thê” trong tiếng Việt”*Ngôn ngữ 5, Hà Nội.*
カオ・スアン・ハオ(1998)「ベトナム語の『テンス』と『アスペクト』の意味について」言語5、ハノイ。
- Cao Xuân Hạo(2007) “Tiếng Việt mấy vấn đề ngữ âm、 ngữ pháp、 ngữ nghĩa” *Nxb Giáo dục.*
カオ・スアン・ハオ(2007)『ベトナム語の音韻論、文法論、意味論』教育出版社。
- 沈力(2013)「結果複合動詞に関する日中対照研究—CAUSE 健在型と CAUSE 潜在型を中心に—」影山太郎(編)『複合動詞研究の最先端』ひつじ書房、pp.375—411.
- 陳劫懌(2009)「結果複合動詞の語形成の意味条件と生産性」、『東北大学大学院文学研究科言語科学論集』13、pp.83-94.
- 陳劫懌(2012)「語彙的複合動詞と統語的複合動詞の連続性について—再試行を表す「～直す」を対象として—」、『国語学研究』51、東北大学大学院文学、pp. 64-78.
- Diệp Quang Ban、 Hoàng Văn Thung (1996) “Ngữ pháp tiếng Việt 1” *Nxb Giáo dục, Hà Nội.*
ジェップ・クアン・バン、ホアン・バン・トゥン(1996)『ベトナム語の文法1』教育出版社、ハノイ。
- Diệp Quang Ban (1996) “Ngữ pháp tiếng Việt ” *Nxb Giáo dục, Hà Nội.*
ジェップ・クアン・バン(1996)『ベトナム語の文法』教育出版社、ハノイ。
- Diệp Quang Ban (2008) “Ngữ pháp tiếng Việt ” *Nxb Giáo dục, Hà Nội.*
ジェップ・クアン・バン(2008)『ベトナム語の文法』教育書房、ハノイ。
- Đỗ Hữu Châu(1986) “Cac bình diện của từ và từ tiếng Việt” *Nxb Khoa học Xã hội, Hà Nội.*
ドー・フーウ・チャウ(1986)『語彙の面とベトナム語の語彙』社会科学出版社、ハノイ。
- Đỗ Thi Kim Liên (1999) “Ngữ pháp tiếng Việt” *Nxb Giáo dục, Hà Nội.*
ドー・ティ・キム・リエン(1999)『ベトナム語の文法』教育出版社、ハノイ。
- Đình Văn Đức(1986) “Ngữ pháp tiếng Việt-từ loại-” *Nxb Đại học và Trung học chuyên nghiệp, Hà Nội.*
デイン・バン・ドック(1986)『ベトナム語の文法—品詞—』大学と専門高校出版社、ハノイ。
- Farrell and Phil Lesourd (1992) “Preverbs and Complex Predicates: Dimensions or Wordhood”
Proceedings of the Western Conference On Linguistics 5, pp.1-16.
- 姫野昌子(1975)「複合動詞『～つく』と『～つける』」『日本語学校論集』2、東京外国語大学、pp.52-71.
- 姫野昌子(1976)「複合動詞『～あがる』、『～あげる』および下降を表す複合動詞類」『日本語学校論集』3、東京外国語大学、pp.91-122.

- 姫野昌子(1978a) 「複合動詞『～こむ』、および内部移動を表す複合動詞類」『日本語学校論集』5、東京外国語大学、pp. 47-70.
- 姫野昌子(1978b) 「複合動詞『～かかる』と『～かける』」『日本語学校論集』6、東京外国語大学、pp. 37-61.
- 姫野昌子(1980) 「複合動詞『～きる』と『～ぬく』『～と おす』」『日本語学校論集』7、東京外国語大学、pp.23-46.
- 姫野昌子(1982a) 「対称を表す複合動詞—『～あう』と『～あわせる』をめぐって—」『日本語学校論集』9、東京外国語大学、pp. 17-52.
- Hoàng Văn Hạnh (1998)“Từ tiếng Việt” *Nxb Khoa học Xã hội, Hà Nội.*
ホアン・バン・ハン(1998)『ベトナム語の語彙』社会科学出版社、ハノイ.
- Hoàng Tuệ(1996)“Về quan hệ giữa từ pháp và cú pháp trong sự cấu tạo từ ghép tiếng Việt”*Ngôn ngữ và đời sống xã hội*、*Nxb Khoa học Xã hội, Hà Nội.*
ホアン・ツエ(1996)『ベトナム語の複合動詞における語彙とシンタクスの関係』言語と社会生活、社会科学出版社、ハノイ.
- Hồ Lê(1976)“Vấn đề cấu tạo từ của tiếng Việt hiện đại”*Nxb Khoa học Xã hội, Hà Nội.*
ホー・レ(1976)『ベトナム語の現代の語形成の問題』社会科学出版社、ハノイ.
- Hồ Lê(1986)“Về những đặc điểm cú pháp của kết cấu AB trong tiếng Việt”*Những vấn đề ngôn ngữ học về các ngôn ngữ phương Đông*、*Viện ngôn ngữ học, Ủy ban Khoa học Xã hội Việt Nam*、*Hà Nội.*
ホー・レ(1986)『ベトナム語におけるAB構成構造のシンタクスの得点』言語学と東洋言語の問題、言語学院、ベトナム社会科学委員会、ハノイ.
- 何志明(2002)「日本語の語彙的複合動詞における『並立関係』の複合動詞の組み合わせ」『言語学論叢』21、pp.40-58.
- 池谷知子(2003)『日本語複合動詞の研究—意味と統語のインターフェイス—』大阪大学、博士論文.
- 影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房.
- 影山太郎(1996)『動詞意味論』ひつじ書房.
- 影山太郎(1999)『形態論と意味』日英語対象による英語学演習シリーズ2、くろしお出版.
- 影山太郎(2001)「動詞研究の現在」(序章)、「自動詞と他動詞の交替」(第1章)、『日英対照 動詞の意味と構文』影山太郎 編、pp.3-39、大修館書店.
- 影山太郎(編)『複合動詞研究の最先端—謎の解明に向けて—』ひつじ書房.
- 金田一晴彦(1976)「国語動詞の一分類」『日本語の動詞のアスペクト』むぎ書房.
- レー・バン・クー(1990)「日越両語における複合動詞『～だす』と『～RA』との対照比較」『日本語教育』72、pp.117-144.

- レー・バン・クー(1995)「ベトナム語のムードの表現—取り立て『まで』とその対照表現をめぐって」『日本語の研究と教育』 pp.395-408.
- レー・バン・クー(1998)「ベトナム語のムード詞の意味的な特徴—『mói』の用法を中心」『東京言語文化の類型論特別プロジェクト研究報告書』II、pp.443-453.
- レー・バン・クー(1999)「ベトナム語のムード詞の意味的な特徴(その2)—『còn』の用法を中心」『東京言語文化の類型論特別プロジェクト研究報告書』III、pp.699-708.
- レー・バン・クー(2000)「<結果アスペクトの動詞+数量名詞句>の結合について—ベトナム語の"duoc"の場合—」『東京外大東南アジア学』東京外国語大学6、pp.19-28.
- Luu Ngan Tu Uyen『日本語とベトナム語の受身文の対照研究』修士論文 名古屋大学大学院人文学研究科.
- Mai Ngọc Chừ、Vũ Đức Nghiệu、Hoàng Trọng Phiến(1992)“Cơ sở ngôn ngữ học và tiếng Việt”*Nxb Đại học và Trung học chuyên nghiệp*、Hà Nội.
- マイ・ゴック・チュ、ヴー・ドック・グエン・ホアン・チョン・フエン(1992)『言語学とベトナム語の基礎』大学および専門高校出版社、ハノイ.
- Matsumoto、Yo(1996)“Complex Predicates in Japanese: A Syntactic and Semantic Study of the Notion ‘Word’、*Stanford: CSLI*、*Tokyo: Kurosio Publishers*.
- 松本曜(1998)「日本語の語彙的複合動詞における動詞の組み合わせ」『言語研究』114、pp.37-83
- 松本曜(2002)「使役移動構文における意味的制約」西村義樹(編)『認知言語学I：事象構造』東京大学出版会、pp.187-211.
- Mikami Naomitsu(1981)“Serial Verb Construction in Vietnamese and Combodian”『言語研究』79、pp.95-117.
- 三上直光(2007)「ベトナム語の結果表現について」『言語文化研究所紀要』38、pp.169-189.
- 宮腰幸一(2012)「日本語結果表現に関する予備的考察」『論議現代語・現代文』9、pp.1-43.
- 望月圭子、申亜敏(2011)「日本語と中国語の複合動詞の語形成」、『汉日语言对比研究论丛第二辑』2、pp.46-72.
- 村上雄太郎(2008)「文法化の観点から見るベトナム語の補助動詞 *đi* の意味と用法—日本語の『ていく』との対照を試みて—」『東京外大東南アジア学』13、pp.35-47.
- 村上雄太郎(2010)「方向動詞の文法化—ベトナム語の *đến* (着く) の場合—」『アジア言語論叢』8、pp.65-82.
- 村上雄太郎(2013)「ベトナム語の方向動詞'vao'の文法化：日本語の『こむ』との対照を試みて」『神戸市外国語大学外国学研究』83、pp.3-18.
- 森田良行(1990)『日本語学と日本語教育』凡入社.
- 名倉綾子(2011)「タイ語と日本語の受け身文の対照研究—日本語受け身文のタイ語への翻訳から—」『東京外国語大医学記述言語学論集』7、pp.169-176.
- 長嶋善朗(1976)「複合動詞の諸相」鈴木孝夫(編)『日本語講座第4巻:日本語の語彙と表現』

63-104. 大修館書店、pp.75、98.

- Nguyễn Tài Cẩn (1996)“Ngữ pháp tiếng Việt” *Nxb Đại học Quốc Gia Hà Nội*.
グエン・タイ・カン(1996)『ベトナム語の文法』国家大学出版社ハノイ.
- Nguyễn Tài Cẩn (1999)“Ngữ pháp tiếng Việt” *Nxb Đại học Quốc Gia Hà Nội*.
グエン・タイ・カン(1999)『ベトナム語の文法』国家大学出版社ハノイ.
- Nguyễn Thiện Giáp(1996)“Từ và nhận diện từ trong tiếng Việt” *Nxb Giáo dục , Hà Nội*.
グエン・ティエン・ヂャップ(1996)『ベトナム語の語と語の認識』教育出版社、ハノイ.
- Nguyễn Thiện Giáp(1998)“Từ vựng học tiếng Việt” *Nxb Giáo dục , Hà Nội*.
グエン・ティエン・ヂャップ(1998)『ベトナム語の語彙論』教育出版社、ハノイ.
- Nguyen Thi Thu Huong(2010) “Cấu trúc gây khiên – kết quả trong tiếng Anh và tiếng Việt” 博士論文 *Đại học Quốc Gia Hà Nội*.
グエン・トゥー・フオン(2010)『英語とベトナム語の使役—結果の構成構造』国家大学博士論文.
- Nguyen Thi Quy(1994) “Vị từ hành động tiếng Việt và các tham tố của nó —So sánh với tiếng Nga và tiếng Anh—” 博士論文 *Viện khoa học xã hội tại thành phố Hồ Chí Minh*.
グエン・ティ・クイ(1994)『ベトナム語の行為動詞と項要素—ロシア語と英語を対照—』ホチミン市の社会科学院 博士論文.
- Nguyen Thi Ai Tien(2014) 『日本語とベトナム語における使役表現の対照研究—他動詞、テモヨウニウとの連続性—』大阪大学 博士論文.
- Nguyễn Thị Việt Thanh (2000) “Về một số phương thức cấu tạo từ ghép trong tiếng Nhật”*Kỷ yếu hội thảo Quốc tế Ngôn ngữ học Pan-Seatics, TP Hồ Chí Minh*.
グエン・ティ・ベト・タン(2000)『日本語の複合語の構成構造の方法について』Pan-Seaticsの言語学の国際会議、ホチミン市.
- Nguyễn Thị Việt Thanh (2000) “Ngữ pháp tiếng Nhật” *Nxb Đại Học Quốc Gia Hà Nội, Hà Nội*.
グエン・ティ・ベト・タン(2000)『日本語の文法』ハノイ国家大学出版社、ハノイ.
- Nguyễn Kim Thân (1977) “Động từ trong Tiếng Việt ” *Nhà xuất bản khoa học xã hội*.
グエン・キム・タン(1977)『ベトナム語の動詞』社会科学出版社.
- Nguyen Thi Ha Thuy(2014) 「ベトナム語指示詞について:日本語・韓国語の指示詞との対照を基に」 『京都大学言語学研究』33、pp.167-195.
- Nguyễn Hoàng Trung (2006)“Thể trong tiếng Việt(so sánh với tiếng Pháp và tiếng Anh)”.博士論文、*Trường Đại học KHXH&NV, Đại học Quốc Gia Tp.HCM.*
グエン・ホアン・チュン(2006)「ベトナム語におけるアスペクト『フランス語と英語を対照する』」博士論文、KHXH&NV大学、国家大学、ホチミン市.
- Nguyen Hoang Trung(2014) “Vài nét về kết cấu gây khiên trong tiếng Việt ” *Tạp chí khoa học DHSPTPHCM* 63、16-27.

グエン・ホアン・チュン(2014)『ベトナム語の使役の構成構造について』科学雑誌 DHSPTPHCM 63, pp.16-27.

Nguyen Thi Hai Yen(2016) “Các kiểu cấu trúc kết quả tiếng Việt, ” *Tạp chí khoa học DHSPTPHCM*, 2(80), 33-42.

グエン・ティ・ハイ・イエン(2016)『ベトナム語の結果構文』科学雑誌 DHSPTPHCM, 2(80), pp.33-42.

Nguyen Thi Hai Yen(2016) “Về cặp vị từ gây khiến – khởi trạng trong tiếng Việt, ” *Tạp chí khoa học DHSPTPHCM* 8(86), pp.77-88.

グエン・ティ・ハイ・イエン(2016)「ベトナム語の使役と結果の構造」科学雑誌 DHSPTPHCM, 2(80), pp.33-42.

奥田靖雄 (1984) 「アスペクトをめぐって」『言葉の研究・序説』むぎ書房.

Shin Fukuda(2006) “The Projection of Telicity in Vietnamese ”University of California, San Diego.

朱 茜(2017)「日中語の『動詞+動詞』型複合動詞の対照研究—語彙的複合動詞と統語的複合動詞の違い—」『現代社会文化研究』65, pp.93-104.

鈴木重幸(1972)『日本語文法・形態論』むぎ書房.

Tagashira, Yoshiko(1978) “Characterization of Japanese Compound Verbs”Ph.D. dissertation , *University of Chicago*.

寺村秀夫 (1969) 「活用語尾・助動詞・補助動詞とアスペクト(その一)」、『日本語・日本文化』1, pp.32-48.

寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味II』、くろしお出版、東京.

Thompson, Laurence C.(1965) “A Vietnamese Grammar” *University of Washington Press*.

Trần Thi Chung Toàn(2002) “Động từ phức hợp tiếng Nhật và các đơn vị tạo nghĩa tương đương trong tiếng Việt” 博士論文 *Đại học Quốc Gia Trường ĐHKHXH&NV*.

チャン・ティ・チュン・トアン(2002)『日本語の複合動詞とベトナム語に対応する表現』博士論文、*ĐHKHXH&NV 国家大学*.

Trần Thi Chung Toàn(2004) “Sổ tay động từ phức tiếng nhật (日本語の複合動詞のハンドブック)”*Nxb Đại học Quốc Gia*.

山根一文(2013)「英語の結果構文における結果述語の認可条件」、『中村学園大学短期大学部研究紀要』45、中村学園大学 pp.59-64.

由本陽子(1996)「語形成と語彙概念構造—日本語の『動詞+動詞』の複合形成について—」奥田博之教授退官記念論文集刊行会(編)『言語と文化の諸相—奥田博之教授退官記念論文集—』英宝社 pp.105-118.

由本陽子(2001)「複雑述語の形成」(第10章)、『日英対照動詞の意味と構文』影山太郎編、大修館書店 pp.269-296.

由本陽子(2005)『複合動詞・派生動詞の意味と統語』、ひつじ書房、東京.

和田学(2011a)「二つの語彙的緊密性-韓国語(と日本語)の複合動詞」、『山口大学文学会志』
61、pp.83-104.

和田学(2015)「日本語と韓国語の複合移動動詞」、『九州大学言語学論集』35、pp.267-286.

和田学 201(2015)『日本語と韓国語の複雑述語のタクソノミー』九州大学 論文博士.

謝辞

2017年にベトナム文部省国際協力教育開発局(Vietnam International Education Development –Ministry of Education and Training) の奨学金を得、留学の夢がかなえられました。誠にありがとうございました。

日本で、勉強するという貴重な機会を与えてくださった山口大学、そして、指導を引き受けてくださった和田学先生に心より感謝の意を表いたします。

和田先生は日本語の能力から言語知識に至るまで、筆者の勉強不足を博士後期課程の主旨導教授として熱心に指導をしてくださいました。先生の親身な激励と指導がなければ、今日の論文完成まで至らなかったでしまいます。言葉では表せない程、感謝の念で一杯です。

副指導教授の更科慎一先生、そして、富平美波先生の議論は本論文に大きな表俊をくださいました。どうもありがとうございました。

また、本論文の作成に当たって、外部審査員の NGUYEN THI BICH HA 先生に対して心より感謝をいたします。HA 先生は日本語のみならずベトナム語についての知識も与えてくださいました。

そして、日本語の添削を行ってくれた大谷泰子にも感謝を表したい。分かりにくい表現根気強く直したり、貴重なコメントをしてくれたりした。

その他にも、お世話になった方々、一人ひとりのお名前をすべて上げることができませんが、ここに感謝の意味を表します。

この論文を書き上げるには両親の大きな支授と励ましがありませんでした。そして、最後に最大の感謝を夫に捧げたいと思います。3年間の博士課程の間、私に好きなことをする自由をくれたばかりではなく、常に温かく見守り、勇気づけてくれました。彼の協力無しにはこの論文はとうてい仕上がらなかったでしまいます。